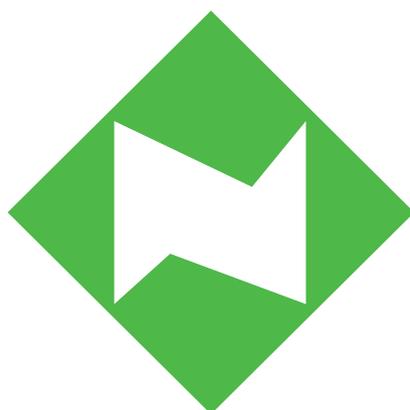


平成23年版

# 日生病院年報

(平成23年1月～12月)



第10卷

公益財団法人 日本生命済生会付属

日生病院



## 平成23年日生病院年報の発刊にあたって

院長 寺川 直樹

常日頃は日生病院に対しまして暖かいご支援を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

日生病院は昭和6年、財団法人日本生命済生会の基本理念「済生利民」のもとに開院し、その後、80年にわたり職員の努力と関係各位のご支援により、大阪市内の基幹病院の一つとして発展して参りました。お蔭様で、昨年6月には開院80周年を迎えることが出来ました。

近年、わが国の医療は大変厳しい状況にありますが、当院は高水準の急性期病院であり、人材を育成する臨床研修病院であることを基本に、病院運営を行って参りました。診療機能の強化と地域医療への貢献を目指して、平成19年に「がん治療センター」と「低侵襲医療センター」を立ち上げ、20年には「糖尿病センター」を、昨年は「消化器内視鏡センター」を開設しました。これらセンターはお蔭様で順調に稼働しております。

地域におけるがん診療活動が認定されて、当院は平成21年に「大阪府がん診療拠点病院」の指定を受けました。当院ではがん診療のみならず、循環器内科における血管内治療をはじめとして、多くの急性期疾患ならびに高度医療に幅広く対応させて頂いております。当院が果たすべき分野の予防医学につきましても、お蔭様で「ニッセイ予防医学センター」が順調に稼働しております。

なお、日本生命済生会は本年4月に、地域に対する予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療を提供する事業が大阪府の認定を受け、公益財団法人に移行しましたのでお知らせ致します。

これからも地域の先生方との連携を密にして、日生病院がより一層お役に立てる病院となりますよう、職員一同、努力して参ります。今後とも当院に対しましてご支援とご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



---

# 目 次

---

平成 23 年日生病院年報の発刊にあたって

院長 寺川 直樹

## 第 1 章 軌 跡

日生病院の概要・日生病院理念と基本方針	1
患者様の権利について・学会認定	2
日本生命済生会組織図	3

## 第 2 章 病院統計

1. 一日平均外来患者数	4
2. 一日平均入院患者数	5
3. 救急患者数	6
4. 病床稼働率	7
5. 産科関係件数	8
6. 手術件数	8
7. 薬剤関係件数	9
8. リハビリテーション関係件数	10
9. レントゲン・RI・CT関係件数	10
10. 中央臨床検査部検査件数	11
11. 生理検査関係件数	12
A. 脳波関係	12
B. 超音波検査室	12
C. 生理検査室	12
D. 内視鏡関係	12
E. 眼科(屈折、眼圧)検査関係	13
F. 眼科(網膜、神経)検査関係	13
G. 耳鼻科(平衡、聴力)検査関係	13
12. 医療生活相談室関係件数	14
A. 取扱件数	14
B. 新規ケース紹介経路	14
13. 各科別医療収入	16
14. 医療行為別医療収入	18
15. 病院従業員数	20
16. 退院患者統計	21
1) 退院患者医療評価指標	21
2) 診療科別・月別・退院患者数	23
3) 診療科別・月別・死亡剖検数	24
4) 疾病統計	25
5) 手術統計	26
6) 紹介入院患者 疾患トップ20	34

---

# 目 次

---

## 第3章 診療業務

◆循環器内科・神経内科	37
◆消化器内科	38
◆総合内科	39
◆血液・化学療法内科	40
◆神経科・精神科	41
◆小児科	42
◆消化器・一般外科	43
◆乳腺外科	44
◆整形外科	45
◆皮膚科	46
◆泌尿器科	47
◆産婦人科	48
◆眼 科	49
◆耳鼻咽喉科	50
◆放射線科	51
◆麻酔・緩和医療科	52
◆病理診断科	53
◆救急診療科	54
◆がん治療センター	55
◆低侵襲医療センター	56
◆生活習慣病センター	57
◆消化器内視鏡センター	58
◆ニッセイ予防医学センター	59

## 第4章 部別概要

◆中央臨床検査部	60
◆看護部	61
◆薬剤部	62
◆治験管理室	63
◆リハビリテーション室	64
◆栄養管理室	65
◆医療生活相談室	66
◆地域医療連携室	67
◆業績	68

## 第5章 諸活動

◆診療科別教育	84
◆全体教育	85
◆地域活動	95
◆ボランティア	96
◆院内行事	97

### ～日生病院の概要～

公益財団法人日本生命済生会は大正13年に「済生利民」を基本理念として創設されました。日生病院は、財団法人日本生命済生会の附属病院として、昭和6年6月に開院され、昨年6月には開院80周年を迎えることができました。当院は大阪市西部の地域基幹病院・臨床研修指定病院として、急性期医療の充実と患者様サービスの向上ならびに医療人の育成に努めております。当院は、平成13年に日本医療機能評価機構より病院機能評価の認定を取得、平成23年1月には審査体制区分3（Ver6.0）での訪問審査を受審し、更新認定を受けました。

日生病院は、診療機能の強化と地域医療への貢献を目指して取り組んで参りました。平成19年には、患者様にやさしい治療であるカテーテル治療や内視鏡手術の推進を目的に、低侵襲医療センターを開設し、排尿障害の電話相談などにも対応しています。また、同年には、がん患者の増加を踏まえ、各科医師によるチーム医療を提供し、緩和医療にも取り組むため、がん治療センターを立ち上げました。平成20年10月には乳腺外科の新設を行い、大阪市乳がん検診（マンモグラフィ）取扱い機関に認定されました。併せて緩和ケアチームの充実にも力を注いでいます。このように地域におけるがん診療活動が認定されて、平成21年4月には、大阪府が定めた「大阪府がん診療拠点病院」に指定されました。一方で、わが国における疾病構造の変化にも対応して、平成20年7月には生活習慣病センター（平成24年4月に糖尿病センターに改組）を開設しました。加えて、当院では循環器内科における血管内治療をはじめとして多くの急性期疾患および高度医療に幅広く対応させていただいております。

また、予防医学の重要性に鑑み、「ニッセイ予防医学センター（人間ドック、定期健康診断）」の強化充実へ取り組んでおります。平成17年に日本人間ドック学会の優良施設「人間ドック・健診施設機能評価」の認定を取得、平成22年には機能評価Ver.2での更新認定を受けました。ご利用者の方も順調に増加しております。

今後とも診療機能の充実を図ってまいります。どうぞよろしくご願い申し上げます。

### ～日生病院理念と基本方針～

#### 理念

日生病院は（公財）日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

#### 基本方針

1. 患者様の立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 社会に学び、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。

## ～患者様の権利について～

医療は患者様と医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合って作り上げていくものです。日生病院では、患者様中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者様の権利を大切にいたします。

1. 患者様は、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者様は、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者様は、十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者様は、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者様は、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

なお、患者様におかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

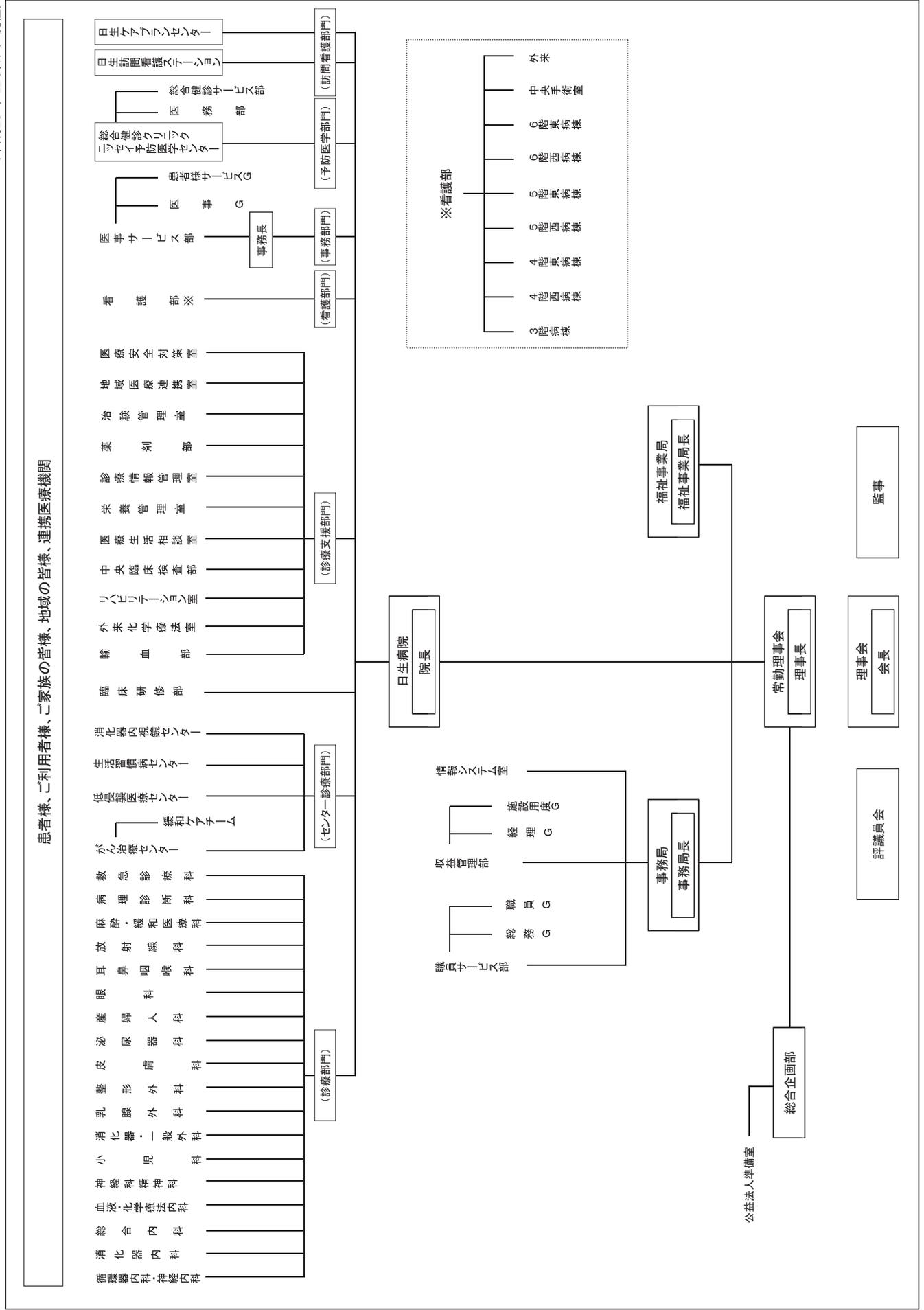
## ～学会認定～

- 日本内科学会
- 日本整形外科学会
- 日本血液学会
- 日本超音波医学会
- 日本循環器学会
- 日本皮膚科学会
- 日本眼科学会
- 日本病理学会
- 日本消化器外科学会
- 日本 IVR 学会
- 日本高血圧学会
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本外科学会
- 日本泌尿器科学会
- 日本耳鼻咽喉科学会
- 日本アレルギー学会
- 日本産婦人科学会
- 日本麻酔科学会
- 日本小児科学会
- 日本臨床腫瘍学会
- 日本糖尿病学会
- 日本心血管インターベンション治療学会
- 日本静脈経腸栄養学会
- 日本医学放射線学会
- 日本ペインクリニック学会
- 日本リウマチ学会
- 日本臨床細胞学会
- 日本緩和医療学会
- 日本内分泌学会
- 日本乳癌学会
- 日本消化器病学会
- 日本神経学会
- 日本肝臓学会
- 日本消化器内視鏡学会

(平成 23 年 12 月 31 日現在)

財団法人 日本生命済生会組織図

(平成23年12月末現在)



## 第2章 病院統計

### 1 一日平均外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計平均
内科 (計)	315人 (295)	298人 (289)	294人 (281)	300人 (281)	299人 (295)	260人 (273)	284人 (284)	256人 (278)	282人 (306)	283人 (304)	290人 (321)	290人 (319)	288人 (294)
循環器内科 神経内科	109 (96)	104 (91)	103 (90)	106 (92)	107 (96)	83 (87)	90 (91)	81 (96)	87 (102)	93 (108)	93 (112)	90 (108)	96 (97)
消化器内科	65 (57)	59 (58)	56 (56)	55 (59)	55 (60)	49 (54)	58 (59)	52 (56)	59 (64)	55 (61)	57 (64)	57 (60)	56 (59)
総合内科	113 (114)	108 (114)	109 (110)	112 (105)	108 (109)	101 (104)	108 (104)	97 (102)	108 (110)	109 (107)	111 (117)	116 (121)	108 (110)
血液内科	28 (28)	27 (26)	26 (25)	27 (25)	29 (30)	27 (28)	28 (30)	26 (24)	28 (30)	26 (28)	29 (28)	27 (30)	27 (28)
神経科・精神科	67 (61)	66 (61)	66 (62)	67 (63)	70 (66)	61 (63)	66 (64)	62 (64)	70 (64)	67 (68)	67 (68)	63 (70)	66 (65)
小児科	43 (54)	44 (51)	43 (63)	44 (43)	49 (43)	49 (39)	41 (40)	43 (37)	39 (36)	47 (41)	50 (51)	47 (55)	45 (46)
外科 (計)	44 (42)	42 (40)	40 (38)	41 (40)	41 (43)	41 (40)	41 (43)	37 (37)	41 (44)	44 (47)	44 (41)	45 (45)	42 (42)
消化器・一般外科	27 (29)	27 (27)	24 (24)	25 (24)	26 (26)	25 (25)	23 (26)	21 (22)	23 (27)	26 (29)	24 (25)	25 (28)	25 (26)
乳腺外科	17 (13)	15 (13)	16 (14)	16 (16)	15 (17)	16 (15)	18 (17)	16 (15)	18 (17)	18 (18)	20 (16)	20 (17)	17 (16)
整形外科	75 (71)	69 (70)	72 (67)	76 (77)	85 (81)	72 (74)	71 (76)	74 (75)	75 (75)	75 (78)	72 (82)	74 (75)	74 (72)
皮膚科	117 (106)	111 (108)	118 (110)	118 (113)	116 (116)	113 (111)	117 (123)	110 (117)	112 (120)	118 (115)	114 (123)	114 (120)	115 (115)
泌尿器科	53 (50)	55 (51)	53 (48)	50 (51)	55 (52)	45 (45)	53 (48)	47 (44)	55 (50)	52 (46)	50 (51)	54 (51)	52 (49)
産婦人科	71 (73)	74 (78)	69 (77)	70 (73)	77 (80)	67 (75)	72 (76)	65 (75)	66 (76)	76 (76)	75 (79)	70 (75)	71 (76)
眼科	60 (57)	65 (56)	66 (60)	64 (59)	65 (59)	66 (58)	61 (59)	51 (59)	55 (62)	55 (62)	59 (64)	59 (66)	61 (60)
耳鼻咽喉科	65 (71)	66 (74)	64 (76)	64 (77)	64 (81)	60 (66)	63 (74)	56 (71)	58 (63)	61 (59)	59 (64)	62 (65)	62 (70)
放射線科	17 (14)	23 (18)	17 (20)	12 (14)	12 (16)	15 (20)	14 (16)	12 (19)	15 (18)	18 (19)	16 (17)	17 (23)	16 (18)
麻酔・緩和医療科	28 (25)	27 (25)	28 (25)	25 (26)	23 (26)	22 (23)	26 (26)	23 (24)	25 (26)	24 (27)	25 (26)	26 (26)	25 (24)
救急診療科	- -	- -	- -	5 -	8 -	9 -	10 -	14 -	11 -	11 -	12 -	10 -	10 -
その他 ワクチン外来	0 (6)	0 (2)	0 (0)										
合計	953 (925)	940 (925)	929 (929)	936 (918)	963 (957)	879 (888)	919 (930)	850 (901)	904 (940)	933 (942)	930 (985)	930 (989)	922 (936)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入

2. ( )内は前年同月

3. 救急診療科 H23.4から

4. H23.4より麻酔科から麻酔・緩和医療科へ

[医事G]

2 一日平均入院患者数

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		累計平均	
内科 (計)	135人 (112)	38人	144人 (126)	38人	142人 (120)	34人	132人 (120)	31人	127人 (114)	22人	125人 (118)	24人	138人 (132)	24人	133人 (134)	31人	121人 (136)	24人	122人 (131)	24人	119人 (130)	30人	124人 (141)	20人	130人 (126)	28人
循環器内科 神経内科	62 (39)	10	69 (40)	9	69 (40)	8	59 (44)	6	55 (43)	7	54 (50)	7	61 (52)	7	53 (55)	11	48 (59)	10	44 (56)	5	45 (57)	6	54 (69)	6	56 (50)	8
消化器内科	15 (15)	2	16 (19)	2	18 (21)	4	19 (22)	3	16 (19)	2	16 (20)	2	18 (23)		21 (22)	1	18 (25)		16 (23)		15 (23)		16 (21)		17 (21)	1
総合内科	33 (33)	26	34 (40)	27	32 (36)	21	30 (28)	20	29 (29)	11	31 (27)	15	28 (29)	17	33 (27)	18	31 (28)	11	33 (26)	17	32 (25)	20	26 (28)	13	31 (30)	18
血液内科	25 (25)		25 (27)		23 (23)	1	24 (26)	2	27 (23)	2	24 (21)		31 (28)		26 (30)	1	24 (24)	3	29 (26)	2	27 (25)	4	28 (23)	1	26 (25)	1
神経科・精神科	11 (16)	3	11 (14)	4	16 (17)	4	16 (15)	4	16 (13)	1	21 (15)	1	22 (15)		17 (18)	1	14 (21)	2	16 (16)	2	14 (16)	2	10 (13)	2	15 (16)	2
小児科	5 (8)		8 (6)		4 (7)		6 (7)		6 (7)		8 (8)		6 (7)		7 (6)		8 (7)		5 (5)		5 (5)		4 (8)		6 (7)	0
外科 (計)	27 (21)	2	23 (24)	2	25 (23)	3	26 (24)	3	21 (18)	3	18 (22)	8	21 (25)	6	23 (26)	3	20 (19)	3	24 (23)	2	19 (23)	2	25 (28)	6	23 (23)	4
消化器・一般外科	24 (19)		19 (21)		23 (21)		24 (21)		18 (15)		17 (19)		18 (20)		20 (22)		17 (16)		19 (19)		15 (19)		21 (25)		20 (20)	0
乳腺外科	3 (2)		4 (3)		2 (2)		2 (3)		3 (3)		1 (3)		3 (5)		3 (4)		3 (3)		5 (4)		4 (4)		4 (3)		3 (3)	0
整形外科	27 (28)	7	35 (28)	7	31 (27)	7	24 (22)	6	27 (27)	1	25 (24)	3	28 (25)	3	24 (30)	6	28 (29)	3	24 (26)	4	27 (29)	5	28 (25)	6	27 (27)	5
皮膚科	7 (11)	4	10 (14)	4	11 (9)		10 (13)		8 (18)		9 (12)	1	9 (9)	3	10 (13)	4	11 (17)		11 (14)	1	11 (12)	1	9 (9)	1	10 (13)	2
泌尿器科	12 (12)		16 (16)		18 (17)	2	16 (13)	3	12 (11)	2	10 (11)	1	16 (11)	1	14 (10)	1	11 (13)	2	10 (14)	1	10 (14)		10 (12)		13 (13)	1
産婦人科	33 (30)	1	32 (34)	1	37 (37)	1	37 (40)	1	28 (35)		41 (35)	1	39 (42)		35 (38)		37 (40)		35 (43)	1	29 (32)	1	33 (33)		35 (37)	1
眼科	6 (7)	1	9 (8)	1	7 (9)	1	7 (7)	1	6 (10)	1	8 (10)		5 (7)		4 (6)		4 (7)		7 (9)	1	8 (9)	1	7 (6)		7 (8)	1
耳鼻咽喉科	14 (14)		13 (18)		15 (16)		12 (15)		8 (14)		13 (13)		15 (17)		17 (17)		14 (12)		10 (16)		8 (12)		8 (15)		12 (15)	0
放射線科	0 (0)		0 (0)	0																						
麻酔・緩和医療科	0 (0)	2	0 (1)	1	0 (0)	1	0 (0)	1	0 (0)		0 (1)		0 (2)		0 (1)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		1 (0)		0 (0)	0
救急診療科	-		-		-		1		0		1		0		2		0		1		1		0		1	0
合計	276 (260)	58	302 (289)	58	307 (281)	53	287 (276)	50	258 (267)	30	280 (269)	39	299 (292)	37	286 (299)	46	267 (299)	34	265 (295)	36	250 (283)	42	260 (290)	35	278 (283)	43

(注) 1. 明朝体数字は、共観数

[医事G]

2. ( )内は前年同月

3. 救急診療科 H23.4から

4. H23.4より、麻酔科から麻酔・緩和医療科へ

### 3 救急患者数

	人 数												内、入院数												累 計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	<入院>
内科(計)	475	374	391	343	353	270	310	260	239	235	243	291	72	63	86	94	97	102	91	90	82	76	83	107	3784	<1,043>
循環器内科	133	100	127	136	105	89	95	84	71	76	80	85	45	30	40	52	43	45	39	36	35	28	37	43	1181	<473>
消化器内科	74	54	46	47	69	41	46	48	34	32	17	35	4	9	13	16	17	12	9	15	10	10	10	13	543	<138>
総合内科	224	173	184	121	127	111	137	102	103	103	109	146	20	14	27	21	27	38	32	29	25	31	29	40	1640	<333>
血液・ 化学療法 内科	44	47	34	39	52	29	32	26	31	24	37	25	3	10	6	5	10	7	11	10	12	7	7	11	420	<99>
神経科・精神科	5	5	5	3	11	6	4	7	4	4	5	2	1	2	1	0	7	1	0	1	2	0	4	0	61	<19>
小児科	22	31	28	37	39	38	24	34	30	22	28	18	15	22	22	25	23	28	20	28	21	13	17	10	351	<244>
外科(計)	36	20	24	28	29	22	27	21	24	30	26	37	19	13	10	14	7	14	11	11	12	19	11	13	324	<154>
消化器一般外科	35	19	23	27	26	22	23	19	23	24	23	29	18	13	10	14	5	14	10	11	11	14	11	9	293	<140>
乳腺外科	1	1	1	1	3	0	4	2	1	6	3	8	1	0	0	0	2	0	1	0	1	5	0	4	31	<14>
整形外科	19	11	8	21	15	12	16	18	12	13	11	11	10	6	5	11	9	6	8	11	3	7	5	5	167	<86>
皮膚科	45	42	86	88	112	68	125	103	97	97	74	53	11	4	10	13	12	9	13	13	9	12	14	12	990	<132>
泌尿器科	17	5	6	13	10	11	9	17	13	12	10	14	5	2	5	5	5	6	4	3	5	3	5	5	137	<53>
産婦人科	151	135	168	104	144	151	146	146	165	156	113	138	41	29	51	31	26	41	37	36	39	28	18	23	1717	<400>
眼 科	2	3	2	0	0	2	1	3	1	4	1	4	1	1	1	0	0	0	1	1	1	2	0	3	23	<11>
耳鼻咽喉科	20	22	14	18	25	15	24	24	24	18	9	22	12	11	9	8	10	12	12	14	14	4	3	11	235	<120>
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	<0>
麻酔・緩和医療科	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	<1>
救急診療科	0	0	0	42	63	100	98	66	27	90	100	112	0	0	0	3	1	2	2	6	2	3	2	3	698	<24>
<b>合 計</b>	<b>792</b>	<b>648</b>	<b>732</b>	<b>698</b>	<b>801</b>	<b>695</b>	<b>785</b>	<b>699</b>	<b>636</b>	<b>681</b>	<b>621</b>	<b>712</b>	<b>187</b>	<b>153</b>	<b>200</b>	<b>204</b>	<b>197</b>	<b>221</b>	<b>199</b>	<b>214</b>	<b>190</b>	<b>167</b>	<b>163</b>	<b>192</b>	<b>8500</b>	<b>&lt;2,287&gt;</b>

[医事G、総務G]

#### 4 病床稼働率

	定床	定床	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計平均	前年度累計平均
3階	60床	1日平均患者数	43人	50人	54人	50人	38人	41人	51人	47人	41人	42人	39人	44人	45人	45人
		稼働率	71.8%	82.7%	89.5%	82.7%	63.6%	68.1%	84.2%	78.8%	68.3%	70.0%	65.0%	73.3%	75.0%	75.4%
4階(西)	60	1日平均患者数	49	55	54	48	46	44	50	47	43	45	44	44	47	49
		稼働率	82.0	91.4	90.3	79.4	76.1	73.7	83.1	78.1	71.7	75.0	73.3	73.3	79.0	81.0
4階(東)	51	1日平均患者数	43	45	44	44	38	43	47	43	37	38	34	38	41	42
		稼働率	85.0	89.1	87.2	86.5	74.3	84.7	91.5	84.6	72.5	74.5	66.7	74.5	80.7	82.0
5階(西)	44	1日平均患者数	41	42	42	38	38	39	42	41	37	38	38	38	40	38
		稼働率	92.3	95.4	94.5	86.2	86.8	89.4	94.5	93.0	84.1	86.4	86.4	86.4	89.8	86.2
5階(東)	49	1日平均患者数	37	47	47	42	38	42	43	42	42	40	38	38	41	43
		稼働率	76.0	95.3	95.4	85.8	78.5	86.6	88.4	84.9	85.7	81.6	77.6	77.6	84.4	87.1
6階(西)	42	1日平均患者数	38	38	41	38	37	38	40	38	37	36	36	34	38	38
		稼働率	90.2	91.3	96.6	91.5	86.9	89.7	94.4	91.3	88.1	92.9	85.7	81.0	89.5	89.9
6階(東)	27	1日平均患者数	19	17	21	22	17	24	21	21	23	21	17	20	20	22
		稼働率	69.8	63.9	79.3	80.0	63.8	89.8	77.1	78.9	85.2	77.8	63.0	74.1	75.0	83.0
小計	333	1日平均患者数	270	294	303	281	252	272	292	279	259	260	246	256	272	276
		稼働率	81.2	88.3	90.9	84.4	75.7	81.7	87.8	83.9	77.8	78.1	73.6	76.9	81.8	83.0
小児	10	1日平均患者数	3	6	3	5	4	5	4	5	5	4	4	2	4	4
		稼働率	50.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	41.7	43.3
未熟児	7	1日平均患者数	2	2	1	1	2	2	2	2	3	1	0	2	2	2
		稼働率	33.6	27.6	10.6	18.6	22.1	35.2	29.0	26.7	42.9	14.3	0.0	28.6	23.8	33.3
合計	350	1日平均患者数	276	302	307	287	258	280	299	286	267	265	250	260	278	283
		稼働率	78.9	86.3	87.7	82.0	73.7	80.0	85.3	81.7	76.3	75.7	71.4	74.3	79.5	80.9

[医事G]

## 5 産科関係件数

科名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
分娩	43	33	40	38	32	37	33	41	52	36	27	35	447	387
帝王切開	7	5	2	8	6	8	6	7	9	6	4	8	76	82
両親学級	66	51	17	65	51	43	41	54	29	53	32	36	538	603
マタニティビクス	27	48	72	57	24	26	43	30	91	33	45	53	549	551
アフタービクス	32	38	45	29	24	36	33	30	35	36	44	31	413	497
ベビービクス	59	77	105	81	76	86	82	89	91	65	86	62	959	810
マタニティヨガ	38	52	59	37	16	24	32	31	45	46	58	34	472	402

[産婦人科]

## 6 手術件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
消化器・ 一般外科	29 (23)	21 (14)	29 (25)	31 (24)	24 (18)	25 (19)	22 (19)	27 (25)	16 (15)	22 (16)	23 (16)	23 (19)	292 (233)	330 (268)
乳腺外科	6 (6)	4 (3)	3 (2)	7 (3)	8 (4)	5 (3)	6 (4)	9 (6)	7 (4)	8 (5)	6 (5)	6 (4)	75 (49)	67 (52)
整形外科	15 (12)	23 (14)	21 (10)	17 (9)	17 (8)	17 (10)	13 (7)	15 (7)	15 (11)	16 (8)	23 (16)	15 (6)	207 (118)	211 (132)
婦人科	70 (46)	71 (50)	81 (64)	77 (51)	54 (32)	95 (69)	80 (57)	60 (46)	79 (57)	68 (51)	61 (45)	83 (53)	879 (621)	878 (623)
泌尿器科	28 (6)	34 (12)	40 (14)	27 (12)	20 (6)	24 (6)	35 (9)	43 (9)	28 (10)	16 (5)	24 (6)	24 (5)	343 (100)	324 (94)
耳鼻科	24 (15)	23 (14)	34 (26)	24 (19)	21 (11)	20 (12)	27 (19)	33 (24)	17 (14)	13 (7)	18 (12)	13 (8)	267 (181)	270 (207)
眼科	72 (0)	72 (1)	86 (0)	60 (0)	67 (0)	82 (0)	56 (0)	37 (0)	42 (0)	67 (0)	69 (0)	61 (0)	771 (1)	686 (3)
皮膚科	14 (0)	13 (0)	19 (0)	18 (0)	12 (1)	20 (0)	13 (1)	16 (0)	17 (1)	16 (1)	18 (2)	12 (1)	188 (7)	216 (3)
麻酔・ 緩和医療科	2 (0)	5 (0)	5 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	5 (0)	4 (0)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	42 (0)	78 (0)
合計	260 (108)	266 (108)	318 (141)	264 (118)	225 (80)	291 (119)	256 (116)	245 (117)	225 (112)	230 (93)	244 (102)	240 (96)	3064 (1310)	3060 (1382)

[中央手術材料部、麻酔・緩和医療科]

- 1.中央手術室以外での手術、麻酔は含まれない。
- 2.( )内は全身麻酔。

## 7 薬剤関係件数

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計		
処方箋	外来	枚数	枚数	1,784	1,775	1,931	1,762	1,882	1,853	1,837	1,962	1,758	1,677	1,821	1,739	21,781	21,906
			件数	1,957	1,933	2,134	1,857	2,033	1,951	1,945	2,045	1,899	1,831	1,941	1,877	23,403	23,397
		1日当り	枚数	94	93	88	73	105	84	87	89	88	84	91	87	89	89
			件数	103	102	97	77	113	89	93	93	95	92	97	94	95	95
	入院	総数	枚数	4,435	4,377	5,595	4,112	4,125	4,946	4,588	5,347	4,759	4,785	4,604	4,378	56,051	53,964
			件数	7,710	7,853	10,080	7,451	7,637	8,965	8,184	9,656	8,443	8,440	8,096	7,612	100,127	95,294
		1日当り	枚数	143	156	180	137	133	165	148	172	159	160	153	141	154	148
			件数	249	280	325	248	246	299	264	311	281	281	270	246	275	262
注射	入院	総数	枚数	6,112	5,821	6,747	5,943	5,729	6,137	6,655	6,896	6,288	5,889	5,921	6,305	74,443	76,136
		1日当り	枚数	197	208	218	198	185	205	215	222	210	196	197	203	204	209

摘要	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定	741	543	595	679	620	648	622	650	658	630	670	637	7,693	8,227
抗癌剤混合調剤件数 (外来化学療法)	194	193	216	205	179	208	175	197	187	192	199	183	2,328	2,357
(入院化学療法)	105	93	96	79	61	93	97	85	83	120	112	98	1,122	1,017
TPN調製件数	94	118	123	157	129	56	110	137	72	138	108	122	1,364	1,775

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計	
麻薬処方箋	外来	内用	3	1	0	0	2	0	0	3	2	2	2	17	12	
		外用	4	2	4	5	3	5	5	3	6	4	2	4	47	53
		注射	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	13
	入院	内用	100	112	75	56	58	58	55	83	73	107	64	88	929	951
		外用	66	58	69	53	45	63	43	63	37	19	38	31	585	482
		注射	182	177	211	169	147	176	197	181	148	163	168	157	2,076	1,875

### 製剤室

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
製剤	件数	384	385	436	480	464	468	490	472	461	490	485	480	5,495	5,572
無菌製剤	件数	186	231	231	183	189	188	223	223	238	228	182	220	2,522	2,374

[薬剤部]

## 8 リハビリテーション関係件数

摘要		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
運動器リハ	外来	126	98	103	136	151	178	114	146	126	147	143	149	1617	2370
	入院	1226	1429	1642	1269	1241	1432	1605	1706	1468	1336	1347	1558	17259	15529
呼吸器リハ	外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	入院	213	147	125	154	115	71	36	38	22	6	0	0	927	631
脳血管リハ	外来	10	13	9	6	13	13	8	0	0	2	1	1	76	249
	入院	203	207	166	101	84	141	65	121	125	37	63	22	1335	2198
退院指導	入院	33	41	56	56	44	36	56	52	54	56	41	68	593	452
その他	外来	2	0	2	2	1	0	2	2	1	4	4	1	21	38
	入院	14	33	19	28	14	6	21	2	19	18	36	16	226	249
小計	外来	138	112	114	144	165	191	124	148	127	153	148	151	1715	2658
	入院	1689	1857	2008	1608	1498	1686	1783	1919	1688	1453	1487	1664	20340	19059
総合計		1827	1969	2122	1752	1663	1877	1907	2067	1815	1606	1635	1815	22055	21717

[リハビリテーション室]

## 9 レントゲン・RI・CT関係件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
単 純	2,725	2,697	3,073	2,570	2,672	2,558	2,510	2,591	2,364	2,375	2,295	2,264	30,694	31,409
造影剤使用	97	132	138	146	117	135	132	147	115	112	153	115	1,539	1,502
C T	733	779	806	716	696	747	790	757	745	785	712	782	9,048	8,895
核医学 IN vivo	65	55	76	64	49	54	60	72	51	61	59	52	718	647
M R I	340	350	428	384	349	398	385	392	362	352	350	369	4,459	4,791
治 療	240	329	261	144	135	224	181	189	221	271	231	262	2,688	3,157
合 計	4,200	4,342	4,782	4,024	4,018	4,116	4,058	4,148	3,858	3,956	3,800	3,844	49,146	50,401

[放射線科]

10 中央臨床検査部検査件数

検査室名	検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
外来検査室	尿	14,759件	14,458件	16,012件	14,697件	15,751件	16,449件	16,269件	17,250件	15,848件	16,184件	16,174件	15,494件	189,345件
	糞便	746	801	753	528	654	853	820	806	655	753	787	668	8,824
	計	15,505 (13,895)	15,259 (14,294)	16,765 (15,822)	15,225 (15,223)	16,405 (15,146)	17,302 (17,733)	17,089 (17,861)	18,056 (17,548)	16,503 (16,868)	16,937 (16,580)	16,961 (17,100)	16,162 (15,835)	198,169 (193,905)
化学検査室	化学・血清	130,650	126,889	144,511	138,038	138,344	149,346	143,623	149,170	137,500	147,374	138,270	138,032	1,681,747
	輸血	175	189	226	191	168	142	203	180	252	166	165	236	2,293
	尿化学	753	711	1,016	983	824	964	824	951	843	918	823	649	10,259
	リコール髄液	114	112	118	108	118	128	125	166	155	165	182	149	1,640
	止血他	2,153	2,055	2,462	2,095	2,057	1,930	2,071	2,328	2,007	2,121	2,132	1,961	25,372
	計	133,845 (126,070)	129,956 (125,355)	148,333 (139,067)	141,415 (136,185)	141,511 (129,268)	152,510 (144,305)	146,846 (147,069)	152,795 (146,276)	140,757 (143,519)	150,744 (147,086)	141,572 (142,534)	141,027 (140,475)	1,721,311 (1,667,209)
細菌検査室	一般細菌	5,329	5,513	5,347	4,990	5,957	7,048	5,546	6,518	6,257	6,426	5,982	6,147	71,060
	抗酸菌	152	169	228	193	152	173	153	102	107	192	130	137	1,888
	計	5,481 (5,308)	5,682 (4,815)	5,575 (5,732)	5,183 (6,165)	6,109 (5,488)	7,221 (6,030)	5,699 (6,821)	6,620 (6,799)	6,364 (5,789)	6,618 (6,315)	6,112 (6,903)	6,284 (7,601)	72,948 (73,766)
病理検査室	病理組織染色	695	621	829	860	566	868	768	931	755	727	773	803	9,196
	細胞診	660	653	688	827	768	880	849	766	733	843	800	723	9,190
	計	1,355 (1,307)	1,274 (1,486)	1,517 (1,433)	1,687 (1,808)	1,334 (1,589)	1,748 (1,783)	1,617 (1,861)	1,697 (1,463)	1,488 (1,403)	1,570 (1,480)	1,573 (1,560)	1,526 (1,562)	18,386 (18,735)
血液検査室	血色素量他	39,010	37,720	43,185	40,386	40,472	43,671	42,045	44,170	40,629	45,242	41,700	40,889	499,119
	特殊検査	17	34	11	31	20	30	21	37	27	29	32	29	318
	計	39,027 (36,911)	37,754 (36,360)	43,196 (40,614)	40,417 (39,321)	40,492 (36,719)	43,701 (41,488)	42,066 (42,182)	44,207 (42,333)	40,656 (41,968)	45,271 (43,935)	41,732 (42,434)	40,918 (41,514)	499,437 (485,779)
合計		195,213 (183,491)	189,925 (182,310)	215,386 (202,668)	203,927 (198,702)	205,851 (188,210)	222,482 (211,339)	213,317 (215,794)	223,375 (214,419)	205,768 (209,547)	221,140 (215,396)	207,950 (210,531)	205,917 (206,987)	2,510,251 (2,439,394)
剖検		0(0)	2(2)	1(2)	1(1)	0(2)	1(4)	1(1)	1(3)	2(0)	1(1)	1(1)	0(0)	11(17)

( )内前年同月

[中央臨床検査部]

## 11 生理検査関係件数

### A.脳波関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
脳波	18件	11件	28件	19件	18件	25件	24件	26件	22件	25件	24件	17件	257件	253件
筋電図他	22	7	10	12	11	13	9	10	14	9	3	10	130	88
計	40	18	38	31	29	38	33	36	36	34	27	27	387	341

[神経科・精神科・脳波室]

### B.超音波検査室

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
甲状腺	31件	28件	35件	25件	33件	47件	29件	38件	30件	40件	24件	24件	384件	550件
乳腺	12	15	17	13	8	8	11	18	7	10	4	1	124	177
腹部	289	293	366	297	550	344	332	375	307	308	368	329	4,158	3,486
その他	7	5	14	9	6	7	12	17	8	8	11	5	109	81
計	339	341	432	344	597	406	384	448	352	366	407	359	4,775	4,294

[超音波検査室]

### C.生理検査室

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
心電図	809件	807件	871件	845件	884件	896件	818件	863件	812件	835件	847件	890件	10,177件	10,697件
トレッドミル	31	28	29	35	33	46	34	39	27	38	35	32	407	453
負荷心筋シチ	6	9	7	8	15	9	8	15	13	11	11	7	119	88
持続心電図	14	21	21	14	21	17	16	14	15	28	21	25	227	306
心エコー	160	180	201	179	174	195	182	173	158	170	196	167	2,135	2,387
末梢血管エコー	121	92	134	107	78	102	100	127	109	119	113	115	1,317	1,293
肺機能	234	201	251	187	213	153	160	171	128	142	144	137	2,121	1,992
ABI	75	88	103	101	64	83	94	95	95	85	83	102	1,068	908
その他循環器系検査	19	15	25	19	13	12	14	19	17	26	23	7	209	176
計	1,469	1,441	1,642	1,495	1,495	1,513	1,426	1,516	1,374	1,454	1,473	1,469	17,767	18,300

[循環器生理検査室]

### D.内視鏡関係

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
胃・十二指腸・食道ファイバースコープ	162件	143件	161件	165件	157件	187件	196件	187件	172件	143件	188件	177件	2,038件	2,245件
胃ポリアヘクミ	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	19
大腸ファイバースコープ (大腸ポリアヘクミ)	71 (13)	81 (19)	75 (19)	72 (11)	55 (14)	74 (10)	78 (19)	91 (25)	68 (21)	71 (11)	84 (16)	64 (12)	884 (190)	924 (216)
ERCP、その他	3	8	4	4	7	2	5	7	4	1	5	5	55	114
食道静脈瘤結紮	0	2	1	1	3	1	0	2	0	0	1	0	11	17
計	238	234	243	242	222	264	279	287	244	215	278	246	2,992	3,319

[内視鏡室]

**E.眼科(屈折、眼圧)検査関係**

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
屈折検査	496件	516件	576件	563件	448件	545件	492件	384件	359件	369件	403件	431件	5,582件	5,614件
矯正検査	1,015	1,102	1,290	1,167	1,104	1,321	1,076	1,022	965	1,004	1,037	1,054	13,157	13,024
調節検査	3	1	1	2	0	0	1	2	1	1	0	0	12	52
調節負荷検査	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	4
角膜曲率半径計測	184	176	218	211	199	215	206	143	117	145	186	126	2,126	1,242
超音波眼軸長測定(A-モード)	36	40	48	33	38	26	30	23	27	33	43	23	400	384
精密眼圧測定	1,103	1,183	1,353	1,224	1,153	1,404	1,112	1,032	992	1,071	1,132	1,127	13,886	13,740
精密眼圧負荷測定	1	1	0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	7	12
計	2,839	3,019	3,486	3,200	2,943	3,512	2,918	2,606	2,462	2,625	2,802	2,761	35,173	34,072

[眼科]

**F.眼科(網膜、神経)検査関係**

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
眼底カメラ撮影	76件	59件	72件	63件	55件	74件	73件	64件	56件	72件	73件	66件	803件	941件
蛍光眼底カメラ撮影	3	3	1	5	7	9	6	8	6	2	9	4	63	71
前眼部・細隙燈カメラ	29	32	44	40	43	22	26	26	34	25	47	33	401	297
角膜内細胞撮影	59	66	88	68	67	73	58	56	51	60	74	59	779	702
網膜電位図(ERG)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
精密視野検査(両側)	31	45	43	48	21	40	26	27	29	23	15	35	383	408
動的量的視野検査	14	18	20	23	12	22	21	26	27	23	20	18	244	259
静的量的視野検査	51	63	72	70	57	86	44	49	40	44	48	47	671	733
複像検査	5	10	13	7	7	11	3	4	5	2	1	6	74	103
網膜光凝固術(その他)	2	1	2	0	1	4	1	4	3	5	7	3	33	22
計	270	297	355	325	270	341	258	264	251	256	294	271	3,452	3,539

[眼科]

**G.耳鼻科(平衡、聴力)検査関係**

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
平衡機能検査	68件	75件	80件	101件	57件	87件	87件	120件	57件	72件	79件	84件	967件	1,176件
聴力機能検査	157	165	170	176	160	189	183	204	170	178	164	169	2,085	2,413
その他	2	2	1	1	0	2	5	3	2	4	3	0	25	29
計	227	242	251	278	217	278	275	327	229	254	246	253	3,077	3,618

[耳鼻咽喉科]

12 医療生活相談室関係件数

A 取扱件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
循環器内科・神経内科	132	116	182	124	115	157	140	164	130	100	107	136	1603	1248
消化器内科	24	27	37	24	27	17	9	18	21	37	20	25	286	471
血液内科	18	25	24	22	37	57	30	22	18	19	60	40	372	284
総合内科	73	134	142	118	93	117	87	112	113	74	75	67	1205	817
神経科・精神科	18	13	19	31	29	29	28	30	45	35	44	19	340	324
小児科	0	0	0	3	0	1	1	2	9	6	2	2	26	22
外科	30	29	37	36	17	20	19	14	20	38	23	11	294	377
乳腺外科	1	5	0	1	8	1	0	1	3	1	2	8	31	84
整形外科	66	63	96	72	75	97	103	87	63	108	76	68	974	1012
皮膚科	1	3	3	11	7	12	12	8	12	11	12	31	123	207
泌尿器科	33	19	37	12	13	32	29	32	14	27	8	21	277	195
産婦人科	10	3	4	2	2	2	1	9	5	1	8	5	52	154
眼科	2	0	1	16	1	1	2	0	0	2	6	1	32	70
耳鼻咽喉科	23	21	29	17	4	7	22	39	51	30	10	5	258	118
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	24
その他	11	4	11	3	9	5	5	4	3	11	8	9	83	96
合計	442	462	622	492	437	555	488	542	507	501	462	448	5958	5509

B 新規ケース紹介経路

	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	7	2	0	4	2	0	7	3	5	13	2	1	7	6	1	5	7	0
家族	7	6	0	3	1	1	6	5	2	5	3	0	5	4	0	4	6	1
医師	2	10	0	4	14	0	7	10	0	1	10	0	1	15	0	1	10	0
看護師	8	17	0	8	27	0	13	32	0	6	14	0	8	21	0	10	27	0
その他院内職員	1	5	0	2	4	0	2	4	0	1	3	0	1	3	0	1	1	1
保健福祉関係機関	5	13	1	4	3	0	3	9	0	2	15	0	5	11	1	4	12	1
医療機関	1	0	1	1	0	0	0	2	2	2	2	0	1	0	0	2	4	0
福祉施設	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護保険施設・事業所	3	1	0	3	1	1	4	3	0	5	1	1	7	4	0	9	4	1
その他	0	0	1	1	1	0	0	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
小計	34	55	4	30	53	2	42	71	9	35	50	2	36	65	2	36	71	4
総合計	93			85			122			87			103			111		

	7月			8月			9月			10月			11月			12月			累計			前年累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	10	6	0	9	5	0	5	5	0	7	7	1	9	4	1	3	6	0	86	55	9	76	62	7
家族	9	3	0	4	6	0	3	4	0	5	3	0	3	5	1	2	5	0	56	51	5	65	70	6
医師	0	10	1	4	11	0	3	5	0	5	4	0	3	10	0	1	9	0	32	118	1	20	114	0
看護師	4	21	0	3	27	0	3	20	0	17	19	0	5	27	0	5	24	0	90	276	0	102	293	3
その他院内職員	0	3	0	4	3	0	1	2	0	1	2	0	2	0	0	0	3	0	16	33	1	21	24	2
保健福祉関係機関	4	12	0	4	9	0	6	7	1	5	5	1	4	10	1	0	11	3	46	117	9	49	128	5
医療機関	1	2	0	1	1	0	4	1	1	6	1	0	0	5	0	1	3	2	20	21	6	24	8	7
福祉施設	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	2	1	1
介護保険施設・事業所	2	6	0	5	3	0	6	4	0	4	2	1	4	6	0	4	0	1	56	35	5	56	59	3
その他	4	2	0	0	1	0	1	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	7	12	2	4	10	1
小計	35	65	1	34	68	0	32	49	3	50	46	3	30	67	3	16	61	6	410	721	39	449	769	35
総合計	101			102			84			99			100			83			1170			1253		

[医療生活相談室]



13 各科別医療収入

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月		
	外来	入院	計																					
内科(計)	73,857	172,433	246,290	71,668	178,088	249,756	82,854	198,364	281,218	74,709	181,788	256,497	75,518	183,349	258,867	74,841	181,915	256,756	76,488	185,472	261,960	75,995	188,381	264,376
循環器内科 神経内科	23,164	79,204	102,368	21,691	87,689	109,380	24,996	97,780	122,776	21,849	80,481	102,330	21,566	83,546	105,112	17,591	86,589	104,180	16,972	75,237	92,209	16,754	78,936	95,690
消化器内科	11,229	18,431	29,660	9,685	19,866	29,551	10,259	26,643	36,902	10,135	24,872	35,007	9,549	19,890	29,439	10,309	20,734	31,043	10,230	23,354	33,584	10,340	27,541	37,881
総合内科	24,143	31,623	55,766	23,251	31,775	55,026	27,242	33,062	60,304	25,337	31,557	56,894	23,864	30,792	54,656	26,342	34,799	61,141	25,818	34,907	60,725	26,660	37,090	63,750
血液内科	15,321	43,175	58,496	17,041	38,758	55,799	20,357	40,879	61,236	17,388	44,878	62,266	20,539	49,121	69,660	20,599	39,793	60,392	23,468	51,974	75,442	22,241	44,814	67,055
神経科・精神科	6,062	8,884	14,946	6,479	7,789	14,268	7,588	13,876	21,464	6,647	11,505	18,152	6,477	12,310	18,787	6,817	15,820	22,637	6,330	15,291	21,621	6,667	13,086	19,753
小児科	5,020	7,309	12,329	4,683	8,886	13,569	5,805	5,828	11,633	5,137	8,419	13,556	4,973	7,550	12,523	5,526	10,288	15,814	5,513	8,416	13,929	7,148	9,136	16,284
外科(計)	30,648	41,020	71,668	27,418	28,982	56,400	28,566	41,339	69,905	26,924	46,134	73,058	25,590	34,395	59,985	27,778	28,590	56,368	27,709	35,714	63,423	33,036	40,400	73,436
消化器・一般外科	18,685	36,246	54,931	17,466	24,424	41,890	16,923	38,708	55,631	15,681	42,554	58,235	16,498	28,931	45,429	16,292	26,018	42,310	16,573	31,089	47,662	21,342	34,830	56,172
乳腺外科	11,963	4,774	16,737	9,952	4,558	14,510	11,643	2,631	14,274	11,243	3,580	14,823	9,092	5,464	14,556	11,486	2,572	14,058	11,136	4,625	15,761	11,694	5,570	17,264
整形外科	7,106	37,112	44,218	6,262	46,375	52,637	8,392	40,145	48,537	7,915	31,724	39,639	8,172	33,920	42,092	7,836	33,700	41,536	7,218	32,088	39,306	8,819	33,603	42,422
皮膚科	11,432	7,837	19,269	10,469	10,243	20,712	12,961	12,610	25,571	12,127	10,545	22,672	12,242	10,635	22,877	13,343	10,170	23,513	13,067	10,849	23,916	16,449	12,204	28,653
泌尿器科	13,859	19,061	32,920	14,766	24,991	39,757	16,339	29,344	45,683	13,868	23,353	37,221	15,204	18,336	33,540	14,950	16,611	31,561	14,650	26,038	40,688	15,688	25,339	41,027
産婦人科	18,561	72,463	91,024	19,540	65,869	85,409	20,093	83,813	103,906	18,223	79,103	97,326	18,678	55,567	74,245	19,043	89,753	108,796	17,232	79,684	96,916	19,080	74,832	93,912
眼科	8,180	17,161	25,341	8,203	19,220	27,423	10,536	19,601	30,137	8,102	14,343	22,445	7,699	18,587	26,286	8,708	19,616	28,324	6,840	13,405	20,245	7,055	10,285	17,340
耳鼻咽喉科	5,880	17,891	23,771	6,667	15,534	22,201	6,479	20,451	26,930	6,548	16,926	23,474	6,373	11,878	18,251	6,963	18,041	25,004	6,622	20,329	26,951	6,595	20,888	27,483
放射線科	3,031	1,534	4,565	4,714	1,518	6,232	4,780	810	5,590	3,117	1,524	4,641	3,090	996	4,086	4,754	858	5,612	3,940	1,211	5,151	4,181	725	4,906
麻酔・緩和医療科	627	1,285	1,912	1,271	1,080	2,351	877	1,732	2,609	842	1,473	2,315	482	1,029	1,511	1,276	1,244	2,520	631	1,290	1,921	1,160	1,219	2,379
救急診療科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,181	905	2,086	1,487	280	1,767	1,952	588	2,540	2,393	547	2,940	3,561	2,750	6,311
その他 ワケ分外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	184,263	403,992	588,255	182,141	408,575	590,716	205,272	467,912	673,184	185,340	427,744	613,084	185,984	388,833	574,817	193,788	427,194	620,982	188,632	430,334	618,966	205,432	432,846	638,278
百分率	31%	69%	100%	31%	69%	100%	30%	70%	100%	30%	70%	100%	32%	68%	100%	31%	69%	100%	30%	70%	100%	32%	68%	100%

(注) 1. 共観科の収入は主たる科の収入に含む場合もある。

2. 救急診療科 H23.4から

3. H23.4より、麻酔科から麻酔・緩和医療科へ

[単位:千円]

9月			10月			11月			12月			累計			前年度累計	対前年差額
外来	入院	計	外来	入院	計											
75,442	163,501	238,943	73,420	173,090	246,510	75,750	158,588	234,338	76,696	169,333	246,029	907,238	2,134,302	3,041,540	2,882,944	158,596
16,259	67,445	83,704	17,784	68,347	86,131	17,546	58,684	76,230	16,792	74,249	91,041	232,964	938,187	1,171,151	1,049,317	121,834
10,630	21,096	31,726	9,245	20,392	29,637	10,036	20,726	30,762	9,219	19,758	28,977	120,866	263,303	384,169	444,026	▲ 59,857
26,477	32,353	58,830	26,824	37,228	64,052	26,612	32,932	59,544	28,574	29,146	57,720	311,144	397,264	708,408	679,162	29,246
22,076	42,607	64,683	19,567	47,123	66,690	21,556	46,246	67,802	22,111	46,180	68,291	242,264	535,548	777,812	710,439	67,373
6,686	10,659	17,345	6,347	11,652	17,999	6,291	10,529	16,820	6,063	7,746	13,809	78,454	139,147	217,601	222,163	▲ 4,562
5,736	9,391	15,127	6,342	6,319	12,661	6,518	5,734	12,252	6,131	5,286	11,417	68,532	92,562	161,094	172,428	▲ 11,334
27,386	34,076	61,462	27,733	37,806	65,539	28,548	31,956	60,504	26,991	42,434	69,425	338,327	442,846	781,173	799,892	▲ 18,719
16,405	29,398	45,803	17,135	30,101	47,236	16,983	25,647	42,630	15,098	35,760	50,858	205,081	383,706	588,787	597,830	▲ 9,043
10,981	4,678	15,659	10,598	7,705	18,303	11,565	6,309	17,874	11,893	6,674	18,567	133,246	59,140	192,386	202,062	▲ 9,676
7,796	33,529	41,325	7,496	30,448	37,944	7,237	37,326	44,563	7,365	36,037	43,402	91,614	426,007	517,621	488,741	28,880
14,257	11,721	25,978	13,852	13,145	26,997	16,791	12,466	29,257	13,523	12,155	25,678	160,513	134,580	295,093	296,063	▲ 970
14,541	18,041	32,582	14,530	16,137	30,667	14,171	18,232	32,403	13,452	18,748	32,200	176,018	254,231	430,249	404,525	25,724
17,528	81,204	98,732	19,256	73,060	92,316	19,040	61,726	80,766	17,928	72,078	90,006	224,202	889,152	1,113,354	1,127,582	▲ 14,228
6,507	10,491	16,998	7,066	16,881	23,947	7,691	19,217	26,908	6,898	16,329	23,227	93,485	195,136	288,621	291,110	▲ 2,489
5,635	16,848	22,483	6,261	11,351	17,612	5,761	13,059	18,820	6,355	9,719	16,074	76,139	192,915	269,054	305,301	▲ 36,247
4,442	1,271	5,713	4,406	2,174	6,580	4,525	1,236	5,761	5,384	604	5,988	50,364	14,461	64,825	66,201	▲ 1,376
549	1,067	1,616	825	1,227	2,052	802	885	1,687	909	1,876	2,785	10,251	15,407	25,658	32,189	▲ 6,531
2,349	379	2,728	2,537	957	3,494	3,041	697	3,738	2,175	512	2,687	20,676	7,615	28,291	—	28,291
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	591	▲ 591
188,856	392,177	581,033	190,071	394,247	584,318	196,165	371,650	567,815	189,871	392,858	582,729	2,295,815	4,938,362	7,234,177	7,089,732	144,445
33%	67%	100%	33%	67%	100%	35%	65%	100%	33%	67%	100%	32%	68%	100%		

[医事G]

14 医療行為別医療収入

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月		
	外来	入院	計																					
初診料	4,715	190	4,905	4,499	160	4,659	4,814	193	5,007	4,380	227	4,607	4,804	203	5,007	4,955	240	5,195	4,395	195	4,590	4,646	240	4,886
再診料	9,637	0	9,637	9,543	0	9,543	11,008	0	11,008	10,225	0	10,225	10,021	0	10,021	10,424	0	10,424	9,895	0	9,895	10,498	0	10,498
指導料	14,319	4,154	18,473	13,632	4,283	17,915	15,165	5,560	20,725	14,973	4,967	19,940	15,087	4,230	19,317	13,308	4,994	18,302	13,154	4,802	17,956	14,413	4,820	19,233
投薬料	4,374	5,820	10,194	4,207	4,877	9,084	4,324	6,387	10,711	3,526	6,723	10,249	5,220	5,421	10,641	5,283	6,354	11,637	6,003	6,334	12,337	7,021	6,316	13,337
注射料	39,457	6,496	45,953	39,830	6,907	46,737	45,928	8,388	54,316	39,120	7,350	46,470	41,820	4,965	46,785	41,296	3,785	45,081	42,627	6,248	48,875	49,438	4,335	53,773
処置料	3,549	1,477	5,026	3,273	1,918	5,191	3,899	2,037	5,936	3,554	1,455	5,009	3,360	822	4,182	3,740	1,375	5,115	3,169	1,670	4,839	3,628	2,386	6,014
手術料	4,908	87,219	92,127	5,705	98,698	104,403	5,569	116,467	122,036	4,479	101,452	105,931	4,062	89,271	93,333	5,537	111,652	117,189	3,875	89,706	93,581	5,713	99,348	105,061
検査料	58,255	7,610	65,865	57,163	6,886	64,049	64,762	7,948	72,710	60,778	7,303	68,081	58,388	5,740	64,128	63,464	8,081	71,545	59,506	7,019	66,525	61,553	7,709	69,262
画像診断料	26,289	1,585	27,874	25,511	1,635	27,146	29,113	1,440	30,553	26,553	1,264	27,817	25,119	944	26,063	25,530	1,449	26,979	26,489	1,353	27,842	25,771	1,185	26,956
入院料	0	57,070	57,070	0	54,895	54,895	0	62,675	62,675	0	56,400	56,400	0	51,284	51,284	0	53,800	53,800	0	59,867	59,867	0	56,435	56,435
DPC入院料	0	182,390	182,390	0	178,960	178,960	0	201,675	201,675	0	189,674	189,674	0	181,716	181,716	0	189,722	189,722	0	203,039	203,039	0	199,675	199,675
理学療法料	249	3,596	3,845	205	3,851	4,056	205	4,083	4,288	236	3,380	3,616	260	3,067	3,327	309	3,775	4,084	211	4,141	4,352	261	5,210	5,471
処方箋	7,314	0	7,314	7,042	0	7,042	8,222	0	8,222	7,608	0	7,608	7,500	0	7,500	7,623	0	7,623	7,254	0	7,254	7,733	0	7,733
その他	11,197	46,385	57,582	11,531	45,505	57,036	12,263	51,059	63,322	9,908	47,549	57,457	10,343	41,170	51,513	12,319	41,967	54,286	12,054	45,960	58,014	14,757	45,187	59,944
計	184,263	403,992	588,255	182,141	408,575	590,716	205,272	467,912	673,184	185,340	427,744	613,084	185,984	388,833	574,817	193,788	427,194	620,982	188,632	430,334	618,966	205,432	432,846	638,278

(注) 共観科の収入は主たる科の収入に含む場合もある。

[単位:千円]

9月			10月			11月			12月			累計			前年度累計	対前年差額
外来	入院	計	外来	入院	計											
4,100	252	4,352	4,430	159	4,589	4,088	205	4,293	4,108	246	4,354	53,934	2,510	56,444	59,681	▲ 3,237
9,757	0	9,757	10,012	0	10,012	9,927	0	9,927	10,012	0	10,012	120,959	0	120,959	123,176	▲ 2,217
14,301	4,348	18,649	14,390	4,399	18,789	13,440	4,070	17,510	14,476	5,288	19,764	170,658	55,915	226,573	221,604	4,969
4,966	6,492	11,458	4,666	5,018	9,684	5,008	4,945	9,953	6,578	6,814	13,392	61,176	71,501	132,677	84,827	47,850
43,996	4,550	48,546	41,439	4,313	45,752	49,024	5,254	54,278	40,898	7,035	47,933	514,873	69,626	584,499	620,937	▲ 36,438
3,239	1,764	5,003	3,346	2,159	5,505	3,431	1,893	5,324	3,566	2,282	5,848	41,754	21,238	62,992	62,983	9
4,417	92,872	97,289	4,843	90,238	95,081	5,068	88,291	93,359	4,535	86,011	90,546	58,711	1,151,225	1,209,936	1,120,381	89,555
59,050	6,376	65,426	60,587	6,453	67,040	60,303	6,827	67,130	58,734	7,009	65,743	722,543	84,961	807,504	791,299	16,205
24,386	1,433	25,819	24,974	1,495	26,469	23,991	1,165	25,156	24,602	1,474	26,076	308,328	16,422	324,750	329,855	▲ 5,105
0	53,640	53,640	0	50,578	50,578	0	44,077	44,077	0	51,139	51,139	0	651,860	651,860	686,975	▲ 35,115
0	171,890	171,890	0	183,165	183,165	0	173,290	173,290	0	180,734	180,734	0	2,235,930	2,235,930	2,167,562	68,368
228	4,071	4,299	319	3,692	4,011	303	3,841	4,144	286	4,297	4,583	3,072	47,004	50,076	44,881	5,195
7,302	0	7,302	7,381	0	7,381	7,363	0	7,363	7,437	0	7,437	89,779	0	89,779	89,926	▲ 147
13,114	44,489	57,603	13,684	42,578	56,262	14,219	37,792	52,011	14,639	40,529	55,168	150,028	530,170	680,198	685,645	▲ 5,447
188,856	392,177	581,033	190,071	394,247	584,318	196,165	371,650	567,815	189,871	392,858	582,729	2,295,815	4,938,362	7,234,177	7,089,732	144,445

[医事G]

15 病院従業員数（平成23年4月1日時点）

		職員	性別		専攻医	研修医	嘱託		パート
			男	女			常勤	非勤	
医 師	23年度	59	48	11	10	13	3	39	
	22年度	60	50	10	11	14	4	37	
薬剤師	23年度	11	5	6					3
	22年度	12	6	6					3
放射線技師	23年度	13	10	3					
	22年度	12	9	3					
検査技術員	23年度	22	8	14					
	22年度	22	8	14					
理学療法士	23年度	5	4	1					
	22年度	5	4	1					
作業療法士	23年度	1		1					
	22年度	1		1					
栄養士	23年度	1		1					2
	22年度	1		1					2
ケースワーカー	23年度	2		2					
	22年度	2		2					
視能訓練士・眼鏡士	23年度	2		2					4
	22年度	2		2					4
臨床心理士	23年度	0						1	
	22年度	0						1	
臨床工学技士	23年度	3	1	2					
	22年度	2	1	1					
看護師	23年度	272	3	269					13
	22年度	273	6	267					13
准看護師	23年度	1		1					10
	22年度	2		2					8
看護助手	23年度	1		1					16
	22年度	1		1					15
事務員	23年度	33	18	15					9
	22年度	33	20	13					8
一般技能労務職	23年度	5	3	2			1	1	4
	22年度	5	3	2			1	1	3
総 計	23年度	431	100	331	10	13	4	41	61
	22年度	433	107	326	11	14	5	39	56

## 16 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。

平成18年退院患者から厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10(2003年版)準拠」を使用した。

注2) 手術分類は(財)医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類 ICD・9・CM」を使用した。

平成18年退院患者から日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計をした。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計をした。

### 1) 退院患者医療評価指標①

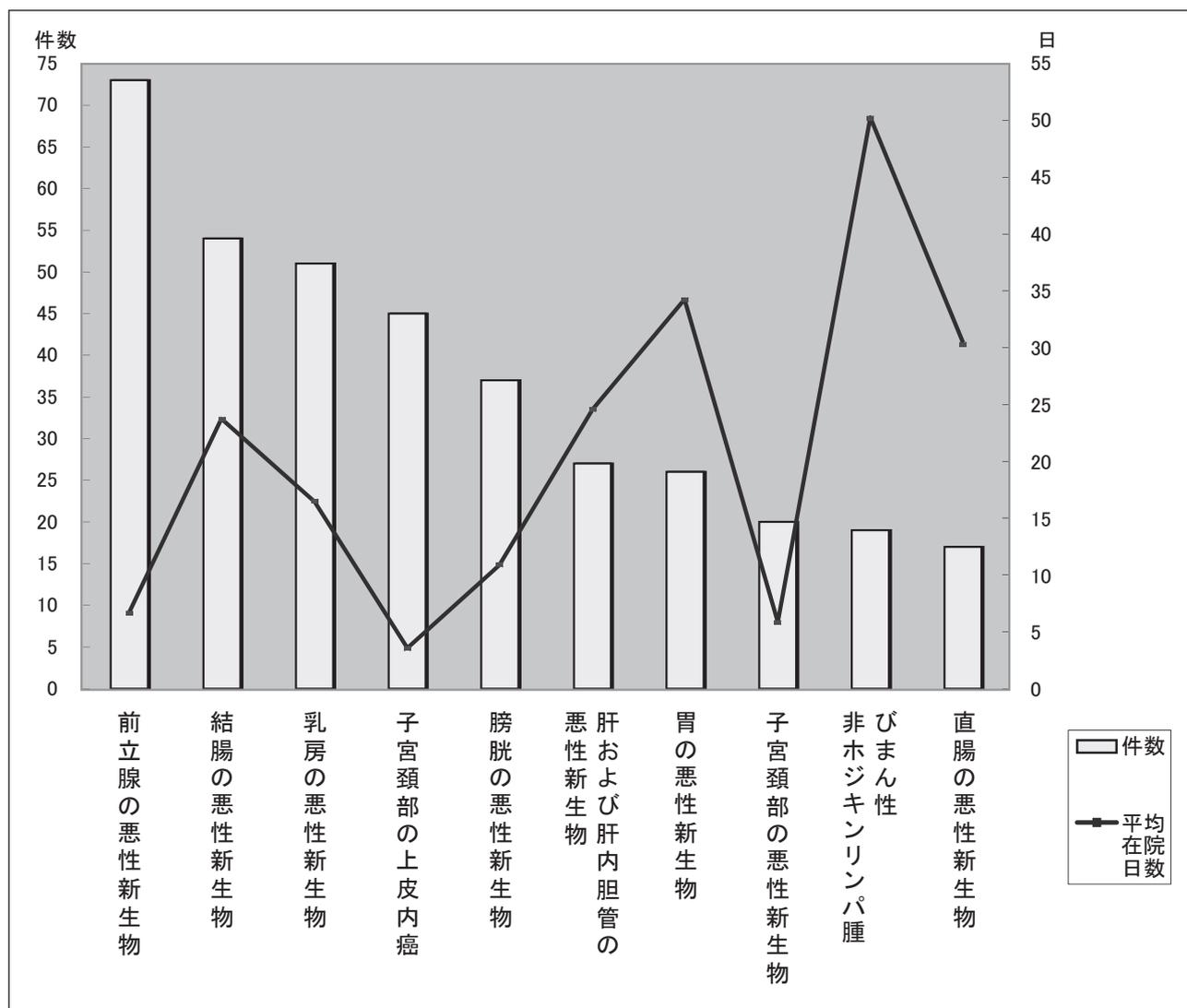
	算定式	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)
病床数(床)		350	350	350	350	350	350	350
一日平均在院患者数(人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	269	273	272	269	280	283	278
病床稼働率(%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	76.9	78.0	77.7	76.9	80.0	80.9	79.4
平均在院日数(日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	15.3	14.7	14.6	14.1	14.2	13.2	13.3
実退院患者数(人)		5,900	6,359	6,350	6,486	6,740	7,283	7,119
転科数		176	249	158	140	176	206	164
総退院患者数		6,076	6,608	6,508	6,626	6,916	7,489	7,283
実退院患者平均在院日数(日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	16.2	15.7	15.6	15.0	15.5	14.1	14.6
院内粗死亡率(%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.5	2.9	2.7	2.4	2.5	2.2	2.1
院内精死亡率(%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.2	2.6	2.4	2.2	2.4	2.2	1.8
剖検率(%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	5.5	11.4	8.9	7.2	5.8	9.6	6.6
術後死亡率(%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	0.04	0.03	0	0	0	0	0
帝王切開率(%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	18.9	20.6	23.4	19.1	17.0	18.8	16.6
分娩死亡率(%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	0	0	0	0	0	0	0
新生児死亡率(%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	0	0	0	0	0	0.2	0
紹介入院率(%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	32.4	34.9	35.9	38.0	40.5	40.8	38.8
対診率(%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	36.1	38.1	43.1	43.6	41.1	36.1	40.2
診療情報の利用								
診療録利用件数(冊)		5,808	1,204	1,022	506	324	172	198
コンピュータ情報利用件数(依頼件数)		65	55	84	98	63	82	65

1) 退院患者医療評価指標②(悪性新生物)

	算定式	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)
悪性新生物:比率(%)	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	15.5	17.2	15.7	15.3	14.0	15.3	14.7	16.1
悪性新生物:新発患者数		352	413	432	445	454	503	548	553

○2011年1月～12月一初発がん統計トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	73	7
結腸の悪性新生物	54	24
乳房の悪性新生物	51	17
子宮頸部の上皮内癌	45	4
膀胱の悪性新生物	37	11
肝および肝内胆管の悪性新生物	27	25
胃の悪性新生物	26	34
子宮頸部の悪性新生物	20	6
びまん性非ホジキンリンパ腫	19	50
直腸の悪性新生物	17	30



2) 診療科別・月別・退院患者数

診療科別・月別・患者数 (2011年)

日本生命済生会付属 日生病院

診療科	総数	退院患者数												死亡	剖検
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
総数	7,119	519	570	638	650	560	594	607	638	557	576	557	653	151	10
男	3,108	224	277	275	288	267	239	256	281	247	235	232	287	95	7
女	4,011	295	293	363	362	293	355	351	357	310	341	325	366	56	3
循環内科	994	78	74	95	96	85	91	74	86	71	73	68	103	35	-
男	592	47	46	57	60	52	54	43	48	38	43	43	61	21	-
女	402	31	28	38	36	33	37	31	38	33	30	25	42	14	-
消化器内科	863	68	70	74	78	65	69	80	85	74	63	76	61	20	3
男	512	39	44	47	52	39	41	42	44	44	37	44	33	12	2
女	351	29	26	27	26	26	28	38	35	30	26	32	28	8	1
総合内科	554	30	38	44	46	40	37	54	50	45	60	50	60	18	4
男	260	14	15	24	25	20	16	25	22	22	27	25	25	11	2
女	294	16	23	20	21	20	21	29	28	23	33	25	35	7	2
血液化療内	266	14	30	17	24	28	15	25	31	14	19	20	29	26	1
男	159	9	16	8	15	16	7	15	16	11	10	14	22	16	1
女	107	5	14	9	9	12	8	10	15	3	9	6	7	10	-
神経科精神科	102	6	8	8	11	9	10	11	8	9	6	11	6	-	-
男	28	-	3	3	3	2	3	5	1	3	1	3	2	-	-
女	74	6	6	5	8	7	7	5	7	6	5	8	4	-	-
小児科	341	25	31	23	33	28	33	30	37	31	24	22	24	-	-
男	191	14	15	13	15	20	20	13	22	20	15	11	13	-	-
女	150	11	16	10	18	8	13	17	15	11	9	11	11	-	-
消化器・一般外科	407	37	28	38	35	36	31	35	33	26	40	32	36	23	2
男	250	20	21	16	20	28	21	22	22	14	17	21	28	15	2
女	157	17	7	22	15	8	10	13	11	12	23	11	8	8	-
乳腺外科	94	6	5	6	6	10	3	7	7	10	8	14	12	4	-
男	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女	93	6	5	6	6	10	3	7	7	10	8	14	11	4	-
整形外科	256	9	24	29	25	23	20	23	17	25	16	21	24	-	-
男	105	4	13	9	14	12	9	9	7	9	7	6	10	-	-
女	151	5	11	20	11	11	13	14	12	16	9	15	14	-	-
皮膚科	236	13	15	20	19	21	19	19	17	19	25	23	26	1	-
男	138	11	9	11	6	15	9	13	9	14	15	12	14	-	-
女	98	2	6	9	13	6	10	6	8	5	10	11	12	1	-
泌尿器科	448	34	41	42	46	33	29	42	45	34	27	32	43	13	-
男	368	29	34	35	36	21	26	31	38	32	24	28	34	12	-
女	80	5	7	7	10	12	3	11	7	2	3	4	9	1	-
産婦人科	1,485	118	104	133	137	97	138	132	135	119	124	106	142	3	-
男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女	1,485	118	104	133	137	97	138	132	135	119	124	106	142	3	-
眼科	627	46	61	62	58	52	65	42	32	37	58	58	56	-	-
男	239	17	35	20	21	24	21	14	16	17	20	10	24	-	-
女	388	29	26	42	37	28	44	28	16	20	38	48	32	-	-
耳鼻咽喉科	419	35	40	46	33	32	32	32	47	42	29	22	29	8	-
男	255	20	26	32	20	18	14	23	29	23	17	13	20	8	-
女	164	15	14	14	13	14	18	9	18	19	12	9	9	-	-
救急診療科	20	-	-	-	3	1	2	1	6	1	3	2	1	-	-
男	5	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	2	-	-	-
女	15	-	-	-	2	1	2	1	5	1	2	-	-	-	-
麻酔・緩和医療科	5	-	-	1	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-
男	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

### 3) 診療科別・月別・死亡剖検数

#### 診療科別・月別・死亡（剖検）患者数（2011年）

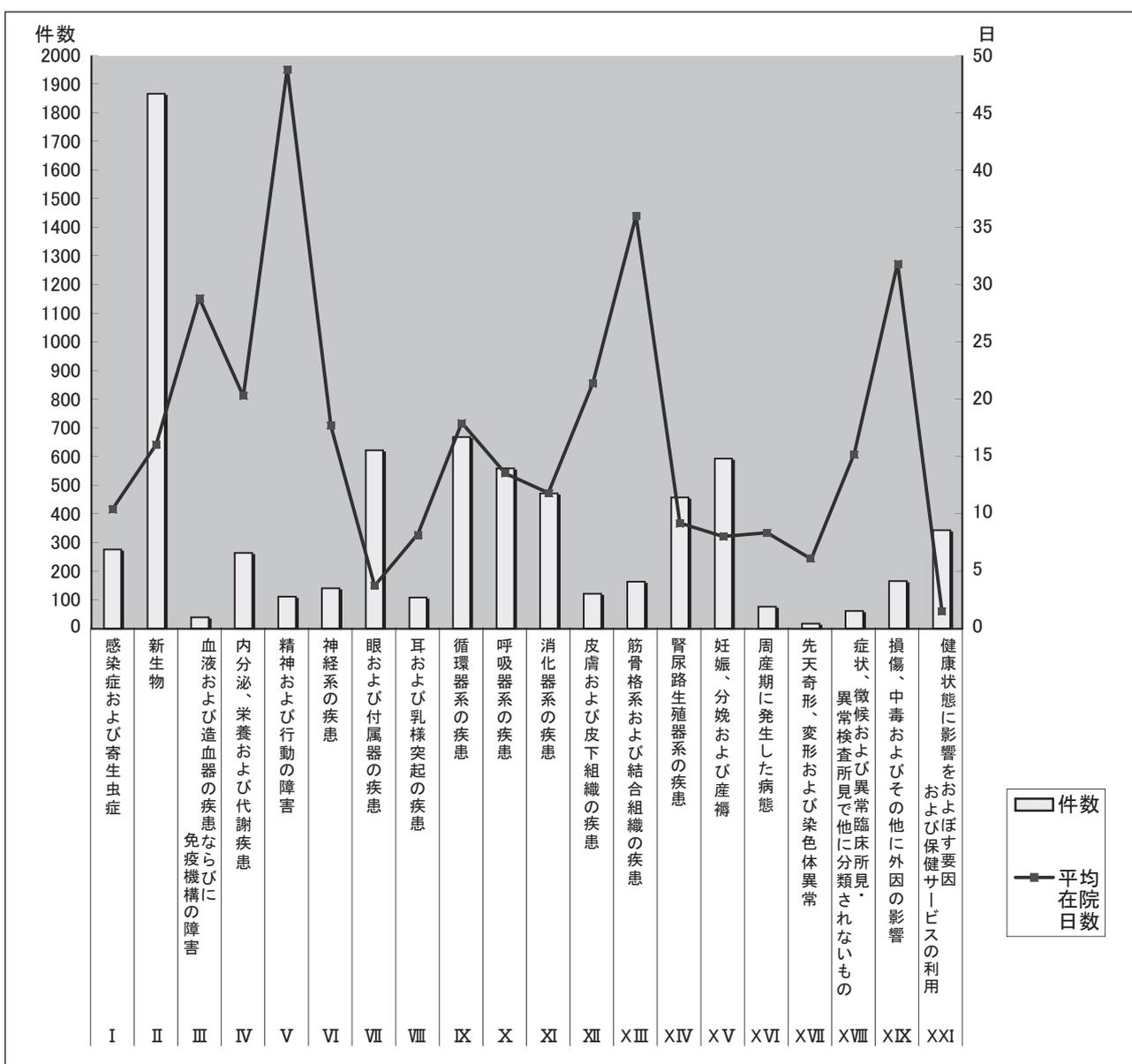
日本生命済生会付属 日生病院

診療科	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	兼科患者数	退院患者数	祖死亡率	精死亡率	剖検率
総数	151 (10)	10 (-)	18 (1)	15 (1)	12 (1)	16 (-)	12 (1)	11 (1)	10 (1)	13 (2)	10 (1)	9 (1)	15 (-)	19 (2)	7,119	151 (2.1)	129 (1.8)	10 (6.6)
循環内科	35 (-)	5 (-)	5 (-)	4 (-)	4 (-)	4 (-)	3 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	2 (-)	1 (-)	5 (-)	2 (1)	994	35 (3.5)	30 (3.0)	- (-)
消化器内科	20 (3)	- (-)	2 (-)	3 (1)	3 (1)	3 (-)	4 (1)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	863	20 (2.3)	15 (1.7)	3 (15.0)
総合内科	18 (4)	- (-)	- (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	4 (-)	1 (1)	3 (1)	3 (1)	1 (1)	2 (-)	8 (-)	554	18 (3.2)	18 (3.2)	4 (22.2)
血液治療内	26 (1)	1 (-)	3 (1)	2 (-)	1 (-)	3 (-)	1 (-)	3 (-)	1 (-)	3 (-)	2 (-)	3 (-)	3 (-)	- (-)	266	26 (9.8)	24 (9.0)	1 (3.8)
神経科精神科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	102	- (-)	- (-)	- (-)
小児科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	341	- (-)	- (-)	- (-)
消化器・一般外科	23 (2)	1 (-)	4 (-)	1 (-)	1 (-)	3 (-)	- (-)	1 (1)	4 (-)	4 (1)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	407	23 (5.7)	18 (4.4)	2 (8.7)
乳腺外科	4 (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	94	4 (4.3)	2 (2.1)	- (-)
整形外科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	4 (1)	256	- (-)	- (-)	- (-)
皮膚科	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	236	1 (0.4)	1 (0.4)	- (-)
泌尿器科	13 (-)	1 (-)	3 (-)	2 (-)	1 (-)	- (-)	2 (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	448	13 (2.9)	12 (2.7)	- (-)
産婦人科	3 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1,485	3 (0.2)	2 (0.1)	- (-)
眼科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	627	- (-)	- (-)	- (-)
耳鼻咽喉科	8 (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	419	8 (1.9)	7 (1.7)	- (-)
麻酔・緩和医療科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	5	- (-)	- (-)	- (-)
救急診療科	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	20	- (-)	- (-)	- (-)

#### 4) 疾病統計

○2011年1月～12月 国際疾病分類大分類別件数・平均在院日数

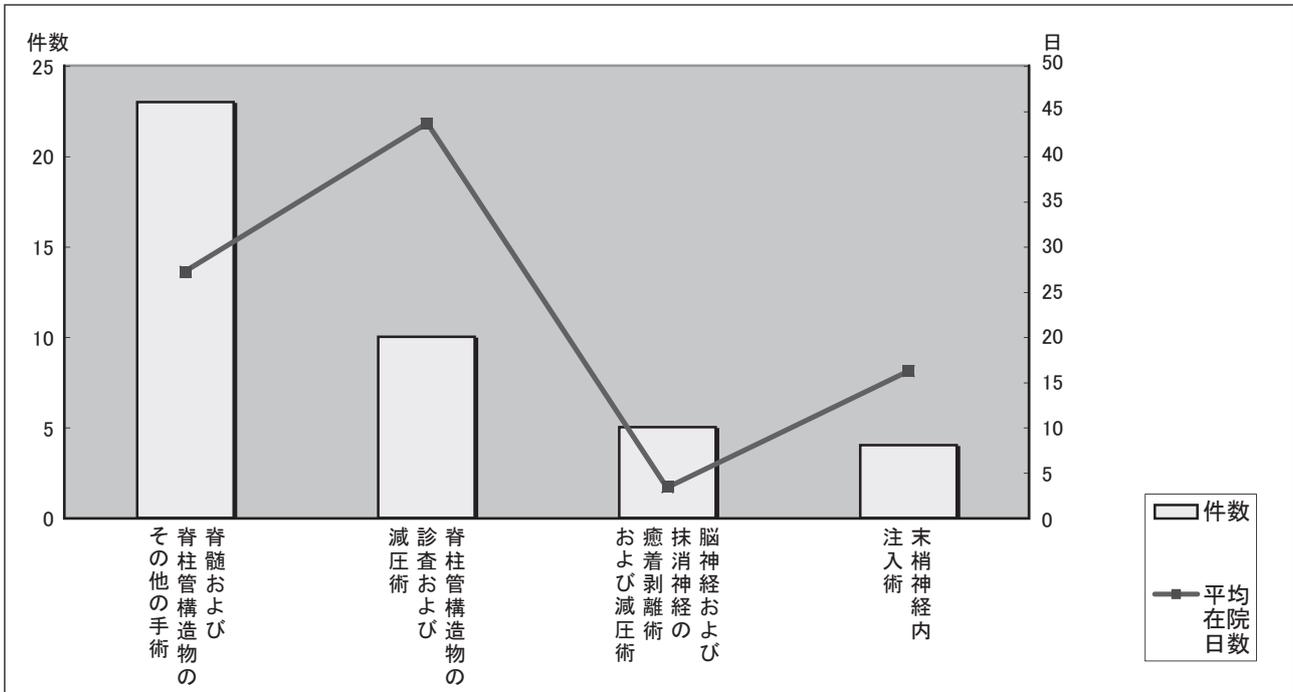
コード	国際分類大項目分類	件数	平均在院日数
I	感染症および寄生虫症	276	10
II	新生物	1866	16
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	39	29
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	264	20
V	精神および行動の障害	111	49
VI	神経系の疾患	140	18
VII	眼および付属器の疾患	622	4
VIII	耳および乳様突起の疾患	108	8
IX	循環器系の疾患	668	18
X	呼吸器系の疾患	558	14
XI	消化器系の疾患	471	12
XII	皮膚および皮下組織の疾患	121	21
XIII	筋骨格系および結合組織の疾患	163	36
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	457	9
XV	妊娠、分娩および産褥	593	8
XVI	周産期に発生した病態	76	8
XVII	先天奇形、変形および染色体異常	17	6
XVIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	61	15
XIX	損傷、中毒およびその他に外因の影響	165	32
XXI	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	343	1
総計		7119	14



### 5) 手術統計

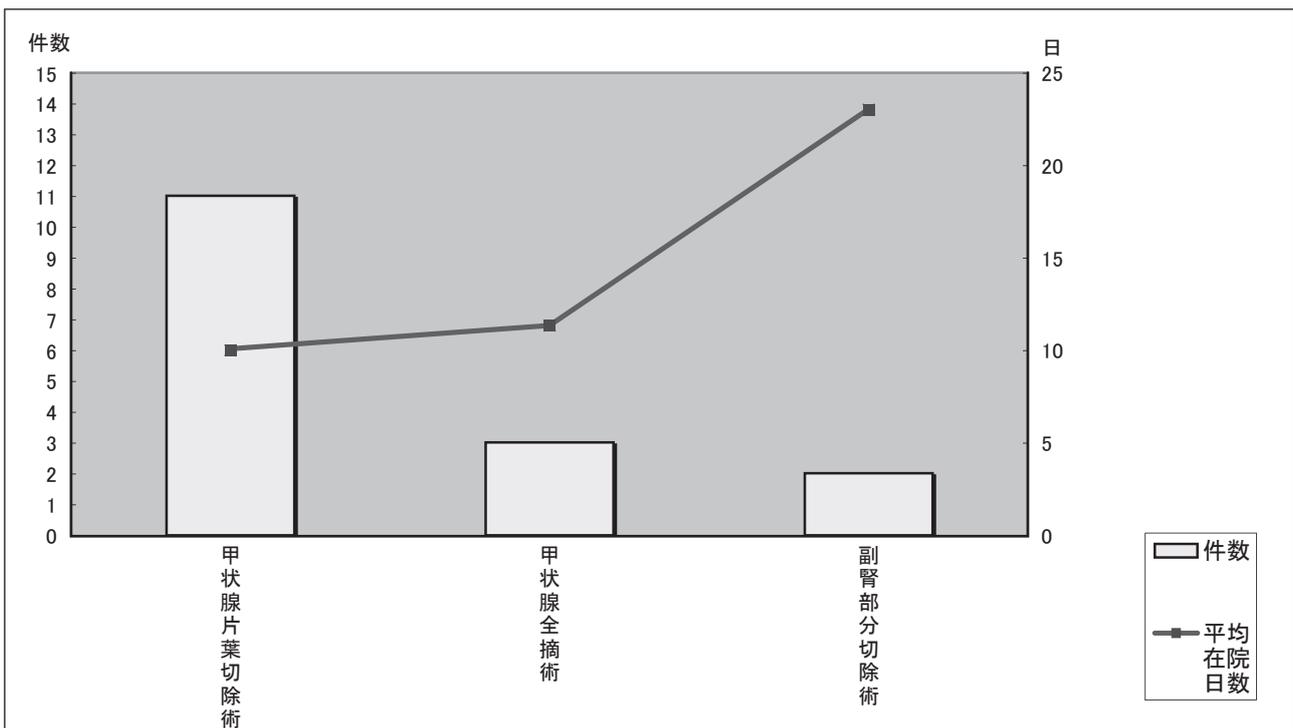
#### 2011年1月～12月－1.神経系の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
脊髄および脊柱管構造物のその他の手術	23	27
脊柱管構造物の診査および減圧術	10	44
脳神経および抹消神経の癒着剥離術および減圧術	5	3
末梢神経内注入術	4	16



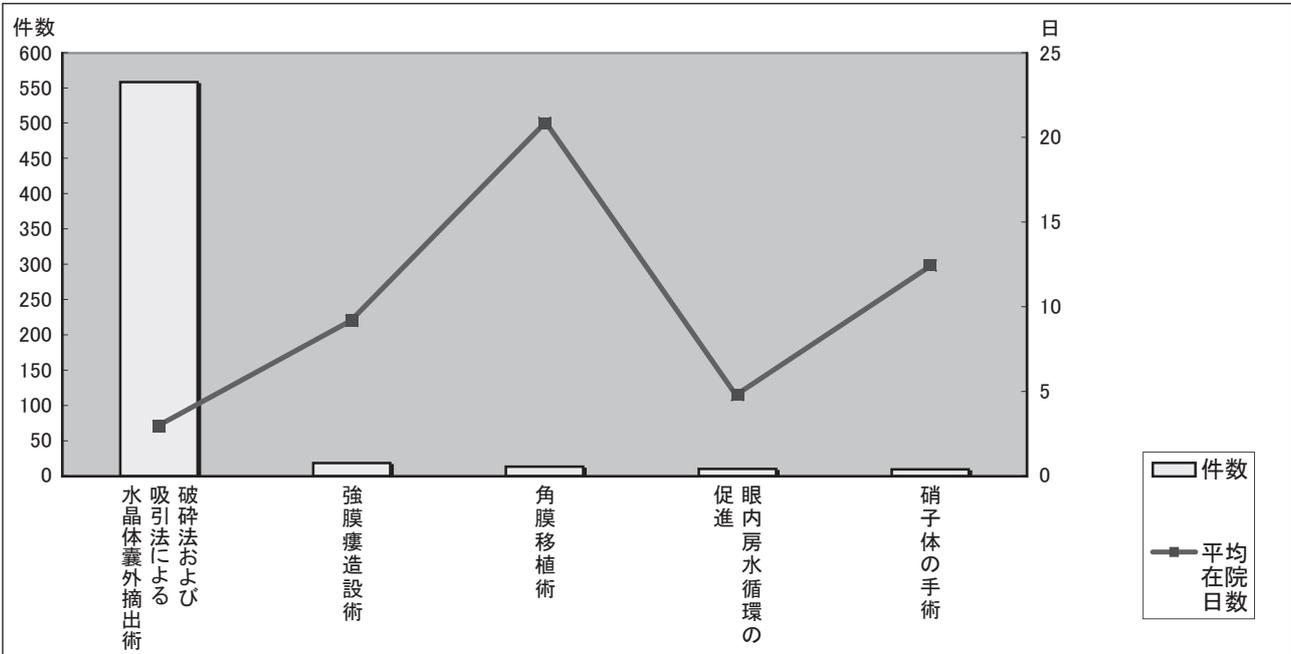
#### 2011年1月～12月－2.内分泌系の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
甲状腺片葉切除術	11	10
甲状腺全摘術	3	11
副腎部分切除術	2	23



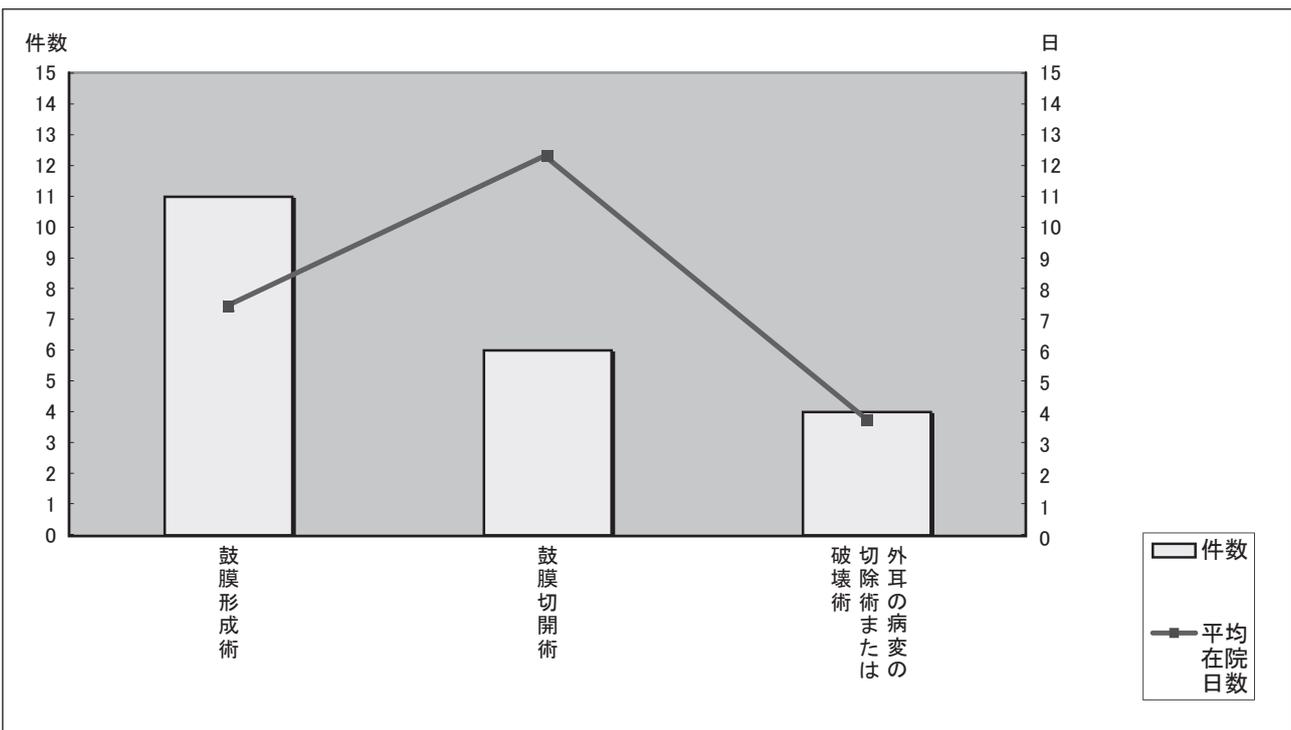
2011年1月～12月－3.目の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
破碎法および吸引法による水晶体嚢外摘出術	558	3
強膜瘻造設術	18	9
角膜移植術	13	21
眼内房水循環の促進	10	5
硝子体の手術	9	12



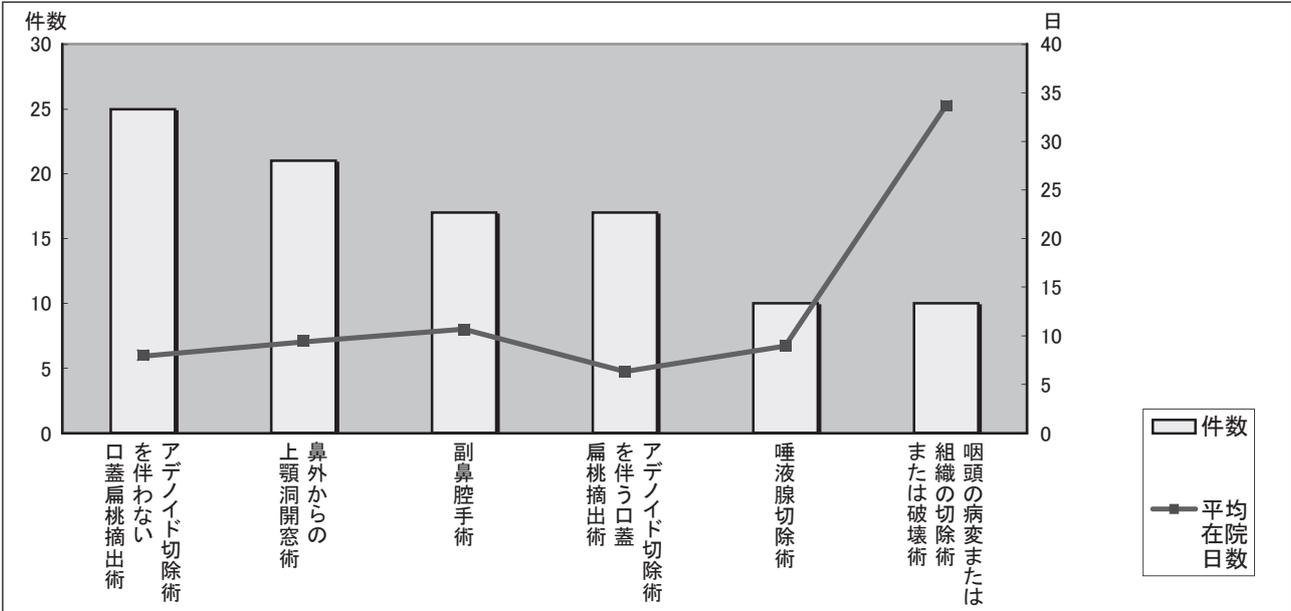
2011年1月～12月－4.耳の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
鼓膜形成術	11	7
鼓膜切開術	6	12
外耳の病変の切除術または破壊術	4	4



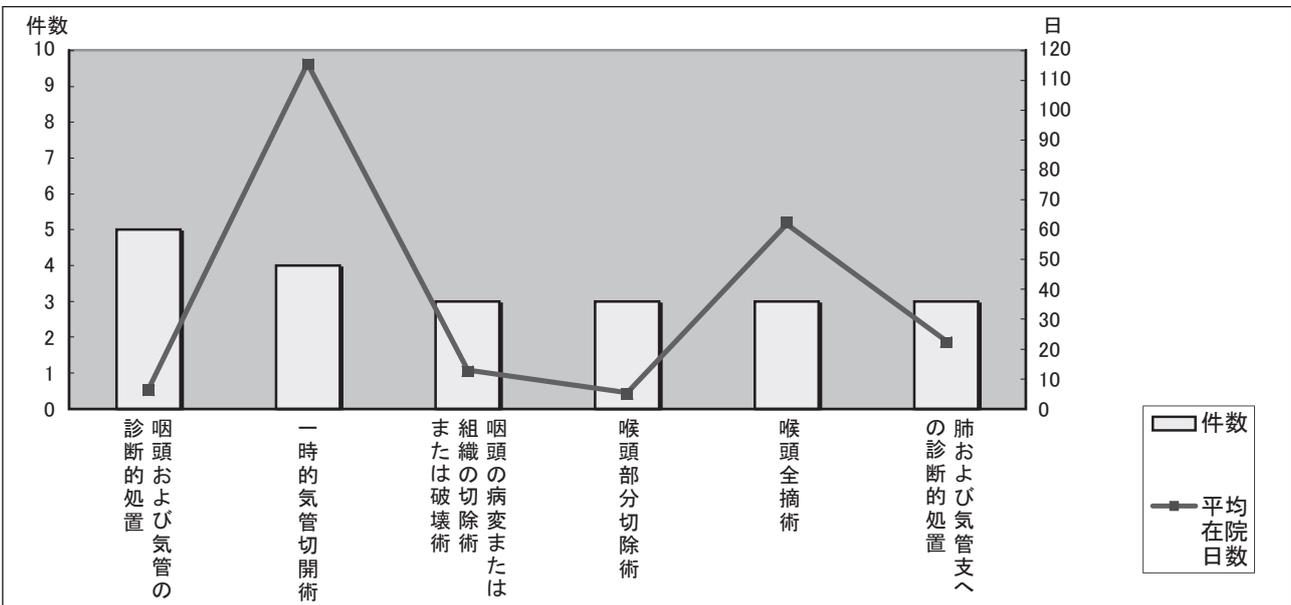
2011年1月～12月－5.鼻、口、及び咽頭の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
アデノイド切除術を伴わない口蓋扁桃摘出術	25	8
鼻外からの上顎洞開窓術	21	9
副鼻腔手術	17	11
アデノイド切除術を伴う口蓋扁桃摘出術	17	6
唾液腺切除術	10	9
咽頭の病変または組織の切除術または破壊術	10	34



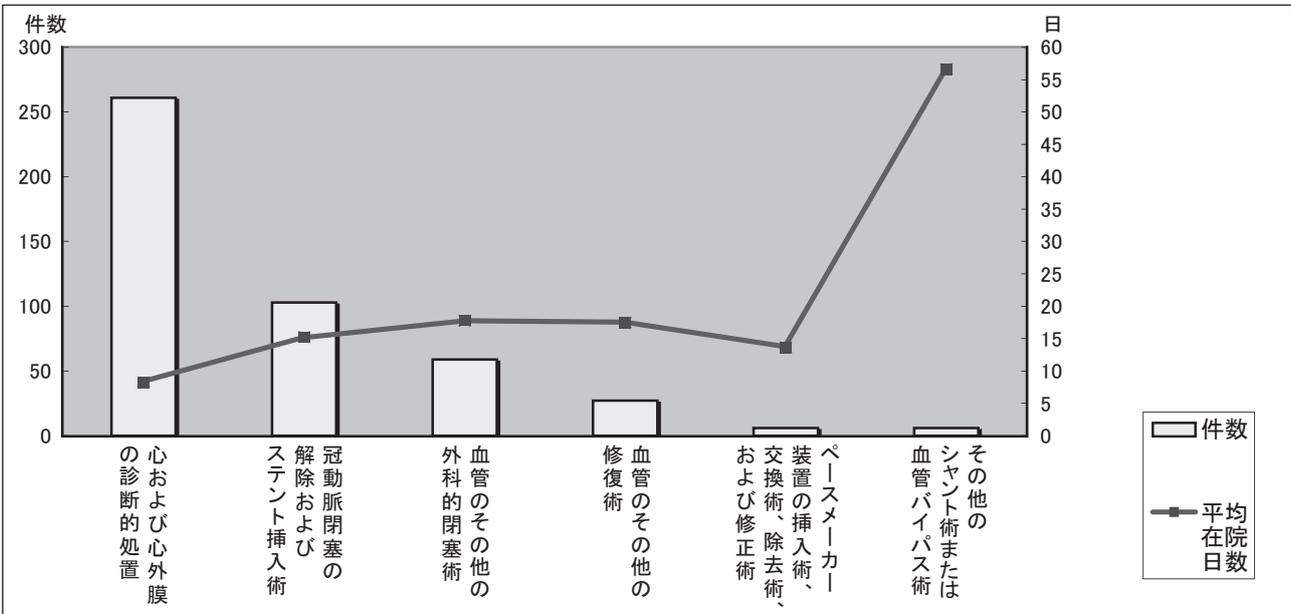
2011年1月～12月－6.呼吸器系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
咽頭および気管の診断的処置	5	6
一時的気管切開術	4	116
咽頭の病変または組織の切除術または破壊術	3	13
喉頭部分切除術	3	5
喉頭全摘術	3	62
肺および気管支への診断的処置	3	22



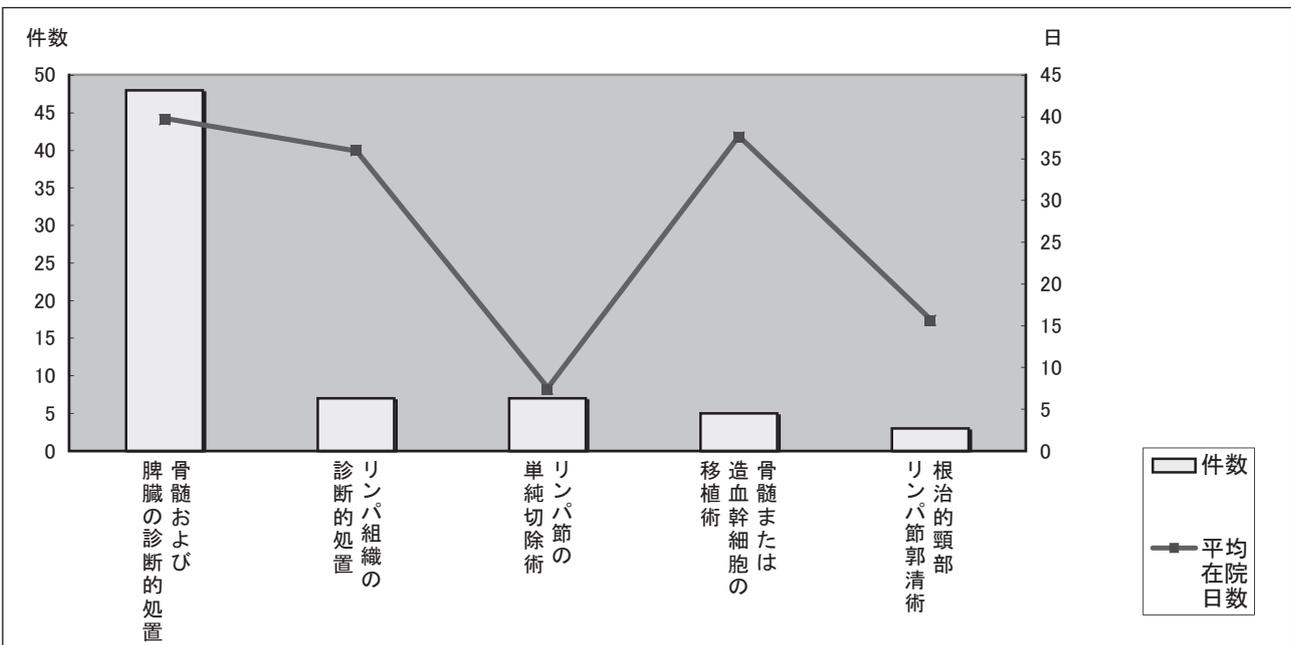
2011年1月～12月－7.循環器系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
心および心外膜の診断的処置	261	8
冠動脈閉塞の解除およびステント挿入術	103	15
血管のその他の外科的閉塞術	59	18
血管のその他の修復術	27	17
ペースメーカー装置の挿入術、交換術、除去術、および修正術	6	14
その他のシャント術または血管バイパス術	6	57



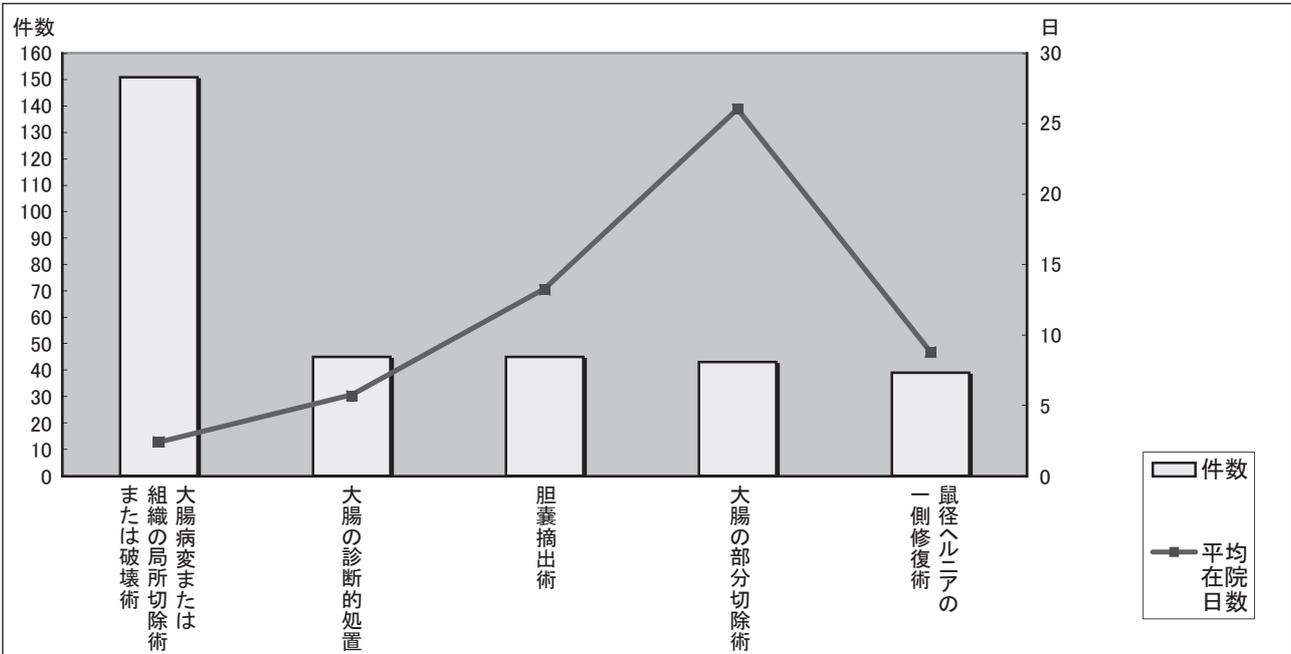
2011年1月～12月－8.血液系及びリンパ系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
骨髄および脾臓の診断的処置	48	40
リンパ組織の診断的処置	7	36
リンパ節の単純切除術	7	7
骨髄または造血幹細胞の移植術	5	38
根治的頸部リンパ節郭清術	3	16



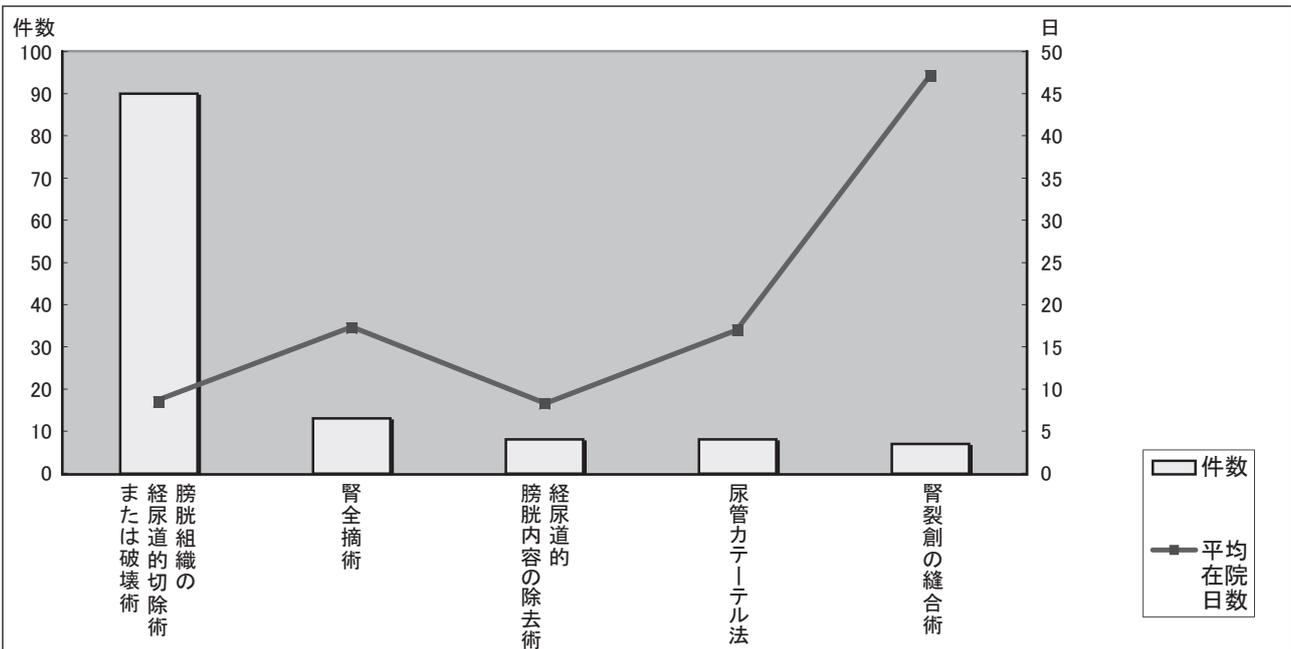
2011年1月～12月－9.消化器系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
大腸病変または組織の局所切除術または破壊術	151	2
大腸の診断的処置	45	6
胆嚢摘出術	45	13
大腸の部分切除術	43	26
鼠径ヘルニアの一側修復術	39	9



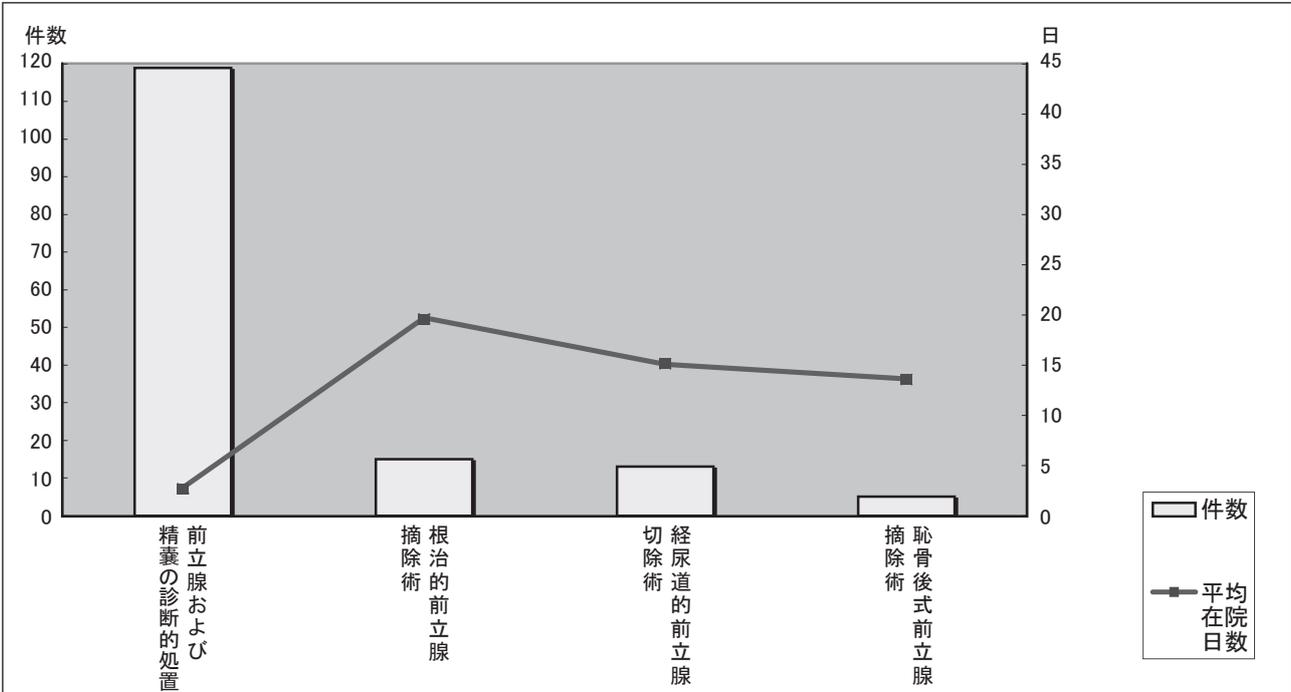
2011年1月～12月－10.尿路系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
膀胱組織の経尿道的切除術または破壊術	90	8
腎全摘術	13	17
経尿道的膀胱内容の除去術	8	8
尿管カテーテル法	8	17
腎裂創の縫合術	7	47



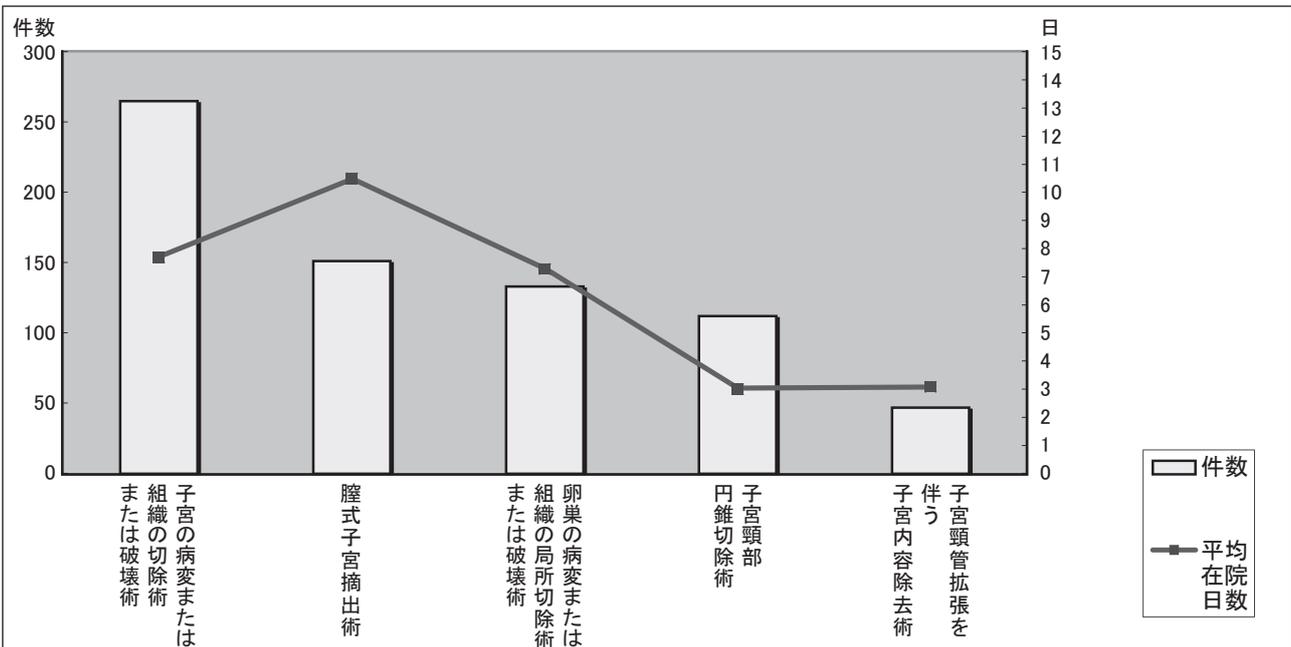
2011年1月～12月－11.男性生殖器の手術(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
前立腺および精嚢の診断的処置	119	3
根治的前立腺摘除術	15	20
経尿道的前立腺切除術	13	15
恥骨後式前立腺摘除術	5	14



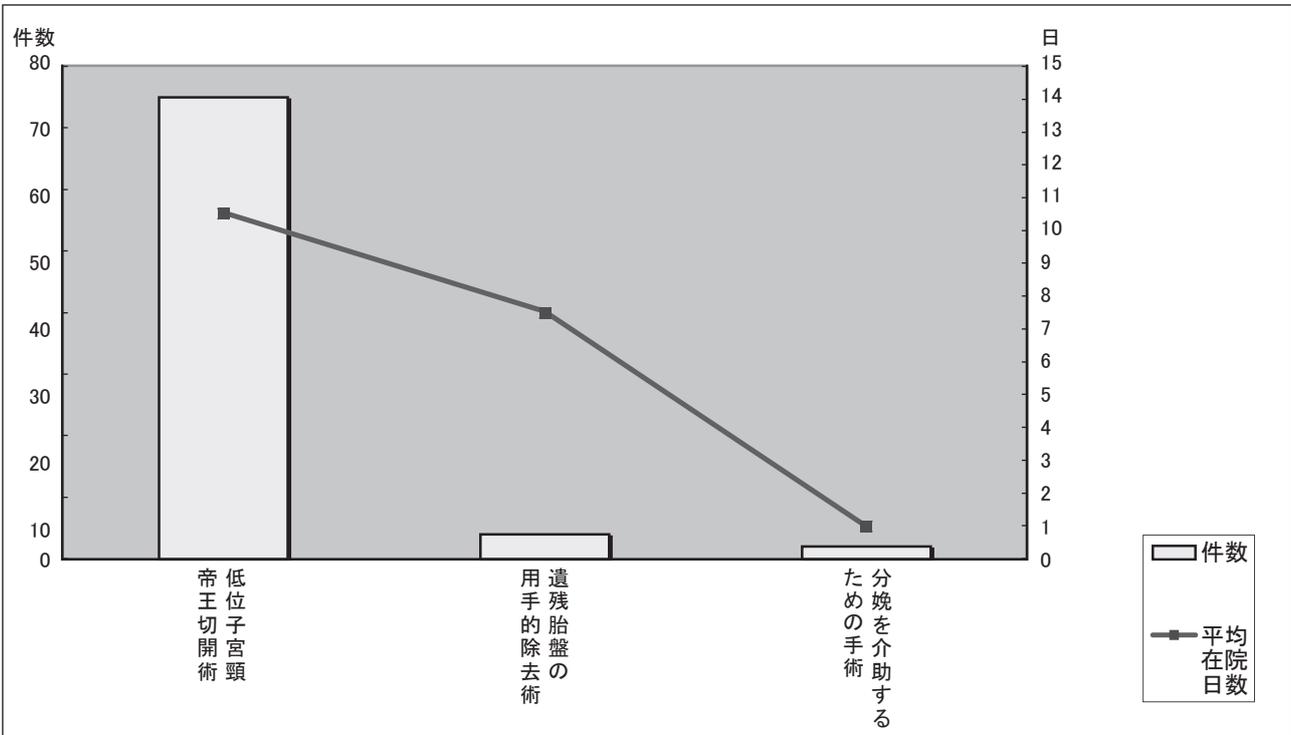
2011年1月～12月－12.女性生殖器の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
子宮の病変または組織の切除術または破壊術	265	8
腔式子宮摘出術	151	11
卵巣の病変または組織の局所切除術または破壊術	133	7
子宮頸部円錐切除術	112	3
子宮頸管拡張を伴う子宮内容除去術	47	3



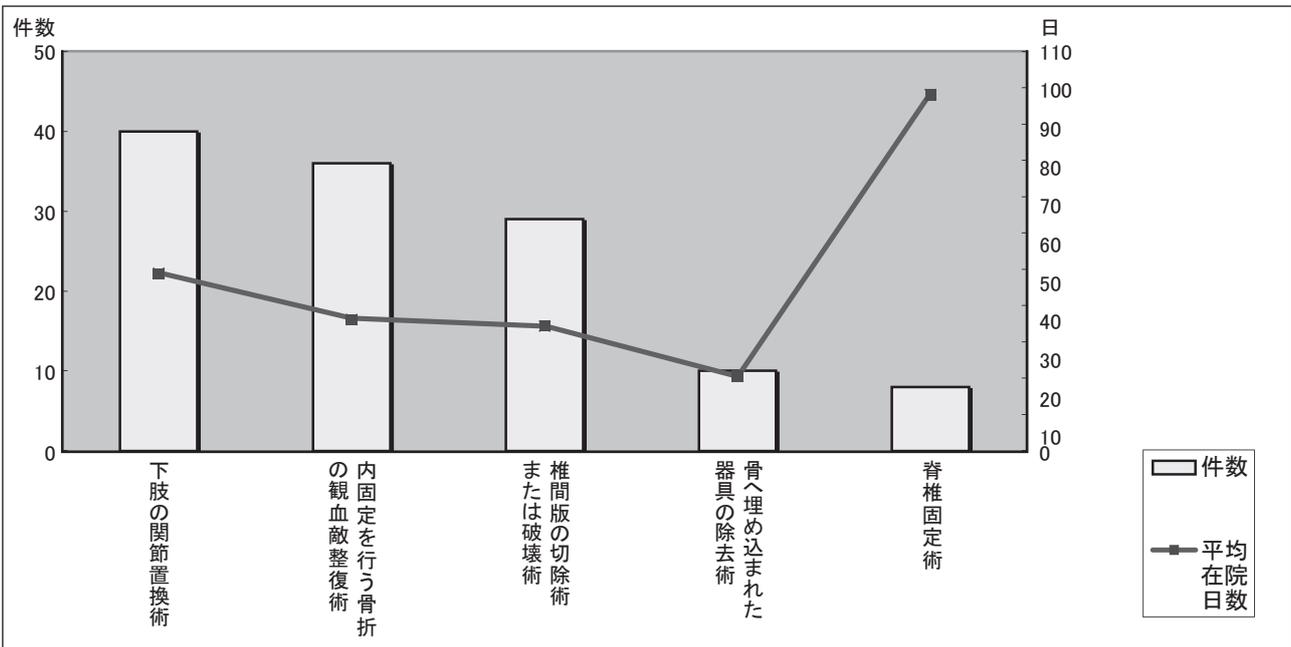
2011年1月～12月－13.産科的処置(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
低位子宮頸帝王切開術	75	11
遺残胎盤の用手的除去術	4	8
分娩を介助するための手術	2	1



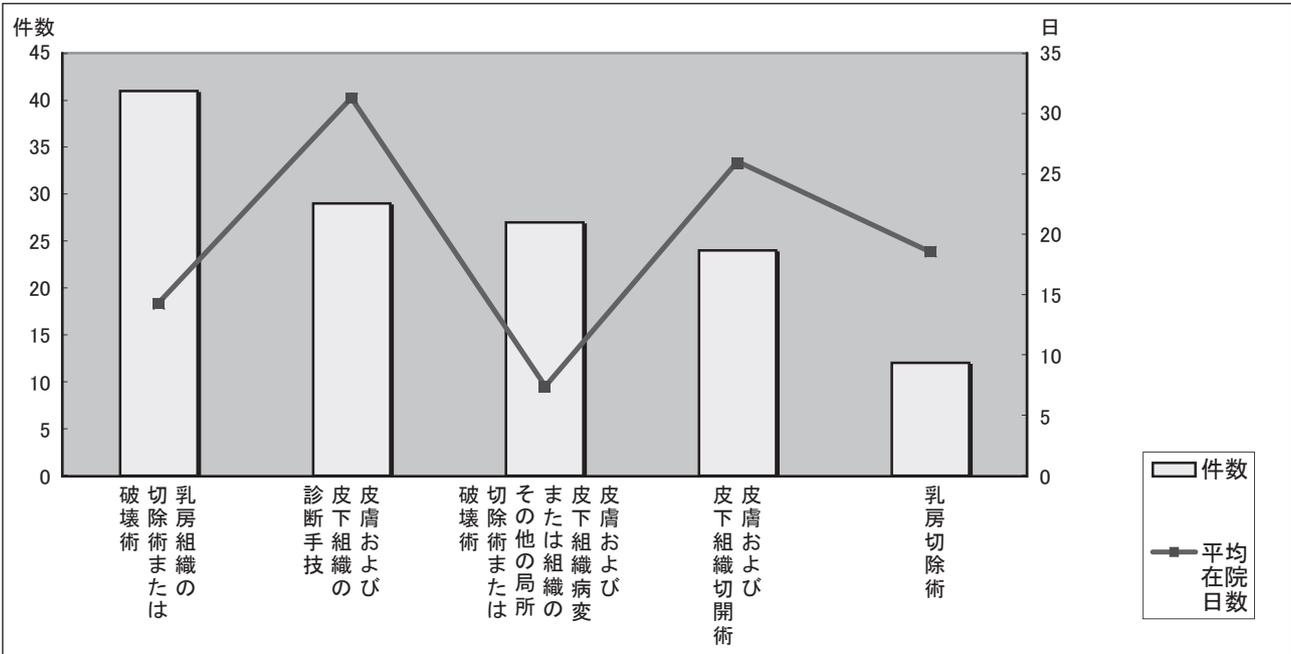
2011年1月～12月－14.筋骨格系の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
下肢の関節置換術	40	49
内固定を行う骨折の観血敵整復術	36	36
椎間版の切除術または破壊術	29	34
骨へ埋め込まれた器具の除去術	10	21
脊椎固定術	8	98



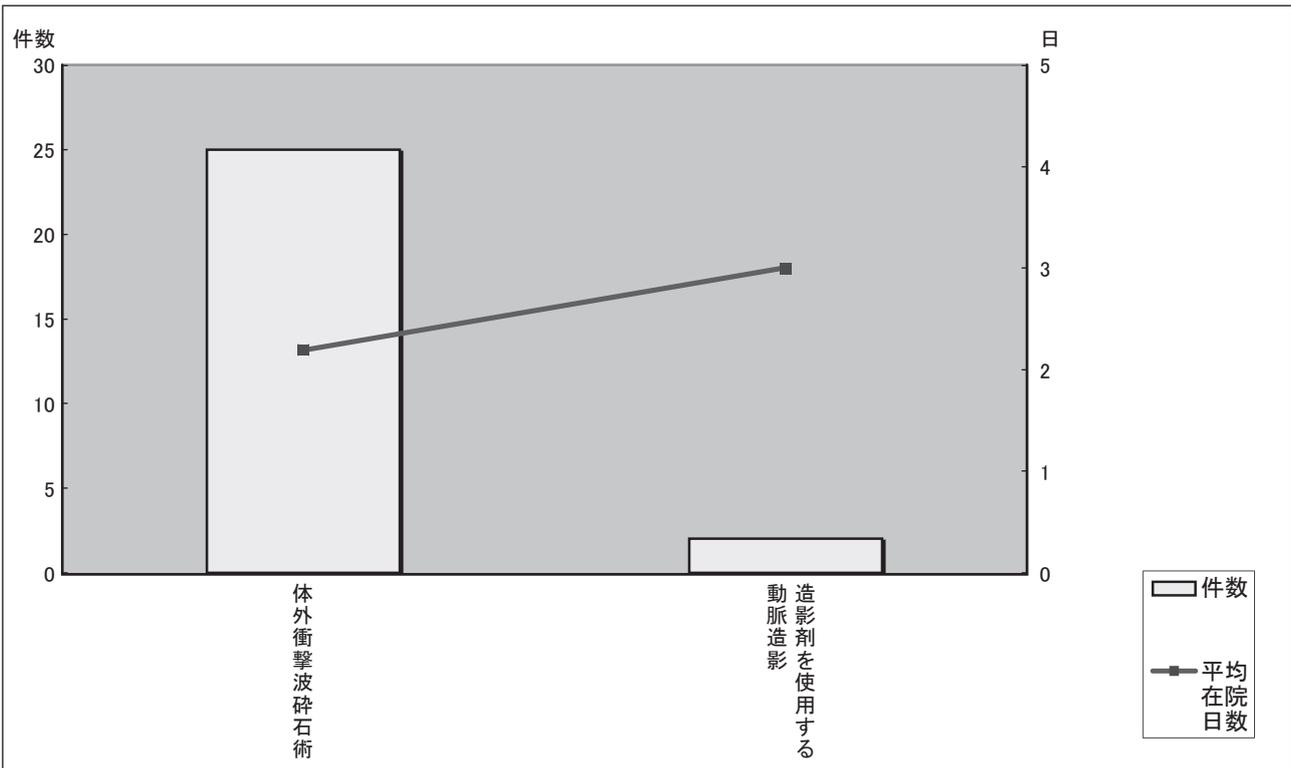
2011年1月～12月－15.表皮組織の手術トップ5(件数・平均在院日数)

主手術名	件数	平均在院日数
乳房組織の切除術または破壊術	41	14
皮膚および皮下組織の診断手技	29	31
皮膚および皮下組織病変または組織のその他の局所切除術または破壊術	27	7
皮膚および皮下組織切開術	24	26
乳房切除術	12	19



2011年1月～12月－16.多種の診断および治療(件数・平均在院日数)

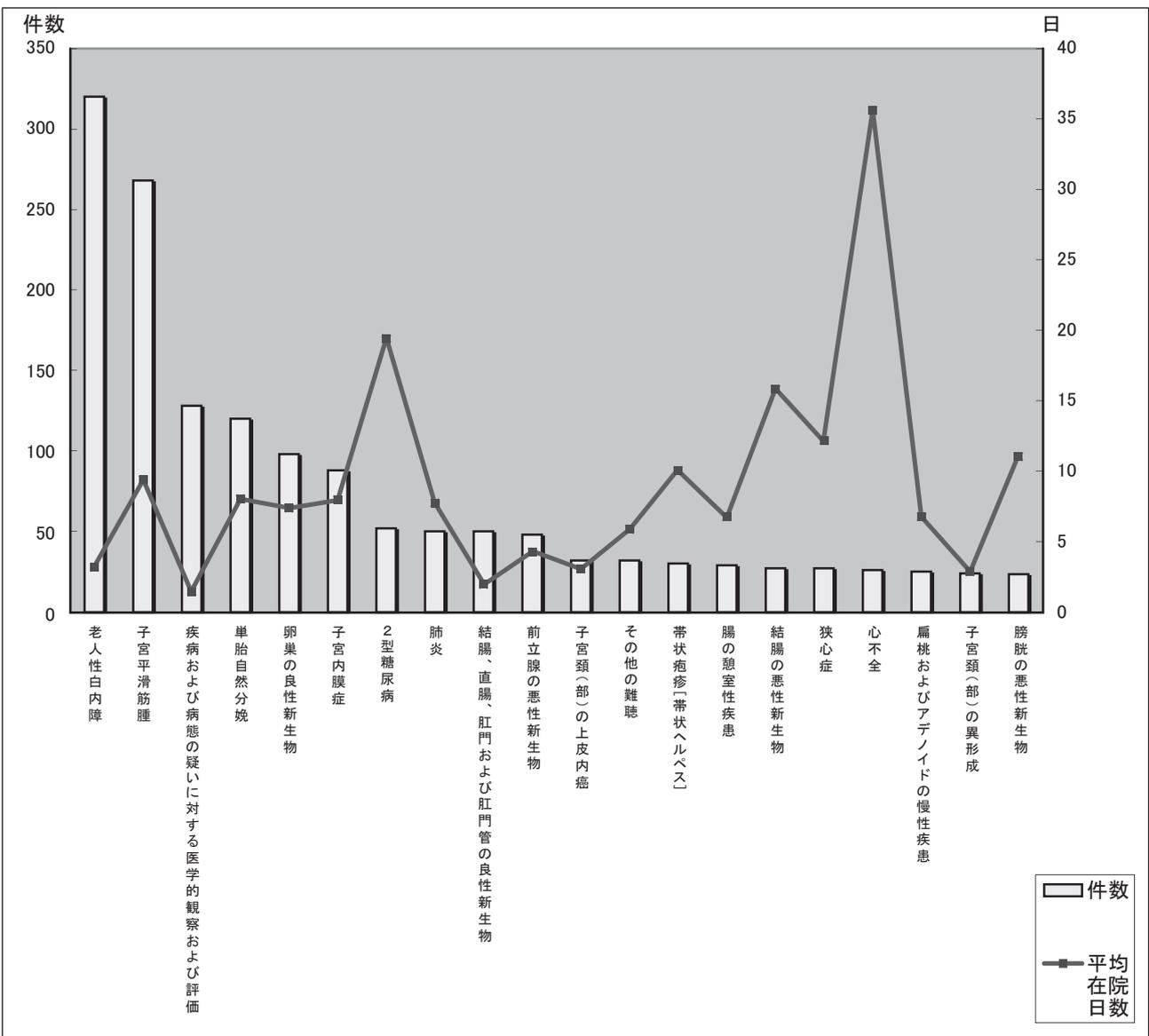
主手術名	件数	平均在院日数
体外衝撃波碎石術	25	2
造影剤を使用する動脈造影	2	3



6) 紹介入院患者 疾患トップ20

○2011年1月～12月紹介入院患者－疾患別トップ20(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
老人性白内障	320	3
子宮平滑筋腫	268	9
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	128	1
単胎自然分娩	120	8
卵巣の良性新生物	98	7
子宮内膜症	88	8
2型糖尿病	52	19
肺炎	50	8
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	50	2
前立腺の悪性新生物	48	4
子宮頸(部)の上皮内癌	32	3
その他の難聴	32	6
帯状疱疹[帯状ヘルペス]	30	10
腸の憩室性疾患	29	7
結腸の悪性新生物	27	16
狭心症	27	12
心不全	26	36
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	25	7
子宮頸(部)の異形成	24	3
膀胱の悪性新生物	23	11



◆ 2011年1月～12月紹介入院患者一科別疾患トップ3(件数・平均在院日数)

○ 循環器内科・神経内科

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症	27	12
心不全	25	36
慢性虚血性心疾患	19	11

○ 消化器内科

疾患名	件数	平均在院日数
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	100	1
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	50	2
腸の憩室性疾患	21	4

○ 総合内科

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	45	19
肺炎	21	23
固形物および液状物による肺臓炎	6	24

○ 血液・化学療法内科

疾患名	件数	平均在院日数
びまん性非ホジキンリンパ腫	17	44
骨髄性白血病	14	60
紫斑病およびその他の出血性病態	7	42

○ 神経科・精神科

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	10	51
統合失調症	1	16
双極性感情障害	1	30
その他の不安障害	1	141
強迫性障害	1	79
身体表現性障害	1	148

○ 小児科

疾患名	件数	平均在院日数
肺炎	44	5
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	16	5
気管支炎	14	5

○ 消化器・一般外科

疾患名	件数	平均在院日数
膵径ヘルニア	16	8
胃の悪性新生物	10	43
結腸の悪性新生物	10	37

◆ 2011年1月～12月紹介入院患者－科別疾患トップ3(件数・平均在院日数)

○ 乳腺外科

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	22	16
その他の部位の続発性悪性新生物	1	2

○ 整形外科

疾患名	件数	平均在院日数
脊椎障害および椎間板障害	24	33
大腿骨骨折	19	41
肩および上腕の骨折	13	24

○ 皮膚科

疾患名	件数	平均在院日数
帯状疱疹	27	9
乾癬	13	21
蜂巣炎	4	14

○ 泌尿器科

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	48	4
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	27	3
膀胱の悪性新生物	23	11

○ 産婦人科

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	268	9
単胎自然分娩	120	8
卵巣の良性新生物	98	7

○ 眼科

疾患名	件数	平均在院日数
老人性白内障	320	3
緑内障	14	5
角膜のその他の障害	7	24

○ 耳鼻咽喉科

疾患名	件数	平均在院日数
その他の難聴	32	6
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	25	7
慢性副鼻腔炎	19	9

○ 麻酔・緩和医療科

疾患名	件数	平均在院日数
帯状疱疹	1	16

## 第3章 診療業務

### 循環器内科・神経内科

#### 1. スタッフ

副院長兼部長 濱田偉文：浅野彰彦(神経)、佐竹範夫(～5月)(呼吸器)、仁科拓也(神経)

中川 厚(循環器)、長谷川浩司(循環器)、

頭司良介(～3月)(循環器)、村西寛実(循環器)

八木良樹(循環器)(4月～)

専攻医：岡本祐典(循環器)

#### 2. 診療活動

循環器内科では虚血性心疾患、高血圧、脂質異常症、各種不整脈、閉塞性動脈硬化症等の疾患の診断治療を行っています。その中心となる疾患は虚血性心疾患でありまして、平成23年は心エコー2137件、トレッドミル検査407件、ホルター心電図224件、PWV1068件、アデノシン負荷心筋シンチ121件、冠動脈造影CT159件、血管内超音波検査130件、冠動脈造影検査548件を施行し、PCI（経皮的冠動脈形成術）を136件に施行して良好な成績を上げています。また閉塞性動脈硬化症に対するPTA（経皮経管的血管形成術）を36例施行し、下大静脈フィルター挿入術を5件、ペースメーカー植え込み術10件を行っております。

神経内科では、眩暈や痺れといった身近な例から、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やパーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応し、難病疾患の在宅療養におきましても、地域の先生や訪問看護スタッフと連携して、病状の変化に柔軟に対応するように努力しています。

文責 濱田偉文

2011年1月～12月－主な入院患者(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症又は慢性虚血性心疾患	334	8
心筋梗塞	13	16
心不全	94	32
心房細動	38	24
脳梗塞/(後遺症4件含める)	20/(24)	68/(88)
パーキンソン病/(続発性1件含める)	8/(9)	25/(32)
閉塞性動脈硬化症	30	15
肺炎/(誤嚥性肺炎26件を含める)	46/(72)	18/(26)
糖尿病/(主病名が低血糖発作1件含める)	26/(27)	37/(38)

## 消化器内科

### 1. スタッフ

部長 中村秀次：担当部長 湯川雅彦(消化器内視鏡センター長兼任)  
 村本 理、福田昌輝(～3月)、稲次洋平  
 専攻医：有本伸子(～3月)

### 2. 診療活動

4名の常勤スタッフで、消化器疾患を主とした診療を行っている。消化器癌の早期発見に主眼を置き、外科・放射線科との連携のもと早期診断・早期治療に努めている。上部内視鏡検査では、拡大内視鏡、色素内視鏡を積極的に用いて診断精度の向上をはかっている。大腸内視鏡検査においては、軸保持短縮法による挿入法を用いて苦痛の軽減に努め、診断法としてはピットパターン診断を取り入れて、精度の高い診断を目指している。治療的手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術を行った。膵・胆管疾患に対しては、内視鏡的逆行性膵胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行った。膵癌、胆管癌、進行胃癌に対して全身化学療法を行った。肝疾患に対しては、慢性肝炎の抗ウイルス治療を積極的に行い、B型慢性肝炎に対するエンテカビル投与、C型慢性肝炎に対するPegIFN・Ribavirin療法を実施した。肝硬変に対しては、肝発癌抑制を目指したIFN治療、分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法を積極的に行い、肝硬変患者のQOLおよび生存率の向上を目指している。肝細胞癌に対しては、放射線科医との緊密な連携の元、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法(TACE)等の局所治療を実施するとともに、局所コントロール不能例、TACE無効例、血管侵襲例、転移例に対しては、分子標的治療薬の導入、全身化学療法、肝動脈動注療法を行っている。集学的治療を行いQOLおよび生存率の向上を目指している。

文責 中村秀次

### 消化器内科症例数(2011年1月～12月)

#### 消化器内科の疾患トップ10(入院件数)

疾患名	件数
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	152
肝および肝内胆管の悪性新生物	65
腸の憩室性疾患	61
結腸の悪性新生物	31
潰瘍性大腸炎	24
慢性ウイルス肝炎	20
アルコール性肝疾患	14
感染症と推定される下痢および胃腸炎	12
胃の悪性新生物	9
胃潰瘍	9

#### 内視鏡件数

検査名	件数
上部消化管内視鏡検査	2038
下部消化管内視鏡検査	884
内視鏡的治療	161
ERCP	26

#### 肝炎・肝癌の治療

	件数
C型慢性肝炎のPpegIFN/Ribavirin療法	20
肝癌の肝動脈化学塞栓療法・ラジオ波焼灼療法	61
肝癌に対する分子標的療法	3

## 総合内科（内分泌・代謝・糖尿病内科、リウマチ科、アレルギー疾患内科）

### 1. スタッフ

部長： 笠山宗正

担当部長：小瀬戸昌博(2012年1月～)

医長： 森田真也 副医長：宇都佳彦

専攻医：向井康祐 専攻医：出口令子

専攻医：平井孝一

#### <兼任>

佐藤文三(名誉院長)

三木俊治(救急診療科・臨床研修部)

住谷 哲(予防医学センター)

泉由紀子(予防医学センター)

#### <学会認定医および専門医の数>

日本内科学会認定内科医 8名

日本内科学会総合内科専門医 4名

日本内分泌学会専門医 4名

日本糖尿病学会専門医 3名

日本リウマチ学会専門医 1名

日本アレルギー学会専門医 1名

### 2. 診療活動

内分泌疾患・糖尿病・関節リウマチ・膠原病・感染症を中心に、専門性の高い診療を行うように心がけている。

#### ①入院診療

1日の入院患者数の平均は31名であった。

糖尿病患者の入院件数は135件（このうち1型糖尿病は10件）あり、昨年に比べて20件増加した。最近では、2型糖尿病患者であっても著しい高血糖とケトーススを呈し入院治療となる症例が増加している。その多くは、強化インスリン療法により高血糖を是正した後、経口血糖降下薬や食事療法のみで管理できる症例であった。患者教育のために、日本看

護協会糖尿病看護認定看護師と糖尿病療養指導士の資格を有する各スタッフの協力を得て、週4回の糖尿病教室を開催している。

内分泌疾患については、下垂体疾患の入院が20件、原発性アルドステロン症やクッシング症候群などの副腎疾患の入院が23件あった。

全身性エリテマトーデス、多発性筋炎などの膠原病患者の入院は8件あった。また、生物学製剤による治療を中心とした関節リウマチ患者の入院は4件あった。さらに、喘息重責発作による入院が8件あった。

そのほか、呼吸器感染症69件、急性腎盂腎炎14件、感染性胃腸炎13件など感染症の入院も多くあった。肝・胆道系悪性腫瘍の入院も10件あった。

#### ②外来診療

1日の外来患者数の平均は104名であり、他院からの紹介患者件数は年間660件あった。

糖尿病患者に対する外来でのインスリン導入や関節リウマチ患者に対する生物学的製剤による治療も積極的に実施している。

文責 笠山宗正

#### <外来診療日程>

	月	火	水	木	金
午前	笠山 宇都 平井	佐藤 三木 森田	佐藤 笠山 吉田	笠山 三木 宇都	小瀬戸 (24.1~) 前田 (~23.12) 向井
午後	笠山 森田 末村	佐藤 出口	佐藤 小瀬戸 (24.1~) 泉	笠山 住谷	佐藤

#### 2011年1月～12月－総合内科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	125	19.6
呼吸器感染症(肺炎、誤嚥性肺炎など)	69	21.4
下垂体疾患(下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など)	20	8.4
急性腎盂腎炎	14	11.6
感染性胃腸炎	13	12.5
副腎疾患(クッシング症候群、副腎腫瘍、褐色細胞腫など)	12	14.9
原発性アルドステロン症	11	5.5
脱水症	11	23.8
肝・胆道系の悪性腫瘍	10	27.6
1型糖尿病	10	27.6

## 血液・化学療法内科

### 1. スタッフ

部長 中川雅史：川上 学、石河 純(4月～)

専攻医：竹本雅子

### 2. 診療活動

急性白血病・慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの血液悪性疾患および、溶血性貧血・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病など、血液疾患の全般的に診察にあたっている。特に、再発・難治性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植併用大量化学療法に積極的に取り組んでいる。また、同種骨髄移植に関しても、スタッフ全員が十分な経験を有しており、移植前の管理・移植病院へのスムーズな引き継ぎ・移植後ケアなどすべての面で診療を行なっている。一方、高齢化にともない増加傾向を認める骨髄異形成症候群に対しても、地域の血液専門診療科として、積極的に在宅・通院治療に取り組んでいる。

文責 中川雅史

2011年1月～12月－血液・化学療法科の疾患トップ7(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
悪性リンパ腫	82	43
急性骨髄性白血病	33	53
多発性骨髄腫	26	31
骨髄異形性症候群	22	29
急性リンパ性白血病	19	33
特発性血小板減少性紫斑病	12	30
再生不良性貧血	10	41

## 神経科・精神科

### 1. スタッフ

部長 江川 功：高橋 励、木藤友実子

### 2. 診療活動

当科の診療活動は外来（専門外来を含む）、自科入院、他科入院患者の診療の3つである。

一般外来では、うつ病、パニック障害、適応障害などの一般的な加療のほか、身体表現性障害、強迫性障害、全般性不安障害などの神経症圏のものが多い。専門外来は一般診療の時間枠内で行われており慢性疲労症候群、てんかん、睡眠障害等に対応している。また木藤友実子が認知症の早期診断を行っており、昨今の高齢化に伴い紹介症例数はかなりの増加傾向にある。外来での心理分野では、認知症スクリーニング、ストレス測定バッテリー、人格障害スクリーニング、うつ病の重症度評価などを行っている。また患者の希望に応じ一部症例ではカウンセリングも施行している。

自科入院は精神科を標榜する一般病棟での診療であり、入院患者の内訳は表に示す通りうつ病が中心となっているが、神経症圏、てんかん及び一部軽症の統合失調症の患者の入院も受け入れている。これは当科を受診する患者の傾向を一部反映していると考えられるが、一方で、精神病圏、認知症を含む症状性・器質性精神障害は入院よりも外来における診療が中心となっている。

近年入院加療を行っている総合病院精神科の減少が続いており、診療所からの紹介患者の受け入れが従来よりも高まっている。社会的要因や疾患の特徴などから単科での入院が困難なケースにはできる限り対応するように心がけている。また外来部門でも縮小や閉鎖する病院は本年も増加傾向にあり、外来数は少しづつ増加しており、紹介以外は受け入れが困難な状態になっている。

院内の他科入院患者の診察依頼は共観および往診の形態で行われており、適応障害、せん妄、身体化病態などへの対応が中心となっている。またがん治療センターの設立に伴い緩和ケアへの取り組みも高橋、丸山（臨床心理士）を中心に積極的に行っている。予防センターと協力して企業のメンタルヘルス等にも取り組んでいるがまだ不十分なので更に推し進めていく必要がある。

文責 江川 功

2011年1月～12月－神経科・精神科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	53	51
不安障害	10	67
双極性感情障害	7	45
統合失調症	5	37
認知症	4	60
重度ストレスへの反応および適応障害	4	40
強迫性障害(強迫神経症)	3	76
身体表現性障害	3	88
神経症性障害	3	29
神経系のその他の変性疾患	3	115

## 小児科

### 1. スタッフ

部長 山根秀一：植田 仁

### 2. 診療活動

- a. 常勤医師数は変わりなかった。
- b. 年間入院患者数は延べ2185人、年間外来患者数は述べ10960人、救急受診者数は述べ351人、年間入院患者死亡数は0人であった。
- c. 総入院件数は341件で前年に比して34件減、そのうち小児科入院した新生児は80件で、前年に比して15件減であった。
- d. 一般小児科入院は例年通り、大半が感染症によるものであった。全国的な流行に一致してマイコプラズマ肺炎・気管支炎が多く、29件（疑い含む）あった。川崎病は5件で、すべて超大量ガンマグロブリン療法が著効した。他に目立ったところではBasedow病が2件、全身型若年性特発性関節炎が3件（1人）、Leigh脳症が2件（1人：検査入院）、ネフローゼ症候群が1件、遺伝性球状赤血球症の溶血発作が1件あった。
- e. 一般小児科入院のうち、高次医療機関へ転医となったのは、腹部腫瘍があり、転医先で手術の結果、後腹膜奇形腫と診断された例と、全身型若年性特発性関節炎として入院加療中にマクロファージ活性化症候群をきたした例の2件であった。
- f. 総出生数は447件で前年に比して22件（4.7%）減であった。そのうち約17.9%に当たる80件が小児科入院となった。仮死および呼吸障害による入院が32件（40%）と前年に比して29件減少した。在胎週数短縮もしくは低体重によるものが8件（10%）を占めた。21 trisomyの出生は例年より少なく1件であったが、当科管理とはならなかった。
- g. 高次医療機関へ新生児搬送になったのは1件（1.3%）で、生後すぐに多呼吸・チアノーゼ・低血糖・心拡大を認めた児で、転医先で新生児一過性多呼吸・新生児低血糖・心室中隔欠損と診断され、ラシックス・ソルコーテフ投与を要した例であった。

文責 山根秀一

#### 2011年1月～12月－小児科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
細菌性肺炎	40	5
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	36	5
肺炎	30	5
急性気管支炎	22	6
急性細気管支炎	13	6
感染症と推定される下痢および胃腸炎	11	5
ウイルス肺炎	10	5
気管支喘息	8	4
インフルエンザ	5	6
川崎病	5	10

#### 2011年1月～12月－新生児の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
新生児低血糖症	22	9
新生児吸引症候群	10	8
新生児の呼吸窮<促>迫	8	8
新生児嘔吐症	7	9
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	5	10
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	5	5
出生時仮死	3	5
先天性肺炎	3	11
新生児気胸	3	9
周産期に特異的なその他の感染症	3	7

## 消化器・一般外科

### 1. スタッフ

部長 藤川正博：黄 泰平、前田庄平(5月-12月)、森田哲史(10月-12月)、  
安政啓吾(1月-6月)、南有紀子(1月-4月)、  
秋武宏規(1月-3月)、吉良俊彦(4月-12月)

### 2. 診療活動

平成23年の治療実績および在院日数を表で示す。消化器一般外科の手術件数は全身麻酔239例、腰椎・硬膜外麻酔17例、局所麻酔42例であった。

おもな良性疾患に対する手術は、胆石症、総胆管結石症、胆嚢腺筋症など胆嚢良性疾患に対する手術(胆嚢摘出術、胆道再建術など)が50例(腹腔鏡下43例、開腹7例)、ソケイ部のヘルニア修復術46例、急性虫垂炎などに対する虫垂切除術23例(うち腹腔鏡下5例)であった。また、特発性血小板減少性紫斑病などに対する腹腔鏡補助下脾摘術を4例行った。胆石症では炎症が高度な症例に対しても積極的に腹腔鏡下手術を施行し、また通常の胆石症に対する場合でも、より合併症の少ない、クリップなどの異物を遺残させない“上質の腹腔鏡下胆嚢摘出術”をこころがけている。

悪性腫瘍切除手術は84例で、部位別の内訳は大腸51例(うち腹腔鏡補助下7例)、胃十二指腸20例、肝8例、胆道2例、膵4例(うち膵頭十二指腸切除2例)であった。各領域の悪性腫瘍の手術数は前年とほぼ同程度であった。腹腔鏡補助下結腸切除は原則として早期癌、良性腫瘍に適応を限定して行ってきたが、症例数は増加傾向にあり、今後一部の進行癌にも適応を拡大していく予定である。

在宅医療の推進とDPCの観点から、術後症例に対しての補助化学療法のみならず、進行再発癌に対する化学療法は、ほとんどの症例を外来通院で行っている。大腸癌進行再発症例に対するFOLFOX、FOLFILI療法などの化学療法や在宅経静脈栄養のため、また他科からの依頼によるCVポート留置術を22例に行った。

文責 藤川正博

2011年1月～12月－消化器・一般外科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
結腸の悪性新生物	52	24
兪径ヘルニア	44	9
胆石症	42	13
胃の悪性新生物	31	29
急性虫垂炎	26	10
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	18	21
消化器系の処置後障害	18	21
直腸の悪性新生物	15	30
膵の悪性新生物	13	23
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	13	5

## 乳腺外科

### 1. スタッフ

部長 西田 幸弘：橘高 信義

### 2. 診療活動

#### 1) 紹介

平成20年10月より開設致しました。平成22年4月より大阪大学乳腺内分泌外科より医局員を派遣していただき2名体制となりました。

#### 2) 診療方針

乳癌検診に関しては、マンモグラフィーと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となります。腫瘍のある方は当日中に細胞診等を施行し1週間後には結果を出すシステムです。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の外来化学療法センターにて、術前・術後ともに通院での外来化学療法を行います。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応します。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し、必要に応じて再建術にも対応いたします。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検でより確実な診断を目指します。診断部門では微細な石灰化に対する診断としてマンモトーム生検も実施しております。

#### 3) 統計

外来化学・分子標的療法は80～100例/月、超音波・マンモグラフィは約150例/月、手術数は79例でした。

文責 西田幸弘

2011年1月～12月－乳腺外科の疾患(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	79	14
乳房の良性新生物	8	3
乳房の画像診断における異常所見	2	2
リンパ節の続発性および部位不明の悪性新生物	1	2
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	1	13
その他の部位の続発性悪性新生物	1	2
乳房の詳細不明の塊	1	2
リンパ節腫大	1	2

## 整形外科

### 1. スタッフ

部長 稲岡 正裕：三木 宏真、 藤島 弘顕

専攻医：吉田 博一

平成23年3月31日付けで、辻本 貴志 専攻医は転出、平成23年4月1日付けで、吉田 博一 専攻医が着任、平成23年12月31日付けで、藤島 弘顕 副医長は転出、平成24年1月1日付けで、友永 真人 医長が着任した。

### 2. 診療活動

- a. 外来診療は、初診担当医1名、再診担当医1名の2名体制とした。平均外来患者数は1日約70名であった。変形性関節症や腰痛症、頸肩腕痛などに対して、薬物療法、理学療法、物理療法、装具療法、ブロック療法などの保存的治療を行った。義肢装具は火、木、金曜日の午前を作製日とした。スタッフ4人体制により、水曜日は手術日として外来業務は休診とした。
- b. 専門外来は、金曜日の午後に脊椎外来（担当：稲岡）火曜日の午後に関節外来（担当：三木）を継続し、特に専門的な対応を要する患者の診療や術後経過観察などを行った。木曜日の午後に身障診断等に関する診察を行った。
- c. 入院診療において、手術件数は、平成22年は総手術件数は207件であり、総手術件数は前年と横ばい状態であった。内訳は、脊椎疾患、関節疾患、外傷、及びその他に分類すると、脊椎疾患は49件、内訳は椎弓形成術などの頸椎疾患が13件、椎弓切除術や後方進入椎体間固定術、脊椎短縮固定術など胸腰椎疾患が36件であった。関節疾患においては、人工膝関節置換術22件、半月板処置や靭帯再建術、Lavageなど膝関節鏡視下手術9件、人工股関節置換術6件、人工骨頭置換術22件、ガンマーネイルなど骨接合術8件であった。四肢の骨折に対する骨接合術や鋼線固定術31件、靭帯、腱の縫合など4件、手根管症候群や肘部管症候群など末梢神経に対する手術や腱鞘炎に対する腱鞘切開など19件、腫瘍性疾患に対する切除術や生検術8件であった。
- d. リハビリテーション室では、リハビリ診療を整形外科がバックアップした。理学療法、作業療法とともに整形外科の疾患に十分な対応ができるように配慮し、その件数は本年も昨年を上回るものとなった。
- e. 整形外科における診療及び学術に関する定期的会議としては、抄読会は毎週金曜日早朝、術前検討会議は毎週金曜日午後、病棟会議、リハビリ連絡会議は毎月1回行った。

文責 稲岡正裕

#### 2011年1月～12月－整形外科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
脊椎障害および椎間板障害	71	38
大腿骨骨折	29	63
腰椎および骨盤の骨折	18	43
膝関節症	16	41
肩および上腕の骨折	13	18
前腕の骨折	9	18
下腿の骨折(足首を含む)	7	32
膝の関節および靭帯の脱臼、捻挫およびストレイン	7	23
多部位の骨折	7	38
整形外科的経過観察ケア	7	9

## 皮膚科

### 1. スタッフ

部長 東山真里(日本皮膚科学会認定皮膚科専門医)：佐藤綾子(～4月)、中川幸延(5月～H24年3月)  
専攻医：平野亜由子、遠山知子(6月～12月)、林美沙

### 2. 診療活動

#### a. 特色

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、円形脱毛症、尋常性白斑などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗ガン剤による皮膚障害など皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。

#### b. 症例数・治療・成績

(外来) 2011年の外来患者数は1日平均113名。紹介患者数 516名。専門外来：【乾癬外来】月平均新患数は10名で再診は延べ300名余り。(1)1. 外用療法 2. 光線療法(入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射-全身型、エキシマライト) 3. 内服療法(レチノイド、シクロスポリン) 4. 生物学的製剤も導入。これらより個々の患者に最適な治療を選択(2)扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因につき精査。(3)重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、ウステキヌマブなどの生物学的製剤を積極的に導入。特に関節症性乾癬にも奏効。整形外科医と診断と治療につき連携。入院、外来とも可能。(4)療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める【アトピー外来】重症例では光線療法やネオオーラル療法も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科との連絡を密に総合的に診療を行う。【皮膚外科外来】良性悪性腫瘍、ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。年間手術件数245件(全身、腰椎、麻酔手術6件含む)皮膚生検数 350件/年

\*医療設備 薬浴室(外来、病棟とも)全身型紫外線照射装置(UVA、UVB、ナローバンドUVB、エキシマライト) \*外来診療 主治医制で再診は予約制。原則3診体制で診察。初診外来あり(月、水曜は東山担当)。再診外来は月～金(午前)。専門外来：乾癬外来は火、木(午後)、予約制。アトピー外来は木・金(午前)、皮膚腫瘍外来は水(午前)

\*入院 新入院患者数は年間234名、1日平均9名で、帯状疱疹(72名)、重症乾癬(49名)、蜂窩織炎(17名)、皮膚悪性腫瘍(11名)、丹毒(8名)皮膚良性腫瘍(6名)など

#### c. 学術活動

論文・著書：2編 学会発表：22演題

日本皮膚科学会大阪地方会、日本乾癬学会などに発表。

文責 東山真里

2011年1月～12月－皮膚科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
帯状疱疹	72	9
乾癬	49	14
蜂巣炎	17	15
皮膚の悪性新生物(悪性黒色腫以外)	11	13
丹毒	8	12
良性脂肪腫性新生物(脂肪腫を含む)	6	5
下肢の潰瘍、他に分類されないもの	6	43
水痘	5	8
摂取物質による皮膚炎	5	18
皮膚の上皮内癌	4	17
メラニン細胞性母斑	4	4

## 泌尿器科

### 1. スタッフ

部長 黒田 昌男：福井 辰成 花房 隆範 中田 渡(～3月)  
専攻医：金宮 健翁(4月～)

### 2. 診療活動

- a. **膀胱癌**に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術101例、根治的膀胱全摘除術6例（自排尿型代用膀胱形成術3例・回腸導管造設術3例）に対して行いました。6例に多剤併用全身化学療法を施行しました。膀胱癌の治療あるいは膀胱内再発予防としてBCG膀胱内注入療法を39例に施行しました。膀胱固有筋層に浸潤する膀胱癌に対しては、再発した場合致命的となる実験的な膀胱温存療法ではなく、標準的治療である根治的膀胱全摘除術を行い、尿路変向としてQOLの良い自排尿式代用膀胱形成術を多く行うようにしています。
- b. 前立腺生検を138例に行い、新たに**前立腺癌**と診断された71症例に対して、抗男性ホルモン療法43例、前立腺全摘除術（ミニマム創内視鏡下）16例、放射線治療4例を行いました（診断が平成22年で翌年に治療を行った症例を含む）。11例は悪性度が低く、余命に影響を与えない小さい癌として待機療法（治療せず経過観察のみ）としました。  
70歳以上の症例に前立腺全摘除術を行うと、尿失禁を生じやすいことから、全摘は原則として70歳未満の症例に対して行うことにしています。前立腺外に浸潤する癌に対しても、本邦では抗男性ホルモン療法を行った後に前立腺全摘除術がよく行われていますが、再発率が高く、癌が残るのみならず尿失禁も残るため、前立腺全摘除術は癌が前立腺内にとどまっている病期のみに限るようにしています。抗男性ホルモン療法の副作用を軽減し医療費も節約できる間歇的抗男性ホルモン療法を取り入れています。
- c. **前立腺肥大症**に対する外科的治療として、経尿道的前立腺切除術（経尿道的核出術を含む）15例、前立腺被膜下摘除術4例を行いました。腫大が高度な場合には、バイポーラ電気メスを用いた経尿道的核出術（TUEB）を主に行っています。
- d. **尿路結石**（腎結石、尿管結石）に対して、入院して体外衝撃波碎石術（ESWL）を行ったのが35例、外来通院で45例に行っています。経尿道的膀胱碎石術を10例に、経尿道的尿管碎石術を5例に行いました。
- e. 経尿道的手術以外の**内視鏡手術**を12例に行いました。腎癌に対する腎摘除術1例、腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘除術9例、副腎摘除術1例、精巣静脈結紮術1例です。手術時間はやや延長しますが、開腹手術に比べて術後の鎮痛剤の投与量が著しく減量でき、患者様のQOLが良好で、術後の回復期間が短く、在院日数も短縮できます。現在、対象としているのは、腎悪性腫瘍、腎盂尿管悪性腫瘍、水腎症、尿管狭窄、副腎腫瘍などです。腎悪性腫瘍、腎盂尿管悪性腫瘍、後腹膜腫瘍で、開腹手術を行った症例は、各々7例、3例、1例で、大きな悪性腫瘍以外は内視鏡手術を行うことにしています。
- f. 女性の尿失禁は中年以降の女性の3分の1に認められる疾患ですが、今までは手術成績が満足できるものではありませんでした。**TVT手術**（3例施行）は、治療成績も良く手術侵襲も小さいことから広く行われるようになってきました。当科では薬物療法、運動療法で十分な効果が得られなかった症例に行い、尿失禁は改善しています。
- g. 慢性腎不全症例に対して血液透析を行っています。9例に内シャントを造設し、血液透析療法の導入を行いました。

文責 黒田昌男

### 2011年1月～12月－泌尿器科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
膀胱の悪性新生物	120	14
前立腺の悪性新生物	94	7
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	38	3
腎結石および尿管結石	24	3
前立腺肥大症	18	11
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	16	4
前立腺の炎症性疾患	16	4
腎盂の悪性新生物	15	12
尿管の悪性新生物	15	9
腎盂を除く腎の悪性新生物	12	32

## 産婦人科

### 1. スタッフ

副院長兼部長 船渡孝郎：佐伯典厚、大塚博文、久 毅(～11月)、吉見佳奈  
橋本奈美子、小玉美智子  
専攻医 尾上昌世(2年次)

### 2. 診療活動

H22年9月より産休に入られていた小玉先生がH23年4月に産休明けで復帰されました。

9月に久 毅先生と橋本 奈美子先生が日本産科婦人科内視鏡技術認定医を取得され、当院には5名の内視鏡技術認定医が在籍することとなり、民間病院では最多の認定医数を擁する病院となりました。又先進医療である腹腔鏡下子宮体部がん根治術を認可取得する為、当院倫理委員会の承認を得て5症例を実施し、近畿厚生局に認可申請を提出しました。

12月に久 毅先生が大学人事で府立成人病センターに異動になり、再び7名体制に戻りました。

#### a) 産科

分娩数447件 帝王切開術76件 帝王切開率17%

#### b) 婦人科

手術総数：931件（産科手術117件を含む）

##### 内視鏡手術

■腹腔鏡下手術 508症例

(TLH：136、TLM：112、LAM：39、卵巣腫瘍：137

内膜症性のう胞：65、その他：14、子宮体部がん根治術：5)

■子宮鏡下手術(TCR)72症例

##### 開腹手術

単純子宮全摘術：10、筋腫核出術：5、広汎子宮全摘術：6、卵巣癌12、

卵巣腫瘍(LPM)：10、子宮体部がん：5、帝王切開術：77、その他：10

##### 経膈手術

円錐切除術：108、レーザー蒸散：1、子宮内容清掃術：40、その他：39

##### 骨盤内臓器脱

TVM手術：34、その他の骨盤内臓器脱手術：4

[実績はH23年1月～H23年12月まで]

文責 船渡孝郎

### 2011年1月～12月－産婦人科の疾患トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	332	9
単胎自然分娩	327	8
卵巣の良性新生物	116	8
子宮内膜症	104	8
子宮頸部の上皮内癌	47	3
子宮頸部の異形成	47	3
既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	44	11
卵巣の悪性新生物	39	20
女性性器脱	36	11
女性性器のポリープ	35	4

## 眼科

### 1. スタッフ

部長 杉本 麗子(～7月)、部長代行 島袋 幹子(7月～)：瀬口 道秀

当院眼科は大阪大学眼科の関連病院で、医師：常勤2名、非常勤4名、看護師：3名（うち非常勤1名）、視能訓練士：4名（うち非常勤2名）、眼鏡士2名、医療事務1名の体制で、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めております。質の高い医療の提供と患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げています。また病診連携を積極的に進めており、オープンシステムも推進し、かかりつけ医との連絡を密に取りながら、診療を行っております。

### 2. 診療活動

#### a. 全般

一般的な眼科疾患の診断・治療、特に白内障手術、角膜移植手術、緑内障手術、網膜硝子体手術など幅広く行っています。2011年ののべ手術件数は白内障690件・緑内障36件・網膜硝子体10件・角膜移植術16件・眼瞼形成手術16件など観血的内眼手術774件（日帰り・入院合計）でした。

b. 白内障手術は主として日帰り、あるいは一泊入院体制を中心に、患者様の希望に沿った入院期間を設定しています。術式は99%以上が角膜小切開超音波白内障手術+foldable眼内レンズ挿入術（切開創2.2～3mm）で、重篤な術後合併症も認めませんでした。LASIK術後の方の白内障手術を始めました。

c. 角膜移植術については、輸入角膜による予定入院の手術体制をとり、我が国のドナー角膜の提供を待つ場合と異なり、ある程度ご希望に合わせた日程で、手術の施行が可能です。角膜白斑、水疱性角膜症、角膜変性症などを主な適応とし、一般的には2週間程度の入院で、全層角膜移植、表層角膜移植、上皮移植、角膜内皮移植などを症例に応じて施行し、重篤な合併症も認めていません。

d. 緑内障では、眼圧日内変動測定入院の必要な症例では適宜施行し、眼圧日内変動パターンに応じて個々の患者様に最適な、24時間単位の質の高い眼圧コントロールを心がけています。閉塞隅角緑内障には超音波生体顕微鏡（UBM）による隅角閉塞機序の診断を積極的に追加し、開放隅角緑内障には選択的レーザー一線維柱帯形成術（SLT）も積極的に施行しています。手術治療が必要な症例には主にトラベクトミーを選択し、術後合併症も重篤なものを認めていません。

e. 網膜・硝子体疾患については、増殖硝子体網膜症疾患、特に黄斑浮腫例（糖尿病性、網膜静脈閉塞など）に対して積極的に手術治療を選択し、大部分の例では網膜機能の改善を得ています。

文責 島袋幹子

2011年1月～12月—眼科の疾患(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
白内障	559	3
緑内障	30	8
角膜の障害	16	19
網膜の障害	10	10
水晶体のその他の障害	3	5
その他の網膜障害	3	6
眼瞼のその他の障害	2	2
眼球および眼窩の損傷	2	6

## 耳鼻咽喉科

### 1. スタッフ

部長代行 赤羽 誉：谷口由希子、細野研二、今泉哲宏(4月～)

### 2. 診療活動

平成22年8月末のスタッフ1名退職に伴い3名での診療体制が、平成23年4月より4名となった。従来からの急性炎症疾患（咽喉頭炎、扁桃炎、中耳炎など）、慢性疾患（副鼻腔炎、めまい、難聴など）の診療に加えて、頭頸部腫瘍に対する集学的治療を行い、1年間で施行した手術は265件（全身麻酔179件、局所麻酔86件：前年度とほぼ同数、ここ数年間は250～270件/年を推移）であった。

- a. 外来診療 月～金曜日の午前的一般診療に加えて、午後の外来診療枠で専門外来（めまい外来：谷口、腫瘍外来：赤羽、補聴器外来：細野）の継続を行い、病状に応じた診療体制を行った。また、火曜日は終日手術日のため、手術担当医以外の1名で初診患者の診療を行った。
- b. 入院診療 外来通院で対応困難な急性炎症疾患（摂食困難、膿瘍形成、高度腫脹など）や顔面神経麻痺・突発性難聴に対するステロイド治療（とくに糖尿病の合併を有する場合）の緊急入院治療を行った。手術治療では、習慣性扁桃炎や慢性副鼻腔炎などの炎症性疾患、慢性中耳炎に対する鼓膜・鼓室形成術、さらに頭頸部腫瘍領域の唾液腺・甲状腺腫瘍の手術、咽喉頭癌に対する化学・放射線治療、口腔や咽頭癌の再建手術も5例に行い重篤な術後合併症は認められなかった。昨年度と比較して、対応した疾患群に大きな変化は認められないが、その中で慢性中耳炎に対する手術治療が増加しており、今後、さらなる耳科領域の増加を期待したい。
- c. 特殊検査 めまい症に対する平衡機能検査、睡眠時無呼吸検査、補聴器適合検査  
頭部腫瘍（甲状腺、唾液腺、リンパ節など）に対するエコー下穿刺細胞診  
脳血管障害、頭頸部癌再建術後の嚥下造影検査

d. 主な手術治療	口蓋扁桃摘出術	43件
	鼻内内視鏡手術	45件（68側）
	鼻中隔矯正術	12件
	鼓膜・鼓室形成術	12件（13側）
	喉頭微細手術	15件
	唾液腺手術	15件
	甲状腺・副甲状腺手術	17件
	頭頸部癌再建手術	5件
	喉頭全摘・部分切除	5件
	口腔癌に対する手術	5件
	プロボックス挿入術	1件

文責 赤羽 誉

2011年1月～12月－耳鼻咽喉科の入院治療トップ10(件数・平均在院日数)

疾患名	件数	平均在院日数
急性難聴に対する薬物治療	46	5.6
扁桃・アデノイドに対する手術治療	44	7.0
慢性副鼻腔炎に対する手術治療	40	8.8
めまい症状に対する薬物治療	34	8.1
急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍に対する消炎治療	30	5.8
唾液腺腫瘍に対する手術治療	15	9.4
顔面神経麻痺に対する薬物治療	14	7.4
慢性中耳炎に対する手術治療	13	7.0
甲状腺腫瘍に対する手術治療	12	10.4
頭頸部癌(口腔・鼻・咽・喉頭癌)に対する手術・放射線治療	23	48.0

## 放射線科

### 1. スタッフ

部長 三谷 尚：岩澤 仁

専攻医 橋本尚子(H23.4.1～)

(放射線科技師長) 松本茂一(H23.4.1～6.23) 在津裕明(H23.6.24～)

### 2. 診療活動

当院放射線科は、腹部超音波検査、消化管造影、CTやMRIなどの画像診断はもとより、放射線治療、各種IVRを施行しております。三谷 尚が日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本IVR学会専門医、検診マンモグラフィー読影認定医、岩澤 仁は日本医学放射線学会放射線診断専門医、検診マンモグラフィー読影認定医、日本がん治療認定医機構認定医、日本がん検診診断学会認定医、日本IVR学会専門医、日本肺がんCT検診認定機構認定医、日本脈管学会専門医、日本人間ドック学会認定医であります。

### 3. H23年度実績(2011.4.1～2012.3.31)

#### 1) 各種IVR施行件数

##### i) vascular IVR ; 77件

肝細胞癌などの悪性肝腫瘍のTACE 70件、骨腫瘍のTAE 1件、BRTO 1件、腹腔内仮性動脈瘤塞栓術2件、止血目的の動脈塞栓術3件、

##### ii) nonvascular IVR ; 58件

臓器生検 ; 14件

膿瘍ドレナージ術、胆嚢ドレナージ術 ; 22件

PTBD ; 8件、胆管ステント留置術 : 4件

RFA ; 10件

### 以下はH23年実績(2011.1.1～12.31)

#### 2) 放射線治療

症例数 ; 134例

症例内訳

頭頸部 16例

乳癌 41例

食道癌 4例

肺癌 9例

肝、胆道系悪性腫瘍 1例

胃癌 1例

前立腺癌、膀胱癌 6例

悪性リンパ腫 15例

子宮、卵巣悪性腫瘍 1例

転移性骨腫瘍などその他 40例

文責 三谷 尚

## 麻酔・緩和医療科

### 1. スタッフ

部長 川原玲子：花田留美、奥野聡子、山崎恭子、玉井裕

専攻医：須田万理(～3月)、岡田夏枝(～3月)、清水梨江(4月～)

### 2. 診療活動

#### a. 当科の特徴

手術時の麻酔を担当しています。全身麻酔はもちろんですが脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもあります。術中管理を行うにあたり、術前診察・術後診察を麻酔科外来で行っています。術前診察では手術前に問診・検査結果・診察を行って患者さんの全身状態の評価を行い手術に適した麻酔法を選択します。麻酔法およびその合併症について患者さんに説明・承諾していただくため非常に重要です。術後疼痛管理も積極的に行っており、PCA (Patient Controlled Analgesia) 装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用しています。術後診察を麻酔科外来で行い鎮痛効果を評価し、硬膜外チューブ抜去まで行います。

ペインクリニックも麻酔科で行っています。ペインクリニック外来は毎日、透視下ブロックは月曜日午前に行っています。癌性疼痛管理にも携わり、緩和医療にも積極的に取り組んでいます。高周波熱凝固を用いた恒久ブロックや外来通院での麻薬の処方も行っており、痛みを和らげ日常生活に返すことに力を入れています。麻薬を持って海外旅行をされた患者さんもあり、痛みを取るだけでなく一歩踏み込んで患者さんが生活をエンジョイすることを積極的にサポートすることを目標としています。平成20年2月より緩和ケアチームが発足し、回診とカンファレンスを開始しました。緩和ケアの確立にも麻酔科は積極的に関わっており、副主治医として緩和ケアチーム依頼患者に対応しています。

教育にも携わっています。平成16年4月より新研修医制度がスタートしました。当院のプログラムではスーパーローテートと言って1年目の1～2ヶ月は麻酔科を研修します。そこで私たちも麻酔業務の傍ら、研修医を教育しています。常に1人から2人の研修医を預かるのはなかなか大変です。ただこうして若い人たちが増えたことで現場が活気付いたことは思わぬメリットでした。今年は後期研修医も1名加わっています。一般病院で育つ医師像を模索しつつ、教育活動を続けていきたいと考えています。

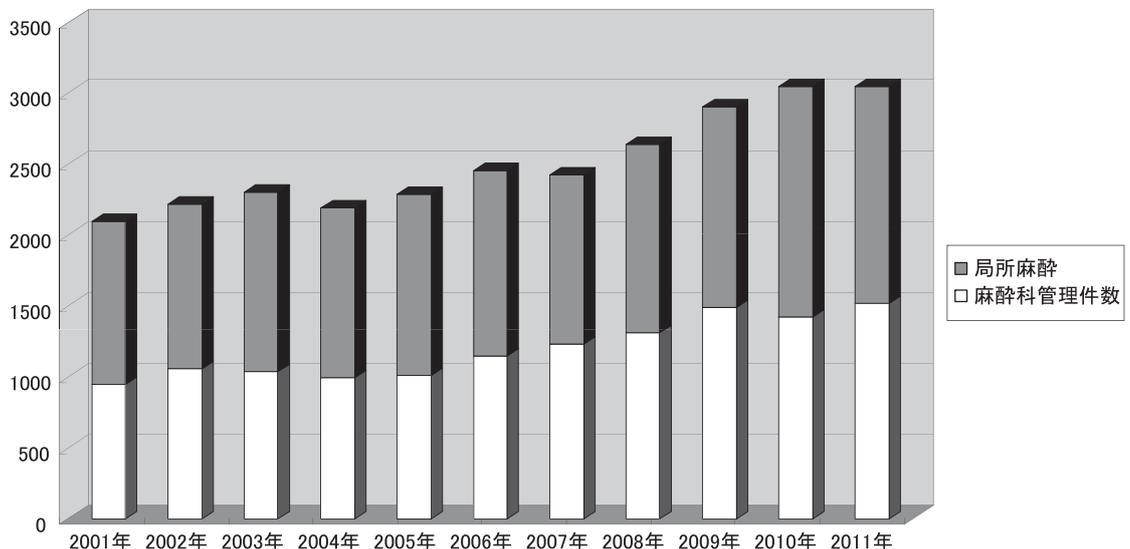
#### b. 平成23年の診療実績

手術件数はここ数年増加傾向で平成 23 年は 3064 件となりました。この手術件数を維持するだけでも麻酔科医の負担は顕著ですが、全身麻酔のみならず重症例の全身管理など麻酔科医のニーズが高まっているのは全国的で、マンパワーが不足しています。

ペインクリニックの平成 23 年の外来患者総数は 6210 人でした。ペインクリニックの新規患者様は他科あるいは他院からの紹介がほとんどで紹介元の科と共同で診療・治療に当たることが多くあります。病診連携が最も必要な科とも言えるでしょう。緩和の広がりの中で癌性疼痛に対する永久ブロックに積極的に取り組んでおり、高周波熱凝固・フェノール・アルコールなどを用いて癌の痛みを和らげたり、硬膜外ポートを埋め込み在宅で PCA による鎮痛を計ることで、帰宅できた方もありました。特に今年はコーンビーム CT ガイド下内臓神経ブロックを放射線科の協力のもと開始しました。従来の方法に比し、安全性・確実性が向上しました。また腹水濾過濃縮再静注法 (Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy : CART) も開始し、がん性腹膜炎による腹水の治療も開始しました。ブロックや腹水処理などの積極的な症状緩和に加え、認知行動療法なども取り入れ、患者さんの Quality Of Life を高めることを目標にしています。

麻酔業務に追われる毎日ですが、ペインクリニックや緩和医療、研修医の育成にも努力しています。

文責 川原玲子



## 病理診断科

### 1. スタッフ

部長 黒田昌男 臨床検査技師 4名

### 2. 病理検査の集計

平成23年病理検査の集計は表に示した通りで、病理組織検査は年間4260件（前年比2.0%減少）、術中迅速診断は111件（24.5%減少）で、免疫染色は378件（8.3%減少）であった。細胞診は年間9190件（7.9%減少）で、婦人科系が5738件と62.4%を占めた。病理解剖は11件（昨年比31.3%減少）で、院内剖検率は9.6%から9.1%と減少した。病理解剖内訳は、内科系9件（剖検率9.1%）、外科系1件（剖検率1.9%）であった。

CPCの開催は10回行われ、内容は下記の示す如くであった。

182回01月28日：第1例：両側副腎腫瘍

183回03月04日：第1例：EBウイルス関連びまん性大細胞性B細胞リンパ腫

184回05月27日：第1例：原発不明癌（膵悪性腫瘍疑い）

185回07月01日：第1例：クッシング病

186回11月04日：第1例：骨髄異形成症候群

187回11月10日：第1例：喉頭癌術後+糖尿病

188回11月24日：第1例：肺癌

189回12月02日：第1例：悪性リンパ腫（EBウイルス感染）

190回12月08日：第1例：SLE+肺癌疑い

191回12月16日：第1例：成人T細胞性白血病疑い

### 3. 診療方針

病理学的組織診断を正確に行うためには臨床各科と患者の医療情報交換を密にする様に心がけています。電子カルテ導入により、臨床情報の入手が容易となり、病理医と臨床各科とより密に正確な情報交換が可能となり、より正確な診断が出来る様になったと思います。

また、病診連携の重要性が言われており、紹介患者の医療情報を必要十分に得るためにも紹介医療機関の医師との情報交換も密にする必要があり、病理に関することの疑問点やその他病理情報が必要である場合には病理医に直接連絡できる体制にしているので、ご連絡よろしく申し上げます。

文責 黒田昌男

平成23年  
(2011) 組織

細胞診

	入院	外来	件数 (内視鏡)	入院	外来	組織数	術中迅速	酵素抗体法	剖検数	婦人科 (ドック)	その他 (ドック)	細胞診計
H 2 1	2184	1106	3290 ( 674)	2785	1157	3942	127	303	12	5250 ( 1511)	4717 ( 1495)	10237
H 2 2	2395	1326	3721 ( 692)	2964	1381	4345	147	412	16	5624 ( 1941)	4354 ( 1140)	9978
H 2 3	2291	1317	3608 ( 598)	2870	1390	4260	111	378	11	5738 ( 2232)	3452 ( 0)	9190

## 救急診療科

### 1. スタッフ

部長 三木俊治、部長代理 中川 厚(循環器・神経内科副部長兼任)

★岡本祐典、★向井康祐、★出口令子、★平井孝一、★竹本雅子(★内科専攻医)

●阿部康世、●越智紗矢香、●木村廉、●小池翠、●駒田暢、●塩見真由、

●吉川秀人(● 初期研修医1年目)

### 2. 診療活動:平成23年4月より診療開始

#### a. 外来診療

内科初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、初期研修医のプライマリケア、内科2次救急に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムの一環となっている。

#### 2011年4月～12月－救急診療科外来診療患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
初診	56	100	106	119	191	114	120	116	117	1,039
再診	36	50	81	79	128	105	106	115	91	791
合計	92	150	187	198	319	219	226	231	208	1,830

#### b. 入院診療

当科にて診察の後、入院の必要がある場合は、各専門分野診療科に紹介し、入院とすることを原則とするが、短期間での入院経過観察患者は一部当科での入院となる。

#### 2011年4月～12月－救急診療科入院患者数 27名(内7名は入院後 転科)

疾患名	件数	平均年齢	平均在院日数{転科症例は除く}
急性肺炎	5(1)	60歳	9日
急性胃腸炎	4	33歳	6日
めまい症	3(2)	70歳	13日
胃潰瘍	2	56歳	7日
大腸憩室炎	2	58歳	9日
尿路結石	2(1)	38歳	2日
胆嚢炎	2(2)	48歳	

( )入院後転科症例

その他:喘息発作、腎盂腎炎、伝染性紅斑、腹膜炎、敗血症、不明熱、(急性肝炎) 各1名

文責 三木俊治

## がん治療センター

### 1. スタッフ

センター長 黒田昌男

[がん治療センター運営委員会]

藤川正博(消化器・一般外科)、中川雅史(血液・化学療法内科)、江川功(神経科・精神科)、川原玲子(麻酔・緩和医療科)、石垣直也(放射線科)、野村浩英(薬剤部)、東郷豊子、小山佐知子、松浦三月(以上看護部)、許斐正啓(総合企画部)、村上学(医事サービス部)]

[緩和ケアチーム チーム長 川原玲子(麻酔・緩和医療科)]

回診メンバー 寺川直樹(産婦人科)、高橋励(神経科・精神科)、森真由子(薬剤部)、小山佐知子、山本実加(以上看護部)、本家裕子、松榮優子(以上医療生活相談室)、丸山加奈(神経科・精神科:非常勤)]

### 2. 活動

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

#### ・主たる業務

- ①がんに関する集学的治療の充実
- ②緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する院内外の教育研修
- ③がん治療に関する相談対応、情報提供
- ④がん登録の推進

#### ・外来化学療法室

10床の外来化学療法室を有効に活用し、関係各科と連携しつつ、安全な治療を円滑に実施した。

#### ・緩和ケア

緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスの開催、月2回の各職種による定例勉強会・症例検討会の開催を行なった。

がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく「日生病院緩和ケア研修会」を、講師・参加者とも近隣の他医療機関からも参加者を得て開催した。

全職員及び近隣医療機関職員を対象とした、緩和ケア講演会を開催した。

#### ・レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、化学療法オーダーシステムの導入に向けた検討を進めるとともに、化学療法レジメンの登録管理を行なった。

#### ・相談支援

がん相談の充実と、図書情報コーナーの整備を進めた。

#### ・がん登録

入院患者については全件実施しており、一部外来での登録を開始した。

#### ・広報

パンフレット、ホームページの更新を行った。

文責 黒田昌男

## 低侵襲医療センター

### 1. スタッフ

センター長 船渡 孝郎

〔低侵襲医療センター運営委員会〕

中川 厚(循環器内科)、藤川 正博(消化器・一般外科)、福井 辰成(泌尿器科)

大野 典子、瓜本 恵美子(看護部)、許斐 正啓、上垣内 健(事務)

### 2. 診療活動

このセンターの特色は各診療科の個々の協力がなければ発展していかない部門である。  
今年度を振り返り次年度の活動はより広報に力をいれて診療実績の向上に努力したい。

#### a 治療部門 (抜粋)

低侵襲手術件数：2067件 (2011年1月～2011年12月)

前年2190件 (2010年1月～2010年12月)

胃内視鏡検査：1951件 (2011年1月～2011年12月)

前年2156件 (2010年1月～2010年12月)

白内障手術：715件 (2011年1月～2011年12月)

前年598件 (2010年1月～2010年12月)

子宮鏡検査：159件 (2011年1月～2011年12月)

前年195件 (2010年1月～2010年12月)

#### b 学術部門

研修医・コメディカル対象：インターベション治療バーチャル体験実施

内視鏡手術トレーニングルーム：通年での研修医への開放

【ニッセイ産婦人科内視鏡懇話会】：2011年12月

阪大関連病院若手医師を対象とした腹腔鏡下手術講習会

#### c 広報 (サービス) 部門

【低侵襲医療イベント2011】：2011年2月、2011年10月

代表的な低侵襲医療のパネル展示を実施

【ニッセイ[夏休み子ども医療体験2011]】：2011年7月～8月

鏡視下手術にチャレンジコーナー設置

文責 船渡孝郎

## 生活習慣病センター

### 1. スタッフ

センター長：笠山宗正  
医師：住谷哲  
看護師：角南ちえ子、井上恵子、川瀬俊子  
管理栄養士：米田育子、出口暁子(H23.12～)  
山原瑞穂、池上理絵

### 2. 生活習慣病センター運営委員会

院内の各診療科医師および各部署のスタッフからなる運営委員会において、当センターにおける業務内容を検討している。

＜運営委員会委員＞

笠山宗正、濱田偉文、中村秀次、江川功、  
住谷哲、東郷豊子、角南ちえ子、松本茂一、  
新井幸子、野村浩英、米田育子、許斐正啓、  
坂本一郎

### 3. 年間活動

当センターでは、過食や運動不足などの生活習慣が関与する肥満・2型糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などの患者を中心に診療を行っている。患者の日常の代謝動態や生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑制することを目的としている。

#### ①オーダーメイド生活習慣病診療

毎週月～木曜日の4日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、きめ細やかな患者指導を行っている。30分枠の完全予約制とし、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を行っている。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。平成23年度に当センターを受診した初診の患者数は135名であり、延べ受診患者数は1,071名であった。

#### ②糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施している。平成23年度の実施件数は71件であった。

#### ③糖尿病集団指導

入院糖尿病患者を対象として、総合内科・

看護部・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部の協力を得て、糖尿病に関する集団指導（糖尿病教室）を週4日実施した。

#### ④日生病院糖尿病フェアの開催

世界糖尿病デーにあわせて、当院を受診する全ての患者を対象に、糖尿病に関する正しい理解のための啓発活動を行い、糖尿病の発症や進行の抑止のために有益な情報提供を行った。当センターのスタッフを中心に、パネル展示、血糖測定、HbA1c測定、頸動脈エコー、医療相談などを実施した。

＜日時＞平成23年11月17日(木)、18日(金)

8:45～17:00

＜場所＞日生病院外来玄関ホール

＜内容＞

- ・糖尿病啓発のためのパネル展示
- ・血糖測定・HbA1c測定
- ・頸動脈エコー
- ・食品のカロリー掲示
- ・医療相談
- ・どこでも簡単にできる運動指導 など

#### ⑤公開セミナーの開催

生活習慣病の患者と一般市民を対象とした「日生病院生活習慣病センター公開セミナー」を開催した。

＜日時＞平成23年9月10日(土)13:30～15:30

＜場所＞日生病院別館講堂

＜内容＞

講演：「生活習慣病センターへようこそ」

- ・生活習慣病って何？
- ・生活習慣病センターでは何をやるの？
- ・生活習慣病に対する効果的な対策は？
- ・みんなでやってみよう！今すぐできる運動

講師：生活習慣病センタースタッフ

特別イベント：「アマチュア落語」

出演：桂文喬主催落語研究会

文責 笠山宗正

#### ＜外来診療日程＞

	月	火	水	木	金
午前	○	○	○	○	
午後	○	○	○	○	

## 消化器内視鏡センター

### 1. スタッフ

センター長 湯川雅彦

[消化器内視鏡センター運営委員会]

住谷 哲(予防医学センター部長)、森田 哲史(消化器・一般外科)、稲次 洋平(消化器内科)

芳賀 宣子(看護師)、森本 洋子(患者様サービスG)、榎本 知奈美(看護師)

### 2. 診療活動

日本生命済生会では消化器内視鏡センターを敷設しております。目的は、日生病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上を目指すことに有ります。消化器内科、消化器外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療を目指します。従来より予防医学センターでの人間ドック、企業健診で要検査となられた方を対象に、日生病院での検査、加療を行ってきましたが、今後は更に連携を強化してまいります。また、安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導いたしてまいります。地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約いただける便宜をはかり、日本消化器内視鏡学会指導施設の役割を果たしていく所存です。

#### a. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術 (EMR)

内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL)

内視鏡的胃瘻造設術 (PEG)

胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影 (ERCP)

内視鏡的乳頭括約筋切開術・拡張術 (EST)

内視鏡的採石・碎石術

内視鏡的ステント挿入術 (ENBD ・ERBD tube)

下部消化管内視鏡

軸保持短縮挿入法・診断・治療

上部胃内視鏡検査：2038件（2011年1月～2011年12月）

下部内視鏡検査：884件

予防医学センター内視鏡室 上部内視鏡検査：1000件

#### b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：

内視鏡室：通年での研修医への開放

#### c. 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

文責 湯川雅彦

# ニッセイ予防医学センター

## 1. スタッフ

センター長：中村秀次 医務部長：住谷哲 常勤医師：斉藤伸一、泉由紀子、高島周志、佐藤文三(特別顧問)

## 2. 平成23年の概要

人間ドック受診者総数は6514名に達し、対前年度827名増(14.5%の増加)と引き続き大きな伸びを示した。定期健康診断受診者は32664名と、若干名であるが前年度より増加した。特定保健指導は社会的背景もあり減少した。健診精査内科は、人間ドック受診者数の増加を反映し、また定期健診受診者からの新たな紹介体制の確立により、受診者数は堅調に推移した。以上より総収入としては5億8400万円となり、収支では4800万円の黒字となり、黒字幅を拡大して3年連続して償却前収支黒字を実現することができた。

人間ドック受診者の年代別、性別の要治療率、要精密検査率は表2に示す。40歳未満では要治療8.4%、要精密43.2%であるが、50歳台で要治療15.8%と上昇し、要精密51.8%と過半数となり、60歳以上では要治療14.4%とやや低下し、要精密は58.4%とまで上昇した。要治療、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。生活習慣病の高脂血症が30%前後とやや低下したが今年も男女とも1位であり、今年も糖尿病が男性で2位に入った。眼科疾患は男性で3位、女性で4位であり、腎・尿路疾患が女性で2位、男性で5位であった。生活習慣病の高血圧は男性でのみ4位に入った。女性では婦人科疾患は19.3%と低下したが昨年に引き続き3位、乳房疾患が5位を占めた。精度の高い健診に努め、悪性疾患の発見は29名(0.4%)であった(表4)。この内 24名(82.8%)が早期癌であった。

D1,D2判定者で健診精査内科および直接に日生病院各科に紹介した患者数を表5に示す。健診精査内科以外では、消化器内科、眼科、産婦人科が上位を占めた。再検査率は35.9%となり、昨年より約8%低下した。

健診の質の面からは、看護師による専門的なケア、保健師による指導、専門技師による検査、専門医師による診察、読影、診断、およびダブルチェック体制を継続徹底するとともに、当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科健診の週4日体制を維持し、月2回のレディースデイを充実させ、午後の乳がん検診も引き続き実施した。22年度より開始しているメンタルヘルスサポート事業では、新たな解析ソフトを導入してサービスの向上を図った。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として27施設、約2500名を対象として無料低額健診を継続実施した。また、今年も引き続き8月に母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を実施し、済生会の公益性の向上と地域福祉に貢献した。労働安全衛生分野における産業医の重要性の高まりを踏まえ、近隣企業への産業医派遣体制を構築し、今年新たに数名を非常勤産業医として派遣した。

学術活動として、恒例の「あわぎ産業医セミナー」を4月に開催し(特別講演:大阪樟蔭女子大学教授 夏目誠先生)、112名の産業医、日生病院登録医の参加を得た。学会活動として人間ドック学会に3題発表した。更に、各医師が専門領域の学会でも発表した。日生医誌に論文1篇掲載された。

文責 中村秀次

表1. 定期健康診断・人間ドック受診者数

	H23年 名	対前年 %	備考
定期健康診断	32,664	101.3	
人間ドック(日帰り)	3,710	112.7	標準コースの人間ドック
人間ドック(生活習慣病など)	2,804	117.1	協会けんぽなどの簡易人間ドック
人間ドック 合計	6,514	114.5	

表2. 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療項目と要精密検査項目の頻度

	要治療項目(治療中を含む) (D1)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	11.1%	27	5.9%	16	8.4%	43
40-49歳	16.3%	87	13.2%	93	14.5%	180
50-59歳	14.4%	76	16.9%	114	15.8%	190
60歳以上	13.8%	70	15.0%	81	14.4%	151
総計	14.4%	260	13.9%	304	14.1%	564

	要精密項目 (D2)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	31.7%	77	53.5%	144	43.2%	221
40-49歳	42.2%	225	53.7%	379	48.7%	604
50-59歳	52.6%	277	51.1%	344	51.8%	621
60歳以上	59.8%	304	57.0%	308	58.4%	612
総計	48.8%	883	53.7%	1175	51.5%	2058

※ 健診システム(HI-NET)より標準人間ドックコースのみ、判定D1(要治療)、D2(要精密)を抽出  
 %は年齢別要治療・要精密検査数/年齢別全受診者数\*100  
 総計の%は性別総計数/全受診者数\*100

表3. 性別による要治療・要精密検査の上位5項目(日帰り人間ドック受診者)

NO	男性			NO	女性		
	要治療・要精密検査項目	占率	1847 人数(名)		要治療・要精密検査項目	占率	1727 人数(名)
1	高コレステロール血症	27.2%	502	1	高コレステロール血症	32.3%	557
2	糖尿病	23.6%	436	2	腎・尿路疾患	19.6%	339
3	眼科疾患	20.4%	376	3	婦人科疾患	19.3%	333
4	高血圧	19.4%	358	4	眼科疾患	15.9%	275
5	腎・尿路疾患	9.5%	175	5	乳房疾患	12.9%	223

※ 各検査項目の数値・判定より抽出(センター医師による判断)  
 %は検査項目受診数/5項目総受診者数\*100

表4. 悪性疾患の発見率

	人数(名)	占率
癌診断者	29(早期24)	0.44%

乳癌8名、大腸癌4名、胃癌4名(早期3名)、子宮頸癌4名(上皮内癌2名)、前立腺癌3名、腎癌2名、甲状腺癌1名、膵癌1名、下咽頭癌1名、膀胱癌1名

表5. 要治療・要精密検査判定者の紹介先(日帰り人間ドック受診者)

有所見者数		2172人	再検査確認数		779人	再検査率		35.9%
日生病院	健診精査内科	239人	日生病院	乳腺外科	112人			
日生病院	循環器内科	41人	日生病院	整形外科	1人			
日生病院	神経内科	7人	日生病院	皮膚科	1人			
日生病院	消化器内科	211人	日生病院	泌尿器科	32人			
日生病院	内視鏡センター	11人	日生病院	産婦人科	83人			
日生病院	総合内科	17人	日生病院	眼科	95人			
日生病院	耳鼻科	3人						

## 第4章 部別概要

### 中央臨床検査部

#### 1. スタッフ

部長 浅野彰彦、臨床検査技師長 水口洋一

##### (1) 検体検査部門（Ⅰ）血液、生化学、血清、輸血、凝固線溶機能

山本慶子、池田久美、吉田隆則、内野高裕、天野精子、倉本訓子、(伊山 修)

##### (2) 検体検査部門（Ⅱ）細菌、病理・細胞診、外来検査室

新井幸子、藤田育子、角田道久、水口洋一、坂口伊津子、石倉果林、坂本美智代、大嶽雄也

##### (3) 生体検査部門

超音波生理機能検査室：

相馬容子、大西 龍、川口公次、古川浩司、柳川友加、森本梓、岡村めぐみ、(中尾やす子)

予防医学センター配属、篠田和子、大黒慶子

聴力、平衡機能検査室：藤井ゆう子

##### (4) 臨床工学部門

臨床工学室：加藤千尋、三木和美、[井上勇夫]

\* 検体検査部門（Ⅰ）では、伊山修が定年退職となり非常勤職員として再雇用となった。

\* 検体検査部門（Ⅱ）では、病理・細胞診検査を担当する大嶽雄也を新しくメンバーとして迎えた。

\* 生体検査部門の責任者を長らく務めた中尾やす子も定年退職となり、大西龍が責任者となった。

中尾は非常勤職員として再雇用となった。

\* 予防医学センター配属技師では、竹中博美の退職後に大黒慶子を新たにメンバーに迎えた。

ドック検査の業務拡大のため、病院業務と検診業務は各々独立して運営することとなった。

\* 平成17年10月に中央検査部の一部門として開設した臨床工学室は、平成22年10月から工学技師三名体制となっていたが、平成23年9月に井上勇夫退職後は暫定的に二名体制で運営している。

早期に欠員を補充して多様化する医療機器の統一や計画的な機器の拡充など病院各部署と連携して効率化を図っていく予定である。

#### 2. 特色

質の高い検査結果を得るための精度管理に力を注ぎ、日本医師会・大阪府医師会・日本臨床検査学会の精度管理調査に38年間にわたり参加しており、常に優秀な成績を収めています。

検査オーダー後、30分以内での検査結果報告を目指して迅速性を増し、また24時間体制をとることで時間外の緊急検査を行い、検体検査管理加算に対応した運営を行っています。

輸血検査から輸血管理までの輸血業務を安全かつ迅速に行う輸血管理体制にも対応しています。

文責 浅野彰彦

## 看護部

### I. 看護部理念

日本生命済生会の基本理念「済生利民」に従い、ひとりひとりの状態と立場と気持ちにそった看護を提供します。「済生利民」とは生命を守り、万民の安寧と幸せに貢献すること。

平成23年度のスローガン 「CS/ESを推進し、思いやりから生まれる創造豊かな看護を提供します」  
看護部基本方針

1. 安心で安全な看護の実践
2. 看護師の能力開発
3. 病院経営に参画し効率のよい看護の実践
4. 選ばれる職場環境作りと優秀な人材の確保と育成
5. 看護サービスの質改善

### II. 病棟概況

#### 病棟状況

部署	定床	H23年度患者数	稼働率	平均在院日数	H23年度配置基準	勤務人員			平均夜勤回数 2交替 前期4-9 後期10-3	備考	
						深	準	日			
3W	45	45	75.0	10.4	30	3	4	13	4.03		
	新										15
	計										60
4W	46	47	79.0	14.8	30	3	4	14	4.19		
	別										14
	計										60
4E	51	41	80.7	11.5	27	3	3	11	4.10 3.84		
5W (無菌室4)	44	40	89.8	26.0	27	3	3	10	3.94 3.89		
5E	49	41	84.4	18.5	28	3	3	11	4.41 4.09		
6W	42	38	89.5	21.1	26	3	3	11	4.30 3.94		
	小	10									4
6E	27	20	75.0	6.3	26	金4 3	木4 3	10	4.86 4.43		
	未	7									2
外来					39 /19					17診療科以外に、地域医療連携室、 治験管理室へ各1名を含む	
手術					18						
管理					5 /1					感染担当1名 新人担当1名を含む 入院調整1名	
計	350	外来 922 病棟 278	79.5	13.3	256				4.26 4		

### III. 看護研修概況

- 1) 院内研修 (別表 P 88 ~ 89 )
- 2) 院外研修 (別表 P 90 ~ 91 )
  - ・短期研修大阪府看護協会、日本看護協会等の75研修会 96名
  - ・長期研修大阪府看護教員養成講習会 1名
  - ・長期研修大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 1名
  - ・セカンドレベル研修 1名
- 3) 学会発表日本看護協会主催等 11学会 13名

### IV. その他

#### 1) 看護学生実習受入

- ・大阪府医師会看護専門学校 (3年課程) 19名 5月～3月 (基礎・成人・老年・小児・母性看護学)
- ・大阪医専看護保健学科 (4年課程) 174名 5月～3月 (基礎・成人・老年・母性看護学)
- ・大阪保健福祉専門学校 (3年課程) 10名 5月～6月 (母性)
- (4年課程) 15名 8月～9月 (母性・小児看護学)
- ・大阪病院協会看護専門学校 (3年課程) 25名 5月～3月 (母性・成人看護学)
- ・白鳳女子短期大学 (助産学専攻) 2名 9月～11月 (産科)
- ・甲南女子大学 (4年課程) 73名 10月～12月 (母性・成人看護学)
- (助産学専攻) 2名 7月～9月 (産科)
- ・梅花女子大学 (4年課程) 36名 6月～9月 (基礎・成人看護学)

#### 2) 研修受入

- ・大阪府看護協会 認定看護師教育「がん性疼痛看護」実習生 2名

#### 3) 看護体験受入

- ・大阪府主催「一日看護体験」7月27日高校生 10名 7月28日高校生 9名
- ・職場体験学習 11月16～17日 中学生 2名

#### 4) 看護フェア

- ・5月13日看護相談、身体測定、アロマ、フットケア、パンフレット配布等

#### 5) ニッセイ看護研究会

- ・2月5日 21施設 31名

文責 正野廣子

## 薬剤部

### スタッフ

部長：畑中 勝義

部員：野村 浩英、土江 恵美、池田 久雄、乾 有希子、吉岡 亮、  
森 真由子、宮 麻紀子、平田 貴宏、牧 秀美、上野 敦子  
瀧川 奈央(6月～)

パート薬剤師：辻 俊美、中野 静香、江戸 由希子

事務員(非常勤嘱託)：岩城 淳子

### [H. 23年度計画事項とその執行状況]

#### 1. 薬剤部業務体制

- ・人員： 薬剤師15名(パート3名を含む)(9月より産休1名)  
事務員1名
- ・配置： 調剤・製剤業務7名 薬剤管理指導業務(病棟担当)6名  
治験管理室1名、事務担当1名

#### 2. ジェネリック薬品の採用

前年に引続きジェネリック薬品の導入を図った。注射薬6品目、その他6品目を採用し薬品購入における経済効果を図った。(前年比12品目増)

#### 3. 薬剤管理指導業務の充実

1病棟に1名の担当薬剤師を配置し患者入院時持参薬の確認、服薬指導の充実を図り、退院時にお薬手帳交付を開始している。

#### 4. 院内の薬に関する医療安全管理対策

医薬品安全管理者を設置し、薬剤の適正使用について情報伝達、安全使用の確認を行っている。  
ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策等チーム医療に参画し薬剤の適正使用を図った。

#### 5. 新規業務の展開

病院機能評価Ver6.0受審を終了。癌化学療法レジメン管理システムの導入に向けて化学療法レジメンの収集、整備を開始した。

#### 6. 学術活動

日本緩和医療学会に1題発表。

[薬科大学学生実習受け入れ] 薬学部6年制移行に伴う実習受入 実習生10名

### [主要業務10項目]

1. 調剤業務(入院56,051枚)(外来21,781枚)(注射74,443枚)(麻薬3,657枚)  
(院外処方箋133,126枚)
2. 製剤業務(一般・特殊製剤1,471件)(無菌2,421件)
3. 薬剤管理指導業務(7,693件)
4. DI業務(DIニュース24件)(くすりニュース4件)
5. 抗癌剤無菌調製業務(入院1,122件 外来2,328件)
6. 薬品発注・在庫管理業務(採用品目数1,251)(臨時購入薬品50)(院外届出薬品49)
7. 血液製剤管理業務(16品22規格529件)
8. 院外処方箋に関する問い合わせ(6,021件)
9. 薬事管理委員会(新規採用薬品41、削除薬品47)
10. 治療用薬品払い出し業務(4,312枚)

文責 畑中勝義

## 治験管理室

スタッフ

室長：江川 功  
事務局：上野 敦子(薬剤師)、兵頭 友子(NIC)  
CRC：谷口 真理子(看護師)、手塚 貴美子(看護師)

[平成23年度計画事項とその執行状況]

1. 治験事務局業務
  - ・ 日生病院治験審査委員会標準業務手順書の改定
  - ・ 治験啓発研修会の実務
  - ・ 製造販売後調査、医師主導研究のCRC依頼マニュアルの作成
  - ・ 各医薬品会社への治験打診
2. 臨床研究コーディネーター（CRC）業務
  - ・ 治験啓発研修会の実務
  - ・ 外部CRC対応マニュアル及びCRC業務マニュアルの改定
  - ・ 製造販売後調査、医師主導研究の受け入れ幅拡大
  - ・ 大阪医薬品協会 治験推進プロジェクトメンバー参加

[平成23年度実績]

治験審査委員会（IRB） 10回開催  
倫理委員会 7回開催

- 1) 平成23年度新規受託契約課題 10件
  - ・ HFT-290の帯状疱疹後神経痛、慢性腰痛及び変形性関節症を対象とした検証的試験（麻酔・緩和医療科 川原部長）
  - ・ 日本人尋常性乾癬被験者におけるLEO90105軟膏（カルシポトリオール水和物およびジプロピオン酸ベタメタゾン配合薬）の有効性及び安全性（皮膚科 東山部長）
  - ・ S-297995のオピオイド投与に伴う便秘を有するがん患者を対象とした後期第2相臨床試験（乳腺外科 西田部長）
  - ・ 「乾癬の長期維持療法としてsecukinumabの固定間隔投与と再発開始時投与を比較検討する試験（SCULPTURE）」（皮膚科 東山部長）
  - ・ JNS020QDの慢性疼痛患者を対象とした第Ⅲ相試験（麻酔・緩和医療科 川原部長）
  - ・ 「乾癬患者を対象にsecukinumab の点滴静脈内投与による治療効果改善の可能性を検討する試験（STATURE）」（皮膚科 東山部長）
  - ・ 低用量アスピリン長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438（10mg、20mg）の第3相二重盲検比較試験（CCT-302）（消化器内科 中村センター長）
  - ・ 低用量アスピリン長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438（10mg、20mg）の第3相長期継続投与試験（OCT-302）（消化器内科 中村センター長）
  - ・ AS-3201の糖尿病性末梢神経障害患者を対象としたプラセボ対照二重盲検群間比較試験（第三相試験）（総合内科 笠山副院長）
  - ・ 中等症から重症の局面型皮疹を有する乾癬患者および関節症性乾癬患者を対象としたCP-690,550の経口2用量長期投与時の安全性、忍容性及び有効性を検討する多施設共同第Ⅲ相無作為化二重盲検比較試験（皮膚科 東山部長）
- 2) 前年からの継続実施課題 3件
  - ・ TRK-820軟カプセル剤 検証的試験 -慢性肝疾患患者における難治性のそう痒症-（消化器内科 中村センター長）
  - ・ HFT-290慢性疼痛を対象とした長期投与試験（麻酔・緩和医療科 川原部長）
  - ・ 帯状疱疹後神経痛を対象としたNS-315（トラマドール塩酸塩）の臨床第Ⅲ相試験（麻酔・緩和医療科 川原部長）
  - ・ ITM-014の先端巨大症、下垂体性巨人症を対象とした長期投与試験（第Ⅲ相試験）（総合内科 笠山副院長）
- 3) H23年終了課題 3件
  - ・ ITM-014の先端巨大症、下垂体性巨人症を対象とした長期投与試験（第Ⅲ相試験）（総合内科 笠山副院長）
  - ・ 帯状疱疹後神経痛を対象としたNS-315（トラマドール塩酸塩）の臨床第Ⅲ相試験（麻酔・緩和医療科 川原部長）
  - ・ 「乾癬患者を対象にsecukinumab の点滴静脈内投与による治療効果改善の可能性を検討する試験（STATURE）」（皮膚科 東山部長）
- 4) 製造販売後調査  
新規契約 - 17件（CRC依頼有 2件）  
終了 - 16件
- 5) 医師主導・自主研究  
新規 - 30件（CRC依頼有 3件）

本年度は治験数も多く想定以上の成績が得られたが、次年度以降はマンパワーの低下（CRCの実質的減員）のため本年同様の実績を残すことは困難かもしれない。現在の治験件数を維持あるいは増加させるためには治験管理室の定員増を希望したい。

文責 江川 功

# リハビリテーション室

## 1. スタッフ

責任者：リハビリテーション室 室長 稲岡正裕

理学療法士：片岡宏一郎、小倉敬子、麦田盛穂、廣田将史、田中孝(4月～)

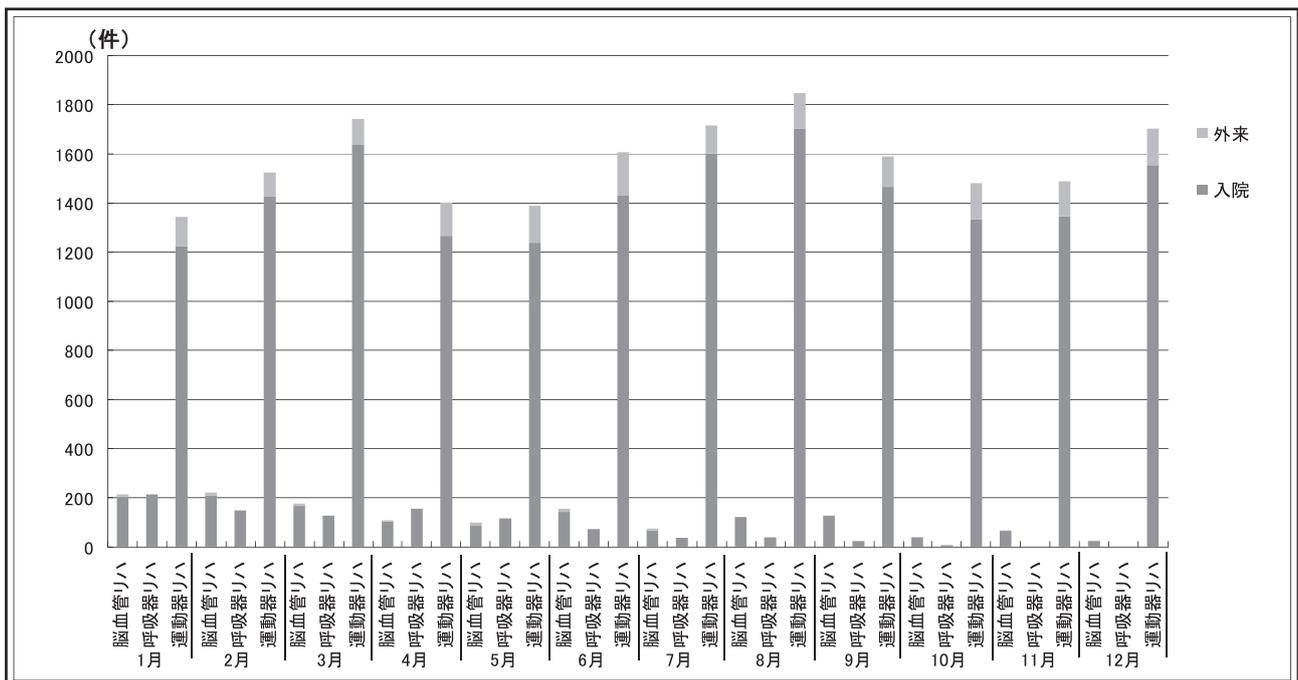
作業療法士：外山晶代

## 2. 診療内容

- 入院患者に対するリハビリに特に重点を置き、診療科の回診（整形外科病棟回診、NST回診、褥創回診）や、各病棟とのカンファレンスなどを通じて、診療の質の向上に努めた。亜急性期病棟におけるリハビリなど長期療養患者に対するリハビリもバランスよく実施した。
- 作業療法士による、上肢機能の向上を目的とした手指の機能訓練、食事動作などの巧緻性機能の増大を目的としたADL（日常生活動作）練習などの作業療法を実施し、リハビリテーション医療の充実を図った。
- 定期的に関リハビリカンファレンスを開催し、他職種との連携をとりながら情報交換を行い、医療の質向上に努めた。
- 重心動揺検査装置や筋力測定器を用いた運動機能の客観的評価を行い、その数値に基づいた治療効果の判定や問題点の抽出を行い、リハビリのレベルアップを行った。
- 予防医学におけるリハビリの役割の重要性を積極的に啓蒙、普及する必要がある。生活習慣病センターや予防医学センターとの連携をさらに充実させて、糖尿病教室や肥満外来などへの共同参画、運動療法指導、体操療法などの指導を行った。
- リハビリ専門学校からの教育実習依頼に対して協力し、実習教育活動の体制を整備して実施した。
- 院内では整形外科抄読会、糖尿病勉強会などに参加し、院外においては各専門領域の勉強会に参加し、会得した技能、知識はスタッフ間で情報共有を行った。また研究などの学術活動にも積極的に参加し、専門性を活かしたいくつかの発表を行い、臨床に役立つ内容の発信に努めた。

文責 片岡宏一郎

平成23年版 月別リハビリ年報 統計（月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ件数）



## 栄養管理室

### 1. スタッフ

管理栄養士：米田育子、出口暁子(12月～)、山原瑞穂、池上理絵、調理師：藤田龍也  
委託側（管理栄養士2名、栄養士3名、調理師6名、炊事員11名）

### 2. 栄養管理室の方針

2010年版食事摂取基準に沿った約束食事箋の変更後、食事内容の改善。

安全で間違いのない食事提供に努める。

平成22年度診療報酬改定で栄養サポートチーム加算が新設されたが、施設基準の適合が難しいが、今後取得が可能になるよう目指していく。

個別栄養指導件数の増数と指導内容の充実。

文責 出口暁子

### 栄養指導件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
胃腸病	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
肝臓病	0	4	4	2	2	3	6	6	2	2	8	5	44	16
糖尿病	88	98	121	121	80	107	117	95	97	90	83	91	1188	1079
腎臓病	6	2	8	7	2	7	3	7	5	1	6	5	59	76
高血・心臓・高脂	20	17	46	23	30	37	26	31	32	32	34	34	362	319
肥満症	0	4	1	1	2	5	5	2	4	3	1	1	29	13
術後食	0	1	1	0	2	1	0	3	2	0	1	0	11	24
母子栄養	0	0	1	2	1	0	0	0	0	2	1	1	8	1
その他	2	1	2	1	1	5	4	4	2	12	2	1	37	29
計	116	127	184	157	120	165	162	148	144	142	136	138	1739	1557

### 栄養指導〈集団指導〉年間件数

	実施回数	外来人数	入院人数
糖尿病	24	5	84
両親学級	0	0	

### 錦会〈糖尿病患者会〉

5月27日…総会試食会・セミナー・ゲーム 参加人数：9名

### 栄養管理計画書件数

患者給食	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
計画書作成延数	8411	8365	9437	8532	7911	8371	9166	8806	7942	8115	7427	7944	100427	102313
入院患者延数	8547	8452	9512	8617	7989	8394	9260	8868	8013	8213	7508	8048	101421	103412
算定率	98.4	99.0	99.2	99.0	99.0	99.7	99.0	99.3	99.1	98.8	98.9	98.7	99.0	98.9

### 患者給食数〈年間〉

患者給食	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年度累計
常食	8036	7797	8616	8310	7659	7936	7975	7615	7347	7838	6918	7560	93607	100180
特食	12494	12977	12912	12340	11475	12235	14541	13770	11925	11917	11106	11423	149115	144520
合計	20530	20774	21528	20650	19134	20171	22516	21385	19272	19749	18024	18983	242716	244700
調乳本数	2510	2150	2334	2584	2204	2420	2162	2295	3043	2286	1567	1932	27487	30697

# 医療生活相談室

## 1. スタッフ

室長 江川 功

医療ソーシャルワーカー 2名

〔 本家 裕子 所持資格：社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員  
松榮 優子 所持資格：社会福祉士・介護支援専門員 〕

## 2. 相談援助

### a. 援助総件数

平成23年は、総数 5958 件（1日平均 24.5 件、月平均 496.5 件）の相談を受けました。年々増加傾向にあり、経済的・社会的・心理的相談のニーズの高さが伺えます。

### b. 新規相談

平成23年の新規相談は 1170 件（昨年は 1253 件）でした。紹介経路別にみると、本人（150 件）と家族（112 件）からの相談が 22.5%（昨年も 22.5%）を占めました。看護師（366 件）、医師（151 件）およびその他の職員を含め、院内スタッフからの依頼は 47.5%（昨年は 48.0%）であり、院内スタッフからの依頼率が高く、連携の促進が図られている結果と考えられます。診療科別にみると、内科が 48.9% と最も多く、次いで整形外科（14.6%）、神経科・精神科（9.9%）となりました。

### c. 相談内容

相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選定援助）が 50.1%（昨年は 45.6%）と最も多く、次いで介護保険、身体障害者手帳、特定疾患、精神保健等の諸制度に関する説明や申請援助（26.3%）、受診・受療に関する問題調整（8.2%）、家庭問題に関する相談援助・生活支援（6.4%）、経済的問題に関する相談援助（4.8%）となりました。

## 3. 地域活動

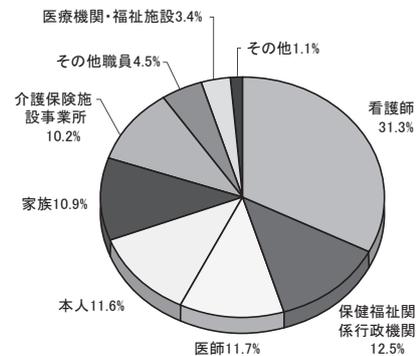
- a. 近隣の施設（医療機関、介護老人保健施設等）へ訪問し、面識を持って情報交換をすることにより、スムーズな連携を図ることができました。
- b. 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区高齢者虐待防止専門部会へ参画し、地域の高齢者施策の充実に貢献しました。
- c. 日生活ケアプラザセンターにて介護支援専門員（ケアマネジャー）を兼務し、利用者様の在宅生活を支援しました。

文責 本家裕子

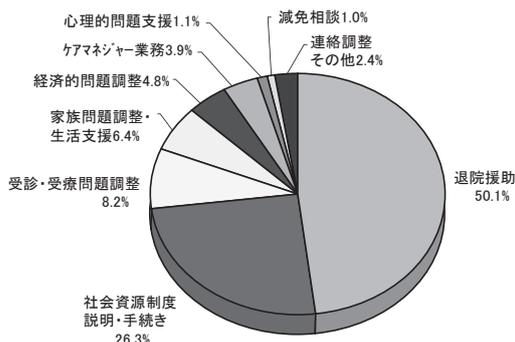
2-a. 相談援助件数(延べ数)

	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平成19年
内科	3466	2820	2961	2448	2521
神経科・精神科	340	324	436	487	416
小児科	26	22	10	36	46
外科	294	377	271	301	401
乳腺外科	31	84			
整形外科	974	1012	1029	907	954
皮膚科	123	207	116	139	135
泌尿器科	277	195	287	100	200
産婦人科	52	154	119	205	74
眼科	32	70	17	70	27
耳鼻咽喉科	258	118	112	73	131
放射線科	0	6	2	2	0
麻酔科	2	24	6	2	0
歯科・口腔外科				0	21
不明・その他	83	96	103	74	104
合計	5958	5509	5469	4844	5030

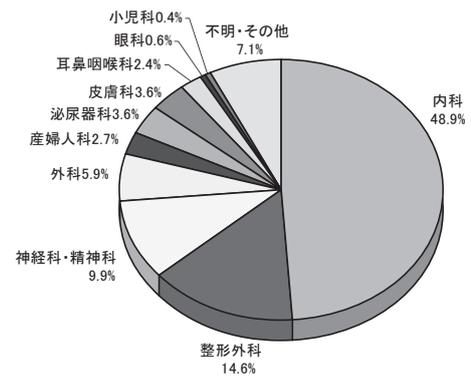
※平成20年：歯科・口腔外科は1月～3月の件数  
※平成22年：乳腺外科は4月～12月までの件数



2-b-1. 新規ケース分類(紹介経路別)



2-c. 相談援助内容



2-b-2. 新規ケース分類(診療科別)

## 地域医療連携室

### 1. スタッフ

室長 船渡 孝郎：瓜本恵美子(看護部)、中西三季(看護部)  
 石坪健治、岩田美栄子、渡辺喜代美、高免智恵子、岩切綾子  
 (現 看護師2名、事務5名)

### 2. 活動内容

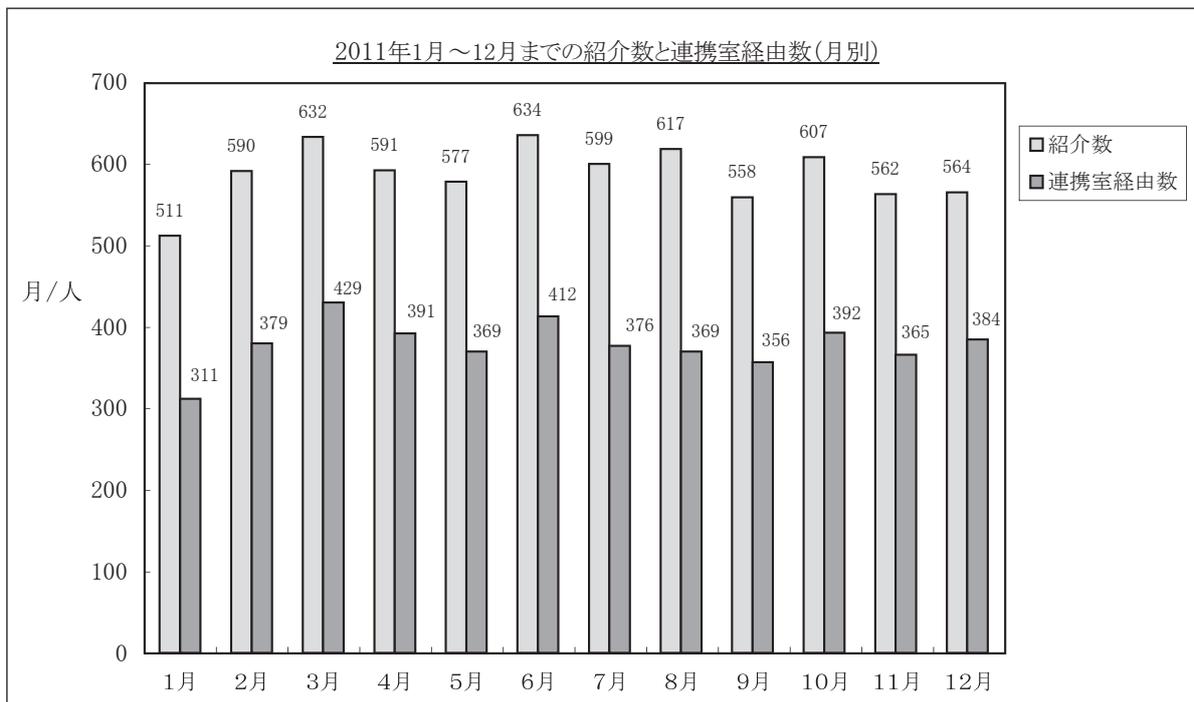
- ①連携室経由の紹介患者様の対応
- ②医療機関向けPR冊子の作成と発送
- ③第12回病診連携フォーラムの開催 (H23. 8. 27)
- ④紹介患者様の報告、逆紹介チェック
- ⑤開放型病院登録医の共同診療への協力並びに登録医の増員 (登録医H23年12月末262名)
- ⑥「登録医だより」の作成と発送 (H23. 1月、4月、10月)
- ⑦病診連携「ニッセイ クリニカル カンファレンス」開催協力 (H23. 10. 29)
- ⑧市民公開講座開催協力 (H23. 5. 21)
- ⑨スペシャルドック、健診後受診患者および日生関連企業受診患者対応

文責 船渡孝郎

2011年1月～12月 科別紹介数、連携室経由患者数(年間)

科別	紹介患者数 ※ (救急車搬入患者含む)	連携室経由患者数
循環器内科・神経内科	554	258
消化器内科	546	417
総合内科	631	315
血液・化学療法内科	204	110
精神科	147	97
小児科	218	127
外科	178	110
乳腺外科	136	109
整形外科	402	246
皮膚科	492	338
泌尿器科	360	179
産婦人科	1142	671
眼科	397	318
耳鼻咽喉科	669	310
救急医療科	80	9
放射線科	832	886
麻酔・緩和医療科	54	33
合計	7042	4533

※紹介患者数は初診算定数。



# 2011年日生病院業績集

(2011年1月～2011年12月)

## 論文発表

### 循環器内科・神経内科・呼吸器内科

1. 濱田偉文：非弁膜症性心房細動の抗凝固療法－現在とこれから－. 日生医誌, 39 : 1-10, 2011.
2. 村西寛実, 成島英里, 岡本祐典, 頭司良介, 長谷川浩司, 中川 厚, 仁科拓也, 佐竹範夫, 浅野彰彦, 濱田偉文：左総腸骨動脈慢性完全閉塞性病変の1例－末梢血管インターベンションへの挑戦－. 日生医誌, 39 : 22-27, 2011.
3. Muranishi H, Zushi R, Nagata H, Hasegawa K, Nakagawa A, Hamada H : Retrievable Inferior Vena Cava Filter and Catheter Directed Thrombolysis (CDT) for Treating a 19-year-old Man with Acute Myeloid Leukemia Complicated by Deep Vein Thrombosis (DVT) : A Case Report. *Ann Vasc Dis*, 14 : 128-133, 2011.
4. 頭司良介, 中川 厚, 岡本祐典, 村西寛実, 長谷川浩司, 濱田偉文：冠動脈2枝に特発性冠動脈解離をきたし急性冠症候群を発症した1例. *CVIT Jpn Ed3*, 106-111, 2011.
5. 神田枝里子, 仁科拓也, 村西寛実, 長谷川浩司, 浅野彰彦, 濱田偉文：亜急性意識障害で発症したアジア亜型血管内リンパ腫の1剖検例. *臨床神経*, 51 : 751-755, 2011.
6. 岡本祐典, 八木良樹, 村西寛実, 長谷川浩司, 中川厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文：A型インフルエンザウイルスによる急性心外膜心筋炎の1例. 日生医誌, 39 : 119-124, 2011.
7. 倉本訓子, 内野高裕, 天野精子, 山本慶子, 池田久美, 吉田隆則, 水口洋一, 浅野彰彦：多項目自動血球分析装置を用いた脳脊髄細胞数測定の基礎的検討. 日生医誌, 39 : 98-104, 2011.

### 消化器内科

1. Shimomura S, Ikeda N, Saito M, Ishii A, Takashima T, Sakai Y, Yoshikawa S, Aizawa N, Tanaka H, Iwata Y, Enomoto H, Imanishi H, Yamamoto T, Jomura H, Nakamura H, Iijima H, Nishiguchi S : Long-term interferon therapy after radiofrequency ablation is effective in treating

patients with HCV-associated hepatocellular carcinoma. *Hepatol Int*, 5 : 559-566, 2011.

2. Nakamura H, Enomoto H : Hepatoma-derived growth factor in carcinogenesis and cancer progression. *Curr Drug Ther*, 6 : 278-285, 2011.
3. Enomoto H, Nakamura H, Nishiguchi S : Role of hepatoma-derived growth factor (HDGF) in hepatocellular carcinoma. *Current Research in Gastroenterology & Hepatology*, 5 : 19-26, 2011.

### 総合内科

1. Koga M, Murai J, Saito H, Mukai M, Toya D, Tanaka N, Kanehara H, Bando Y, Kasayama S : 1,5-Anhydroglucitol levels are low irrespective of plasma glucose levels in patients with chronic liver disease. *Ann Clin Biochem*, 48 : 121-125, 2011.
2. Koga M, Murai J, Saito H, Yamada H, Mori T, Suno S, Takeuchi K, Suzuki S, Fujieda K, Kasayama S : Measurement of glycated hemoglobin and glycated albumin in umbilical cord : evaluation of the glycemic control indicators in neonates. *J Perinatol*, 31 : 430-433, 2011.
3. Koga M, Hashimoto K, Murai J, Saito H, Mukai M, Ikegame K, Ogawa H, Kasayama S : Usefulness of glycated albumin as an indicator of glycemic control status in patients with hemolytic anemia. *Clin Chim Acta*, 412 : 253-257, 2011.
4. Koga M, Murai J, Saito H, Kasayama S : Prediction of near-future glycated hemoglobin levels using glycated albumin levels before and after treatment for diabetes. *J Diabetes Invest*, 2 : 304-309, 2011.
5. Otsuki M, Kitamura T, Goya K, Saito H, Mukai M, Kasayama S, Shimomura I, Koga M : Association of urine acidification with visceral obesity and the metabolic syndrome. *Endocrine J*, 58 : 363-367, 2011.
6. Koga M, Saito H, Mukai M, Saibara T, Kasayama S : Serum dehydroepiandrosterone sulphate

levels in patients with non-alcoholic fatty liver disease. Intern Med, 50 : 1657-1661, 2011.

7. Murai J, Koga M, Saito H, Mukai M, Matsumoto S, Kasayama S : Profiles of atherosclerotic risk factors in gastrectomized men. Endocrine J, 58 : 657-662, 2011.
8. Koga M, Murai J, Saito H, Otsuki M, Kasayama S : Evaluation of the glycosylated albumin/HbA1c ratio by stage of diabetic nephropathy. Diabetol Int, 2 : 141-145, 2011.
9. Koga M, Kasayama S, Miyazaki A : Measurement of glycosylated hemoglobin and glycosylated albumin in umbilical cord : evaluation of the glycemic control indicators in neonates. J Perinatol, 31 : 808, 2011.
10. 笠山宗正 : ポンジョバンニ症候群. 症候群ハンドブック (総編集 : 井村裕夫), 426-427頁, 中山書店, 東京, 2011.
11. 笠山宗正 : ステロイドの基礎知識 : ステロイド製剤の副作用. ステロイドハンドブック2011 (総監修 : 大関武彦), 15-21頁, 協和企画, 東京, 2011.
12. 古賀正史, 笠山宗正, 森脇優司, 山本徹也 : 正常耐糖能例において血清1,5-アンヒドログルシトール値は血清尿酸値と正相関する. 痛風と核酸代謝, 35 : 9-17, 2011.
13. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正 : 高用量のメトホルミン単独投与により著明な血糖コントロールの改善が得られた初回治療2型糖尿病の2症例. プラクティス, 28 : 611-618, 2011.
14. 大月道夫, 宮武明彦, 保澤総一郎, 藤田きみゑ, 笠山宗正 : 吸入ステロイド薬継続治療中の閉経後喘息患者における骨密度および骨代謝マーカーの検討. Osteoporosis Japan, 19 : 398-402, 2011.
15. 山原瑞穂, 池上理絵, 米田育子, 角南ちえ子, 森田真也, 中村秀次, 笠山宗正, 住谷 哲 : 2型糖尿病患者に対する食事療法としてのカーボカウントの有効性に関する検討. 日生医誌, 39 : 11-15, 2011.
16. 宇都佳彦, 間島行則, 向井康祐, 森田真也, 三木俊治, 笠山宗正, 高橋 励 : 広汎性発達障害の経過中に低血糖昏睡・肝障害・汎血球減少を呈した1例. 日生医誌, 39 : 28-32, 2011.
17. 三浦明子, 福田隼也, 森田真也, 宇都佳彦, 三木俊治, 笠山宗正, 大嶋正人 : 空腸転移巣からの穿孔により腹膜炎をきたした副腎皮質癌の1剖検例.

日生医誌, 39 : 58-62, 2011.

18. 高山由美子, 井上恵子, 角南ちえ子, 阿部恭子, 川瀬俊子, 山本慶子, 新井幸子, 森田真也, 住谷 哲, 佐藤文三, 笠山宗正 : 当院受診患者のメタボリックシンドロームの認知度に関する調査. 日生医誌, 39 : 105-108, 2011.
19. 塩見真由, 向井康祐, 出口令子, 平井孝一, 宇都佳彦, 森田真也, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正 : 2型糖尿病と肝硬変の治療中に腸腰筋膿瘍を合併した1例. 日生医誌, 39 : 125-127, 2011.
20. 平井孝一, 森田真也, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 谷口由希子, 赤羽誉, 大嶋正人, 笠山宗正 : 繰り返す発熱のため甲状腺摘出術を施行した橋本病急性増悪の1例. 日生医誌, 39 : 131-135, 2011.

#### 血液・化学療法内科

1. 藤井智美, 長谷井仁美, 竹本雅子, 川上 学, 大嶋正人, 小西 登, 中川雅史 : ネフローゼ症候群を合併した多中心性キャスルマン病の1例, 日生医誌, 39 : 37-42, 2011.
2. 池亀和博, 竹本雅子, 川上 学, 中川雅史 : インフルエンザ肺炎の一例, 症例とエビデンスに学ぶ造血幹細胞移植と感染症, 180頁, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2011.

#### 神経科・精神科

1. 江川 功 : うつ病の病態と治療 サイコリウマトロジー, 13-14, 2011
2. 高橋 励 : 慢性期統合失調症例におけるプロナンセリンの使用経験-SDA/DSA間のスイッチングにおける5-HT<sub>2A</sub>受容体遮断作用比についての理論的考察 (抄録), 和風会誌, 54 : 58-59, 2011.
3. 高橋 励 : 非統合失調症例に生じた慢性疼痛へのオランザピンの著効様相について (抄録), 和風会誌, 54, 62-63, 2011.
4. 高橋 励 : 塩酸ペロスピロンへのクエン酸タンドスピロンの付加投与により繰り返す急性ディストニアの著明改善をみた統合失調症の1例, 日生医誌, 39 : 46-52, 2011
5. 高橋 励 : 鑑定書 大阪家庭裁判所 平成23年(家)第80829号 後見開始の審判申立事件, 2011
6. 高橋 励 : いわゆる心因性疼痛の科学的理解を求めて-精神機能と疼痛の接点, そして薬物療法- (抄録), 日生医誌, 39 : 149, 2011.

## 消化器・一般外科

1. 黄 泰平, 安政啓吾, 藤川正博: 直腸癌に対する低位前方切除術々後縫合不全から鼠径管を介しFournier壊疽に至った1例. 日臨外会誌, 72: 168-171, 2011.

## 整形外科

1. 辻本 貴志, 藤島 弘顕, 三木 宏真, 稲岡 正裕: Fracture of clavicle at the medial end of hook plate: A case report. 日生医誌, 39: 33-36, 2011.
2. 藤島 弘顕, 吉田 博一, 三木 宏真, 稲岡 正裕: 人工膝関節全置換術後に合併したpatellar clunk症候群の2症例. 日生医誌, 39: 114-118, 2011.
3. 分担執筆 稲岡正裕, 他: 作業関連筋骨格系障害による痛み 編集: 菊地臣一, 運動器の痛み—プライマリケア. 肘・手の痛み, 37-38頁, 南江堂, 東京, 2011.
4. 分担執筆 稲岡正裕, 他: 作業関連筋骨格系障害による痛み編集: 菊地臣一, 運動器の痛み—プライマリケア. 股関節の痛み, 37-38頁, 南江堂, 東京, 2011.
5. Tsuji S, Tomita T, Hashimoto H, Fujii M, Yoshikawa H, Sugamoto K: Effect of posterior design changes on postoperative flexion angle in cruciate retaining mobile-bearing total knee arthroplasty. Int Orthop, 35: 689-695, 2011.
6. 辻 成佳, 稲岡正裕, 東山真里, 濱田雅之, 河井秀夫, 富田哲也, 吉川秀樹: 乾癬性関節炎に対するアダリムマブの治療効果. 日本脊椎関節炎学会誌, 3: 93-98, 2011.
7. Tsuji S, Miyoshi H, Tomita T, Nakase T, Hamada M, Oomae T, Tsumoto C, Hirata Y, Iguchi M, Edogawa S, Kawai H, Yoshikawa H: Celecoxib, a cyclooxygenase-2 inhibitor, improved upper gastrointestinal lesions in rheumatoid arthritis patients as assessed by endoscopic evaluation. Mod Rheumatol, e-pub, Sep, 2011.

## 皮膚科

1. 東山真里: 疾病と治療IV 運動系/皮膚/耳鼻咽喉/歯・口腔, 松田 暉ら編. 看護学テキスト nice 紅斑症, 84-85頁, 南江堂, 東京, 2011.
2. 東山真里: キンドラー症候群 Kindler Syndrome: 井村裕夫編 症候群ハンドブック, 523頁, 中山書

店, 東京, 2011.

3. 中川幸延, 高松漂太, 熊ノ郷淳: 4型セマフォリンによる好塩基球制御. 臨床免疫・アレルギー, 56: 654-659頁, 科学評論社, 東京, 2011.

## 泌尿器科

1. 黒田昌男, 福井辰成, 花房隆範, 金宮健翁: 前立腺がん PSA検診と待機療法. 日生医誌, 39: 86-97, 2011.

## 産婦人科

1. Yada-Hashimoto N, Onoue M, Yoshimi K, Hisa T, Kodama M, Otsuka H, Saeki N, Funato T: Total laparoscopic hysterectomy in patients with previous abdominal surgery. Arch Gynecol Obstet, 284: 1467-1471, 2011.
2. 久 毅, 小玉美智子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 子宮体部類内膜腺癌を合併した子宮. 腺肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌, 29: 871-875, 2011.

## 耳鼻咽喉科

1. 宇和伸浩, 吉野邦俊, 藤井 隆, 上村裕和, 赤羽 誉, 鈴木基之, 寺田友紀, 佐伯暢生, 佐川公介, 毛利武士, 荻野公一, 窪田 彬, 阪上雅史: 長期経過後再発をきたした喉頭非定型カルチノイドの2例. 耳喉頭頸, 83: 953-957, 2011.
2. 赤羽 誉, 谷口由希子, 細野研二, 今泉宏哲: 喉頭全摘後の失声に対する音声再獲得 - 当科におけるProvox2<sup>®</sup>の使用経験-. 日生医誌, 39: 109-113, 2011.

## 放射線科

1. Iwazawa J, Ohue S, Kitayama T, Sassa S, Mitani T: C-arm CT for assessing initial failure of iodized oil accumulation in chemoembolization of hepatocellular carcinoma. AJR Am J Roentgenol, 197: 337-342, 2011.
2. Iwazawa J, Mitani T, Sassa S, Ohue S: Prostate cancer detection with magnetic resonance imaging: Is dynamic contrast-enhanced imaging necessary in addition to diffusion-weighted imaging? Diagn Interv Radiol, 17: 243-248, 2011.

## 麻酔・緩和医療科

1. 富田裕乃, 花田留美, 川原玲子: 脊椎カリエス後変形性腰椎症合併患者の麻酔経験. 日生医誌, 39: 128-130, 2011.
2. 奥野聡子, 岡田夏枝, 須田真理, 玉井 裕, 山崎恭子, 花田留美, 川原玲子: 瘦身目的のフォスファチジルコリン局所注射後の難治性臀部痛の一例. 日生医誌, 39: 43-45, 2011.
3. 川原玲子, 小山佐知子, 吉岡 亮: 漢方・補完代替医療による診療科横断的な癌患者のマネジメント③がんの経過に伴う症状へ有効な漢方薬とその使い方. 薬局, 62: 106-112, 2011.
4. 川原玲子, 小山佐知子: 緩和医療における漢方薬の使用 - 当院緩和チームでの経験を中心として -. 痛みと漢方, 21: 106-110, 2011.
5. 花田留美, 井上隆弥: 食道癌術後(内視鏡的)の腹壁痛に対して漢方薬が著効した1症例. 痛みと漢方, 21: 83-86, 2011.

## 生活習慣病センター

1. 山原瑞穂, 池上理絵, 米田育子, 角南ちえ子, 森田真也, 中村秀次, 笠山宗正, 住谷 哲: 2型糖尿病患者に対する食事療法としてのカーボカウントの有効性に関する検討. 日生医誌, 39: 11-15, 2011.
2. 高山由美子, 井上恵子, 角南ちえ子, 阿部恭子, 川瀬俊子, 山本慶子, 新井幸子, 森田真也, 住谷 哲, 佐藤文三, 笠山宗正: 当院受診患者のメタボリックシンドロームの認知度に関する調査. 日生医誌, 39: 105-108, 2011.

## 中央臨床検査部

1. 倉本訓子, 内野高裕, 天野精子, 山本慶子, 池田久美, 吉田隆則, 水口洋一, 浅野彰彦: 多項目自動血球分析装置を用いた脳脊髄液細胞数測定の基礎的検討. 日生医誌, 39: 98-104, 2011.

## 栄養管理室

1. 山原瑞穂, 池上理絵, 米田育子, 角南ちえ子, 森田真也, 中村秀次, 笠山宗正, 住谷 哲: 2型糖尿病患者に対する食事療法としてのカーボカウントの有効性に関する検討. 日生医誌, 39: 11-15, 2011.

## 学会・研究会発表

### 循環器内科・神経内科・呼吸器内科

1. 神田枝里子, 村西寛実, 岡本祐典, 頭司良介, 長谷

川浩司, 中川 厚, 仁科拓也, 浅野彰彦, 濱田偉文: 非特異的症状で発症し, 当初肝腫瘍と診断された血管内リンパ腫の1例. 第41回北摂臨床懇話会, 1月, 2011, 大阪.

2. 中川 厚: Standerdization of Complex PCI. The 2nd K-VIC Live Demonstration, 2月, 2011, 大阪.
3. 中川 厚: ATISに対する抗血栓療法. インターベンションカンファレンス, 4月, 2011, 大阪.
4. 中川 厚: 循環器領域における抗血栓療法. Vascular Medicine Forum~全身血管イベントを考える~. 5月, 2011, 大阪.
5. 間島幸則, 川上 学, 竹本雅子, 中川雅史, 長谷川浩司, 濱田偉文: 頸動脈洞性失神を来した頸部巨大腫瘍を有する悪性リンパ腫の1例. 第194回日本内科学会近畿地方会, 6月, 2011, 奈良.
6. 花田留美, 小山佐知子, 村西寛実, 奥野聡子, 川原玲子: 糖尿病患者の急性下肢動脈閉塞症後壊死性疼痛に対して疼痛管理を行った一症例. 第16回日本緩和医療学会, 7月, 2011, 札幌.
7. 岡本祐典, 村西寛実, 八木良樹, 長谷川浩司, 仁科拓也, 中川 厚, 浅野彰彦, 濱田偉文: インフルエンザ性心外膜心筋炎の一例. 第42回北摂臨床懇話会, 7月, 2011, 大阪.
8. 中川 厚: 循環器内科における血管内治療の現状について. あわぎフォーラム, 8月, 2011, 大阪.
9. 八木良樹: 循環器内科から見た糖尿病. Nissay Collaboration Conference~糖尿病と心血管イベント~, 9月, 2011, 大阪.
10. 太口 翠, 仁科拓也, 岡本祐典, 八木良樹, 村西寛実, 長谷川浩司, 中川 厚, 浅野彰彦, 濱田偉文: 大量 $\gamma$ グロブリン連続投与により改善を認めたcritical illness polyneuropathy (CIP)の1例. 第195回日本内科学会近畿地方会, 9月, 2011, 大阪.
11. 村西寛実: 両上肢閉塞性動脈硬化症に対するインターベンション治療の1例. ニッセイクリニカルカンファレンス, 10月, 2011, 大阪.
12. 濱田偉文: 非弁膜症性心房細動患者における新しい経口抗凝固療法 - 直接トロンビン阻害剤の適正使用について -. ニッセイクリニカルカンファレンス, 10月, 2011, 大阪.
13. 濱田偉文, 野原隆司, 岩倉克臣, 妹尾俊彦, 松田光男, 武 俊介: 高血圧治療の新戦略 - ARB/Ca拮抗薬配合剤への期待 -. Medical Tribune座談会, 10月, 2011, 大阪.

14. 村西寛実, 中川 厚, 岡本祐典, 八木良樹, 長谷川浩司, 濱田偉文: Abrupt typeの浅大腿動脈入口部慢性完全閉塞病変に対して血管内超音波, 体表面超音波ガイド下PPIが有効であった1例. 第17回日本心血管インターベンション治療学会 近畿地方会, 10月, 2011, 豊中.
15. 村西寛実: IVUS通過後に血栓形成をきたした左鎖骨下動脈狭窄症の1例. 第38回北摂循環器セミナー, 11月, 2011, 大阪.
16. 村西寛実, 中川 厚, 岡本祐典, 八木良樹, 長谷川浩司, 濱田偉文: IVUS通過後に血栓形成をきたした左鎖骨下動脈狭窄症の1例. 第112回日本循環器学会近畿地方会, 11月, 2011, 京都.
17. 中川 厚: Periferal Intervention Theater. 近畿心血管治療ジョイントライブ2011 (KCJL2011), 12月, 2011, 京都.
2. 笠山宗正: 管理目標をめざした糖尿病診療の重要性. 第1回糖尿病症例検討座談会, 2月, 2011, 大阪.
3. 森田真也, 田淵優希子, 住谷 哲, 佐藤文三, 北野昌彦, 泉本修一, 有田憲生, 笠山宗正: 成人GH分泌不全症患者における上腕-足首間脈派伝搬速度 (baPWV) に対するGH補充療法の効果. 第21回日本間脳下垂体腫瘍学会 (研究奨励賞受賞講演), 3月, 2011, 東京.
4. 向井康祐: シタグリプチン開始後のHbA1cとグリコアルブミンの推移とその相違点. 第4回大阪ベイサイド糖尿病ケアセミナー, 3月, 2011, 大阪.
5. 笠山宗正: ステロイド療法の現状と将来展望. 第42回御堂筋アズマネットワーク勉強会, 3月, 2011, 大阪.
6. 齋藤洋一, 木下 学, 北村哲宏, 大月道夫, 笠山宗正: 手術成績に基づいたProlactinomaの治療方針. 第84回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2011, 神戸.
7. 宇都佳彦, 向井康祐, 田淵優希子, 森田真也, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 甲状腺機能低下症を合併した心不全患者の血清BNPに対する甲状腺ホルモン補充療法の影響. 第84回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2011, 神戸.
8. 平井孝一, 森田真也, 田淵優希子, 宇都佳彦, 三木俊治, 谷口由希子, 赤羽 誉, 大嶋正人, 笠山宗正: 発熱を繰り返し甲状腺全摘術に至った橋本病急性増悪の一例. 第84回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2011, 神戸.
9. 向井康祐, 森田真也, 田淵優希子, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 当院におけるACTH単独欠損症5例の臨床的特徴の検討. 第84回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2011, 神戸.
10. 森田真也, 宇都佳彦, 花房隆範, 黒田昌男, 大嶋正人, 笠山宗正, 佐藤文三: 初回手術19年後に褐色細胞腫の再発を認めた一例. 第84回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2011, 神戸.
11. 笠山宗正: 成人におけるGH補充療法の治療目標と管理. Genotropin GoQuick Launch Symposium, 4月, 2011, 大阪.
12. 森田真也, 向井康祐, 宇都佳彦, 住谷 哲, 三木俊治, 佐藤文三, 古賀正史, 笠山宗正: 2型糖尿病患者のHbA1cとグリコアルブミン (GA) の年間変動の比較. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会,

#### 消化器内科

1. 中村秀次, 村本 理, 有本伸子, 稲次洋平, 福田昌輝, 湯川雅彦, 宇山宏和: Glycated albumin/HbA1c rationは肝予備能を反映するか? 第47回肝臓学会総会, A358, 6月, 2011, 東京.
2. 榎本平之, 中村秀次, 今西宏安, 斎藤正紀, 岩田恵典, 池田直人, 会澤信弘, 岩井孝史, 森脇英一朗, 高嶋智之, 坂井良行, 田中弘教, 下村壮治, 飯島尋子, 西口修平: 肝癌細胞増殖因子と血管新生因子としてのHepatoma-derived growth factor: 治療標的の可能性に関する検討. 第47回肝臓学会総会, A137 (ワークショップ13), 6月, 2011, 東京.
3. 稲次洋平: IgG 4 関連疾患と考えられた2症例. ニッセイクリニカルカンファレンス, 10月, 2011, 大阪.
4. 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 湯川雅彦: 肝硬変患者における耐糖能の評価: HbA1c, Glycated albuminおよびCLD-HbA1cの検討. 第15回日本肝臓学会大会 (JDDW2011), A676, 10月, 2011, 福岡.
5. 稲次洋平, 村本 理, 湯川雅彦, 岩澤 仁, 大上庄一, 三谷 尚, 中村秀次: ミリプラチン水和物により間質性肺炎をきたした肝細胞癌の1例. 第39回日本肝臓学会西部会, A894, 12月, 2011, 岡山.

#### 総合内科

1. 笠山宗正: 糖尿病治療薬の使い方. 第2回糖尿病クリニカルカンファレンス, 2月, 2011, 大阪.

- 5月, 2011, 札幌.
13. 橋本久仁彦, 村井 潤, 斎藤 博, 向井幹夫, 池亀和博, 小川啓恭, 笠山宗正, 古賀正史: 溶血性貧血患者における血糖コントロールマーカーとしてのグリコアルブミンの有用性. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  14. 片岡宏一郎, 喜多彬光, 廣田将史, 小倉敬子, 麦田盛穂, 外山晶代, 稲岡正裕, 角南ちえ子, 森田真也, 笠山宗正: 糖尿病多発神経障害を有する糖尿病患者の足底に掛かる重心位置に関する検討. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  15. 廣田将史, 片岡宏一郎, 小倉敬子, 麦田盛穂, 喜多彬光, 稲岡正裕, 笠山宗正: 糖尿病患者の下肢筋力・重心動揺に対する運動療法の効果-運動実施期間による比較検討-. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  16. 麦田盛穂, 廣田将史, 喜多彬光, 小倉敬子, 外山晶代, 片岡宏一郎, 角南ちえ子, 三木宏真, 藤島顕弘, 辻本貴志, 稲岡正裕, 森田真也, 笠山宗正: 糖尿病は人工膝関節置換術(Total knee arthroplasty: TKA)後早期の運動機能に影響を及ぼすか? 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  17. 向井康祐, 森田真也, 宇都佳彦, 泉由紀子, 住谷哲, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: シタグリプチン投与後のHbA1cとグリコアルブミン(GA)の推移とその相違点. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  18. 合屋佳世子, 笠山宗正, 森田真也, 住谷 哲, 村井潤, 斎藤 博, 古賀正史: GAはHbA1cより年間の血糖変動を反映する-1型糖尿病と2型糖尿病の比較-. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  19. 松本素江子, 村井 潤, 斎藤 博, 向井幹夫, 大月道夫, 笠山宗正, 古賀正史: 急性発症自己免疫性1型糖尿病の診断時のGA/HbA1c比は2型糖尿病に比し高値である. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  20. 斎藤 博, 古賀正史, 村井 潤, 笠山宗正: グリメピリド投与2週後のGAの低下より算出したeHbA1cの有用性. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  21. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 未治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミンと生活習慣介入の有効性に関する検討(EMINENT Study: 第1報). 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  22. 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 住谷 哲: 2型糖尿病患者に対するカーボカウントを用いた食事療法の有効性に関する検討. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  23. 高山由美子, 井上恵子, 角南ちえ子, 阿部恭子, 川瀬俊子, 山本慶子, 新井幸子, 森田真也, 住谷 哲, 佐藤文三, 笠山宗正: 総合病院受診患者のメタボリックシンドロームの認知度に関する調査. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  24. 村井 潤, 斎藤 博, 向井幹夫, 松本素江子, 笠山宗正, 古賀正史: 胃切除例では1,5-AGは低値を示す. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  25. 笠山宗正: 糖尿病と骨粗しょう症~骨折から身を守るために~. 平成23年度あけぼの会総会講演会, 6月, 2011, 吹田.
  26. 向井康祐, 森田真也, 林 和彦, 出口令子, 平井孝一, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 北野昌彦: ニューモシスチス肺炎を合併したクッシング病の一例. 第5回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス(OEMCC), 6月, 2011, 大阪.
  27. 片岡宏一郎, 喜多彬光, 廣田将史, 小倉敬子, 麦田盛穂, 外山晶代, 田中 孝, 稲岡正裕, 角南ちえ子, 森田真也, 笠山宗正: 理学療法士から見た糖尿病患者の転倒リスクに関する考察. 第4回糖尿病ライフセミナー, 6月, 2011, 大阪.
  28. 笠山宗正: 病態に応じた糖尿病治療薬の使い方. 第2回糖尿病症例検討座談会, 7月, 2011, 大阪.
  29. 笠山宗正: 糖尿病合併症のマネジメント. 第2回糖尿病クリニカルカンファレンス, 7月, 2011, 大阪.
  30. 笠山宗正: 下垂体ホルモン~いのちと健康との関わり~. 堺市難病支援ネットワーク協議会 間脳下垂体障害医療講演会, 7月, 2011, 堺.
  31. 笠山宗正: 目標設定に合わせた糖尿病治療薬の使い方. 第3回糖尿病症例検討座談会, 7月, 2011, 大阪.
  32. 笠山宗正: 糖尿病における骨粗鬆症診療の位置

- づけ. なにわ生活習慣病カンファレンス, 7月, 2011, 大阪.
33. 宇都佳彦, 向井康祐, 森田真也, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 健常男性に発症した嫌気性菌による多発性肺膿瘍の1例. 第195回日本内科学会近畿地方会例会, 9月, 2011, 大阪.
  34. 笠山宗正: 生活習慣病センターへようこそ. 日生病院生活習慣病センター公開セミナー, 9月, 2011, 大阪.
  35. 森田真也: 糖尿病について. NISSAY Collaboration Conference~糖尿病と心血管イベント~, 9月, 2011, 大阪.
  36. 笠山宗正: 高尿酸血症・痛風診療を再考する. 大阪市西区病診連携スモールセミナー, 9月, 2011, 大阪.
  37. 向井康祐, 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 宇都佳彦, 浅沼伸行, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 永田大樹, 濱田偉文, 高橋彩子: たこつぼ心筋症の発症を契機に診断されたACTH単独欠損症の一例. 第12回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 10月, 2011, 神戸.
  38. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 初回治療軽症2型糖尿病患者に対するメトホルミンと生活習慣介入の有効性について. 第48回日本糖尿病学会近畿地方会, 10月, 2011, 大阪.
  39. 宇都佳彦, 平井孝一, 出口令子, 向井康祐, 森田真也, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: リラグルチドへの切り替えが有効であったインスリン治療2型糖尿病患者の臨床的特徴. 第48回日本糖尿病学会近畿地方会, 10月, 2011, 大阪.
  40. 出口令子, 森田真也, 駒田暢, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 発症時に著明な高カリウム血症を呈し麻痺性イレウスを合併した劇症1型糖尿病の一例. 第48回日本糖尿病学会近畿地方会, 10月, 2011, 大阪.
  41. 塩見真由, 向井康祐, 出口令子, 平井孝一, 宇都佳彦, 森田真也, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 2型糖尿病と肝硬変の治療中に腸腰筋膿瘍を合併した一例. 第48回日本糖尿病学会近畿地方会, 10月, 2011, 大阪.
  42. 平井孝一, 出口令子, 向井康祐, 宇都佳彦, 森田真也, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 2型糖尿病, 原発性胆汁性肝硬変に化膿性脊椎椎間板炎を合併した1例. 第48回日本糖尿病学会近畿地方会, 10月, 2011, 大阪.
  43. 向井康祐, 出口令子, 平井孝一, 宇都佳彦, 森田真也, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 北野昌彦: ニューモシスチス肺炎を合併したクッシング病の一例. 第19回日本ステロイドホルモン学会学術集会, 11月, 2011, 福岡.
  44. 出口令子, 森田真也, 駒田 暢, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正: 発症直後に麻痺性イレウスを合併した劇症1型糖尿病の1例. 病診連携ニッセイクリニカルカンファレンス, 11月, 2011, 大阪.
  45. 白川 学, 泉本修一, 笠山宗正, 有田憲生: 非機能性下垂体腺腫における術前後のIGF-1値の経時的変化-内視鏡単独手術と顕微鏡手術の比較-. 第7回アクロメガリーフォーラム, 11月, 2011, 東京.
  46. 笠山宗正, 齋藤洋一, 有田憲生, 岡本新悟, 佐藤文三: 先端巨大症患者における特定疾患治療研究事業医療費助成の申請状況と受給前後の治療内容の変化-医師アンケート調査結果より-. 第7回アクロメガリーフォーラム, 11月, 2011, 東京.
  47. 笠山宗正: 糖尿病診療におけるインスリン治療の位置づけ. Insulin Basic Seminar, 11月, 2011, 大阪.
  48. 笠山宗正: 糖尿病診療におけるベラプロストの位置づけ. プロスタグランジンと血管ミーティング, 12月, 2011, 大阪.
  49. 笠山宗正: 糖尿病の正しい基礎知識. のぞみ信用組合プレ60周年記念「健康セミナー」, 12月, 2011, 大阪.

#### 血液内科

1. 石河 純: 慢性骨髄性白血病の分子標的治療について. 日生病院合同chemoカンファレンス, 2月, 2012.
2. 竹本雅子: FDG-PETで経過を観たAngioimmunoblastic T cell lymphomaの1例. 第2回大阪PET-CULB総会. 5月, 2011, 大阪.
3. 川上 学: 骨髄異形成症候群に対する脱メチル化剤と新しい治療戦略. 日生病院合同chemoカンファレンス, 5月, 2011.
4. 竹本雅子, 川上 学, 神田枝理子, 三浦明子, 中川雅史, 池亀和博, 相馬俊裕, 小川啓恭: 急性リンパ性白血病に対する同種造血幹細胞移植後慢性期に, 急速な呼吸不全を来したインフルエンザ肺炎の一例. 第95回近畿血液地方会, 6月, 2011, 神戸.

5. 間島行則, 川上 学, 竹本雅子, 中川雅史 長谷川浩司, 濱田偉文: 頸動脈洞性失神を来した頸部巨大腫瘍を有する悪性リンパ腫の1例. 第194回日本内科学会近畿地方会 6月, 2011, 奈良.
6. 川上 学: 骨髄腫治療の進歩. 阿波座フォーラム 8月, 2011, 大阪.
7. 越智紗矢香: 鉄剤投与に抵抗性の小球性貧血にて紹介となった症例. 病診連携クリニカルカンファレンス, 10月, 2011, 大阪.
8. 竹本雅子, 石河 純, 川上 学, 中川雅史: EBV髄膜炎を合併した血管免疫芽球性リンパ腫一例. 第96回近畿血液地方会, 11月, 2011, 大阪.
9. 石河 純, 竹本雅子, 川上 学, 中川雅史, 林 悟, 柏木浩和, 富山佳昭: Del(20q)の染色体異常を呈した, 特発性血小板減少性紫斑病の1例. 第196回日本内科学会近畿地方会, 12月, 2011, 京都.
10. 川上 学: Transformed lymphomaの1例における骨髄へのFDG軽度集積. PET研究会, 11月, 2011, 大阪.

#### 神経科・精神科

1. 高橋 励: 講義と演習「コミュニケーション」他. 大阪市立大学緩和ケア講習会, 1月, 2011, 大阪.
2. 高橋 励: オランザピンの鎮痛補助効果についての神経ネットワークからの考察. 北摂精神科医療研究会, 1月, 2011, 大阪.
3. 高橋 励: 「うつ病の職場復帰と認知機能」. あわぎ産業医フォーラム, 4月, 2011, 大阪.
4. 野村慶子, 数井裕光, 徳永博正, 木藤友実子, 高屋雅彦, 和田民樹, 杉山博通, 山本大介, 吉山顕次, 下瀬川恵久, 畑澤 順, 武田雅俊: アルツハイマー病患者に認められる興奮の神経基盤の検討. 第27回日本老年学会総会, 6月, 2010, 東京.
5. 野村慶子, 数井裕光, 徳永博正, 木藤友実子, 高屋雅彦, 和田民樹, 杉山博通, 山本大介, 吉山顕次, 下瀬川恵久, 畑澤順, 武田雅俊: アルツハイマー病患者に認められる興奮の神経基盤の検討. 第26回老年精神医学会, 6月, 2011, 東京.
6. 高橋 励: 講義「精神症状」他. 大阪府立急性期総合医療センター緩和ケア講習会, 7月, 2011, 大阪.
7. Nomura K, Kazui H, Kito Y, Takaya M, Wada T, Sugiyama H, Yamamoto D, Yoshiyama K, Tokunaga H, Tabushi K, Takeda M: Classification of delusions in Alzheimer's disease. International Psychogeriatric Association 15th International Congress, 9月, 2011, オランダ, ハーグ.
8. 高橋 励: 講義「精神症状」, 「せん妄」他. 日生病院緩和ケア講習会, 10月, 2011, 大阪.
9. 江川 功: うつ病の早期発見と予防. 三井住友海上社内研修会, 11月, 2011, 大阪.
10. 栗本 龍, 石井良平, 岩瀬真生, 池澤浩二, Leonides Canuet, 疇地道代, 青木保典, 池田俊一郎, 高橋秀俊, 中鉢貴行, 木藤友実子, 吉田哲彦, 数井裕光, 吉峰俊樹, 武田雅俊: アルツハイマー病とレヴィー小体型認知症における開閉眼に伴う脳磁場活動の比較検討. 第11回精神疾患と認知機能研究会 11月, 2011, 東京.
11. 高橋 励: コメンテーター「せん妄」, 大阪大学病棟リエゾンセミナー, 12月, 2011, 大阪.

#### 消化器・一般外科

1. 神田枝理子, 南有紀子, 秋武宏規, 橘高信義, 安政啓吾, 西田幸弘, 黄 泰平, 藤川正博: 破裂を契機に発見された小腸原発GISTの1例. 第579回大阪外科集談会, 1月, 2011, 大阪.
2. 黄 泰平, 藤川正博, 安政啓吾, 南有紀子, 秋武宏規: 当院における高校生を対象とした手術室見学を試み. 第111回日本外科学会定期学術集会, 5月, 2011, 震災のため誌上開催
3. 南有紀子, 秋武宏規, 安政啓吾, 黄 泰平, 藤川正博: 単孔式腹腔鏡下天蓋切除術施行し得た巨大脾嚢胞の1例. 第66回日本消化器外科学会総会, 7月, 2011, 名古屋.

#### 乳腺外科

1. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ～もっと知っておきたい, 乳がんのこと～. 日本生命保険相互会社 近畿営業本部, 1月, 2011, 神戸.
2. 橘高信義, 西田幸弘: 乳がん術前化学療法の見聞～分子生物学的分類からみた効果・比較の実際～. 日生病院合同chemoカンファレンス, 2月, 2011, 大阪.
3. 橘高信義, 西田幸弘: 皮膚浸潤, 肺転移, 肝転移を来した1例. osaka breast cancer board (4), 2月, 2011, 大阪.
4. 西田幸弘: 乳がんの基礎と治療方針. 外来講師研修, 2月, 2011, 大阪.
5. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ～もっと知っておきたい, 乳がんのこと～. 日本生命保険

- 相互会社 近畿営業本部, 2月, 2011, 大阪.
6. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ~もっと知っておきたい, 乳がんのこと~. 日本生命保険相互会社 近畿営業本部, 2月, 2011, 京都.
  7. 西田幸弘: 乳がんの基礎と治療方針. 外来講師勉強会, 3月, 2011, 大阪.
  8. 西田幸弘: ~知っておきたい, 乳がんのこと~ 乳がんの現状・予防法・検診について. ニッセイ布施支社主催 乳がんセミナー, 4月, 2011, 東大阪.
  9. 橘高信義, 西田幸弘: 今日の乳がん診療~原因・リスクから検診・診断まで~. 第30回ニッセイ医学セミナーUpdate抄録, 4月, 2011, 大阪.
  10. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ~もっと知っておきたい, 乳がんのこと~. 日本生命保険相互会社 近畿営業本部 平成22年度第三期がんばルーキー研修会, 5月, 2011, 大阪.
  11. 西田幸弘, 橘高信義: 画像上での再発転移巣を認めず腫瘍マーカーのみが異常高値を示した1例. osaka breast cancer school (7), 5月, 2011, 大阪.
  12. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ~もっと知っておきたい, 乳がんのこと~. ニッセイ布施支社主催 乳がんセミナー, 6月, 2011, 東大阪.
  13. 西田幸弘: 乳癌の診断と治療. 西区薬剤師会学術講演会, 7月, 2011, 大阪.
  14. 西田幸弘, 橘高信義: 画像上での再発転移巣を認めず腫瘍マーカーのみが異常高値を示した1例. 乳癌最新情報カンファランス(12), 8月, 2011, 熊本.
  15. 西田幸弘, 橘高信義, 藤川正博, 黄 泰平, 安政啓吾, 南有紀子, 秋武宏規, 太口 翠, 神田枝里子, 畠山明子, 松浦三月: nab-Paclitaxel (Abraxane) 療法における有害事象の検討. 日本乳癌学会学術総会 (19), 9月, 2011, 仙台.
  16. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ~もっと知っておきたい, 乳がんのこと~ 乳がんの現状・予防法・検診について. 日本生命保険相互会社 御堂筋支社, カスタマーサービス推進室, 9月, 2011, 大阪.
  17. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ~もっと知っておきたい, 乳がんのこと~ 乳がんの現状・予防法・検診について. 日本生命保険相互会社 都心北, 都心南支社, 9月, 2011, 大阪.
  18. 橘高信義, 西田幸弘, 太口 翠, 神田枝里子, 畠山明子, 松浦三月: ホルモン補充療法施行中に発症した乳癌6例の検討. 日本乳癌学会学術総会 (19), 9月, 2011, 仙台.
  19. 神田枝里子, 橘高信義, 太口 翠, 西田幸弘: 全身麻酔下での手術可能であった超高齢者乳癌の2例. 日本乳癌学会学術総会(19), 9月, 2011, 仙台.
  20. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ~知っておきたい, 乳がんのこと~. 凸版印刷 関西事業部, 10月, 2011, 大阪.
  21. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ~もっと知っておきたい, 乳がんのこと~. 日本生命保険相互会社 茨木支社, 10月, 2011, 大阪.
  22. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ~もっと知っておきたい, 乳がんのこと~ 乳がんの現状・予防法・検診について. 日本生命保険相互会社 茨木支社, 10月, 2011, 大阪.
  23. 西田幸弘: 再発乳がんの治療方針. 社外講師勉強会, 11月, 2011, 大阪.
  24. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ~もっと知っておきたい, 乳がんのこと~ 乳がんの現状・予防法・検診について. 日本生命保険相互会社 大阪養成センター主催, 11月, 2011, 大阪.
  25. 西田幸弘: よくわかる乳がんセミナー ~もっと知っておきたい, 乳がんのこと~. 日本生命保険相互会社 奈良支社, 12月, 2011, 奈良.

#### 整形外科

1. Tsuji S, Miyoshi H, Tomita T, Nakase T, Hamada M, Oomae T, Tsumoto C, Hirata Y, Iguchi M, Edogawa S, Kawai H, Yoshikawa H: CELECOXIB, A SELECTIVE COX-2 INHIBITOR IMPROVED UPPER GASTROINTESTINAL (GI) ADVERSE LESIONS IN PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS ON LONG-TERM NSAID THERAPY WITH ENDOSCOPIC EVALUATION. EULAR Annual European Congress of Rheumatology 5月, 2011, イギリス, ロンドン.
2. Suzuki K, Tsuji S, Fukushima Y, Iwai T, Nakase T, Hamada M, Tomita T, Kawai H, Yoshikawa H: A COMPARISON OF CLINICAL RESULTS OF ALENDRONATE MONOTHERAPY AND ALENDRONATE WITH MENATETRENON (VITK 2) COMBINED THERAPY IN POSTMENOPAUSAL

RA PATIENTS. EULAR Annual European Congress of Rheumatology 5月, 2011, イギリス, ロンドン.

3. 辻 成佳, 稲岡正裕, 東山真里, 濱田雅之, 河井秀夫, 富田哲也, 吉川秀樹: 乾癬性関節炎に対するアダリムマブの治療効果. 日本整形外科学会学術集会, 5月, 2011, 横浜.
4. 辻 成佳, 岩井貴男, 野村幸嗣, 中谷宏幸, 棚座康夫, 高樋康一郎, 井澤一隆, 橋本英雄, 藤井昌一, 富田哲也, 井川 宣, 大澤 傑, 青木康彰, 吉川秀樹: 関節リウマチに対するアダリムマブの有効性の検討 ~多施設使用症例での臨床的有用性の検討~. 日本リウマチ学会総会, 7月, 2011, 神戸.
5. 辻 成佳, 稲岡正裕, 東山真里, 濱田雅之, 河井秀夫, 富田哲也, 吉川秀樹: 乾癬性関節炎に対するアダリムマブの治療効果. 日本リウマチ学会総会, 7月, 2011, 神戸.
6. 辻 成佳, 中瀬尚長, 濱田雅之, 河井秀夫, 三好博文, 大前貴裕, 津本親子, 平田好正, 井口宗威, 江戸川祥子: RAにおける非選択的NSAIDsからCOX-2阻害薬(Celecoxib)への切り替え効果の前向き研究. 日本リウマチ学会総会, 7月, 2011, 神戸.
7. 辻 成佳, 稲岡正裕, 東山真里, 濱田雅之, 河井秀夫, 富田哲也, 吉川秀樹: 乾癬性関節炎に対するアダリムマブの治療効果. 日本乾癬学会学術大会, 9月, 2011, 大阪.
8. Tsuji S, Tomita T, Nakase T, Hamada M, Kawai H, Yoshikawa H: Celecoxib, a selective COX-2 inhibitor, improves a bone resorption marker in postmenopausal women with rheumatoid arthritis. American College of Rheumatology (ACR), 11月, 2011, アメリカ, シカゴ.

## 皮膚科

1. 林 美沙, 平野亜由子, 佐藤彩子, 東山真里, 加茂理英: 原発巣にSutton現象を認めた全身多発転移した悪性黒色腫の1例. 第110回日本皮膚科学会総会, 4月, 2011, 横浜.
2. 東山真里: 抗癌剤による皮膚障害Q&A. 第2回癌薬物療法アーベント, 5月, 2011, 大阪.
3. Nakagawa Y, Takamatsu H, Katayama I, Kumanogoh A: A class IV semaphorin, Sema4B regulates activation of basophils. The 71st Annual Meeting of Society for Investigative dermatology, 5月, 2011, アメリカ.
4. 遠山知子, 横見明典, 種村 篤, 片山一郎: SAPHO症候群にSweet病様皮疹を伴った1例. 第425回大阪地方会, 5月, 2011, 大阪.
5. 林 美沙, 平野亜由子, 佐藤彩子, 東山真里: V. A. C. ATSR治療システムにより入院期間が短縮できた糖尿病性壊疽. 第27回日本臨床皮膚科医会総会, 6月, 2011, 大阪.
6. 東山真里: 病診連携(乾癬治療ネットワーク). 第27回日本臨床皮膚科医会総会シンポジウム, 6月, 2011, 大阪.
7. 東山真里, 杉本麗子, 辻 成佳: レミケード治療が奏功した乾癬性関節炎とブドウ膜炎. 第3回関西皮膚科Biologics研究会, 6月, 2011, 大阪.
8. 林 美沙, 平野亜由子, 佐藤彩子, 東山真里, 瀬口道秀, 杉本麗子: インフリキシマブが奏功した乾癬性ぶどう膜炎の2例. 第104回近畿皮膚科集談会, 7月, 2011, 大阪.
9. 東山真里: 乾癬の最新の光治療「ナローバンドUVB治療」. 第26回日本乾癬学会シンポジウム, 9月, 2011, 大阪.
10. 東山真里, 川田 暁, 片山一郎, 川原 繁, 吉良正浩, 岡本祐之, 石井正光, 森脇真一, 戸田憲一, 庄田裕紀子, 辻 成佳, 谷 守, 梅垣知子, 栗本貴弘: 大阪地区における多施設での尋常性乾癬, 関節症性乾癬におけるアダリムマブの安全性, 有効性の検討. 第26回日本乾癬学会, 9月, 2011, 大阪.
11. 東山真里: 日生病院における乾癬治療と病診連携. なにわ乾癬治療懇話会, 9月, 2011, 大阪.
12. 辻 真紀, 林 美沙, 遠山知子, 平野亜由子, 中川幸延, 東山真里, 福井辰成, 黒田昌男: 頭部皮膚転移で診断された腎癌の1例. 第427回大阪地方会, 10月, 2011, 大阪.
13. 林 美沙, 平野亜由子, 佐藤彩子, 東山真里: トニックウオーターによる固定疹. 日本皮膚科学会西部支部総会, 10月, 2011, 宜野湾.
14. 東山真里: 乾癬と乾癬性関節炎の治療Update. 兵庫県整形外科医会学術講演会, 10月, 2011, 神戸.
15. 東山真里: QOL向上をめざした乾癬治療「病診連携・生物学的製剤の適応・患者会活動」. 第2回皮膚科生物学的製剤治療セミナー in 久留米, 10月, 2011, 久留米.
16. 中川幸延, 林美沙, 遠山知子, 東山真里: 不全型ベーチェット病の1例. 第199回大阪症例検討会, 11

月, 2011, 大阪.

17. 東山真里：乾癬治療ネットワーク. 大阪府医師会医学会総会, 11月, 2011, 大阪.
18. 東山真里：QOL向上をめざした乾癬治療「病診連携の重要性と患者会活動について」. 大分皮膚科医会講演会, 11月, 2011, 大分.
19. 東山真里：関節の痛みや腫れはありませんか？「乾癬性関節炎の症状と治療について」. 大分乾癬患者友の会学習会, 11月, 2011, 大分.
20. 東山真里：あなたの乾癬治療－皮膚科医が語るちょっといい話. 大阪乾癬患者友の会学習会, 11月, 2011, 神戸.
21. Nakagawa Y, Takamatsu H, Katayama I, Kumanogoh A : A class IV semaphorin, Sema 4 B regulates activation of basophils. The 40th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology, 12月, 2011, 千葉.
22. 東山真里：抗癌剤による皮膚障害「現状と治療」. 第3回癌薬物療法イベント, 12月, 2011, 大阪.
23. 林 美沙, 遠山知子, 平野亜由子, 中川幸延, 東山真里：トニックウォーターによる固定疹の1例. 第68回臨床アレルギー研究会（関西）, 12月, 2011, 大阪狭山.

#### 泌尿器科

1. 花房隆範, 中田 渡, 福井辰成, 黒田昌男：前立腺癌に対する間歇的内分泌療法の実験. 第99回日本泌尿器科学会総会, 4月, 2011, 名古屋.
2. 花房隆範, 金宮健翁, 福井辰成, 黒田昌男：当科におけるstageC前立腺癌治療についての検討. 第15回大阪泌尿器腫瘍フォーラム, 6月, 2011, 大阪.
3. 金宮健翁, 田中雅登, 花房隆範, 福井辰成, 黒田昌男：高齢者前立腺癌に対する当院での治療成績. 第61回日本泌尿器科学会中部総会, 11月, 2011, 京都.
4. 花房隆範, 金宮健翁, 福井辰成, 黒田昌男：当科におけるハイリスク非筋層浸潤膀胱癌治療についての検討. 第16回大阪泌尿器腫瘍フォーラム, 12月, 2011, 大阪.

#### 産婦人科

1. 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：単孔式腹腔鏡下子宮全摘術を施行した2例の検討（SILSポートとEZアクセスとの比較）. 第11回近畿産婦人科

内視鏡手術研究会, 2月, 2011, 大阪.

2. 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：腔狭小症例に対するTLHでの子宮回収の工夫. 第11回近畿産婦人科内視鏡手術研究会, 2月, 2011, 大阪.
3. 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：当院における妊娠中の腹腔鏡下卵巣腫瘍手術（気腹式）についての検討. 第33回日本産婦人科手術学会, 2月, 2011, 岡山.
4. 小玉美智子, 尾上昌世, 吉見佳奈, 久 毅, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 上田創平, 友滝清一, 古山将康：TVM術後8ヶ月目にメッシュ感染を生じ, 治療に苦慮した1例. 第5回TVM研究会 ワークショップ, 2月, 2011, 大阪.
5. 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：当院における腹腔鏡科卵巣腫瘍摘出手術についての手技の工夫. 第30回大阪大学産婦人科オープンクリニカルカンファレンス, 5月, 2011, 大阪.
6. 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：妊娠中の腹腔鏡下卵巣腫瘍手術について体外法と体内法の比較検討. 第124回近畿産科婦人科学会, 6月, 2011, 和歌山.
7. 尾上昌世, 佐伯典厚, 吉見佳奈, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 船渡孝郎：嚢胞内に多数の“floating balls”を有する卵巣皮様嚢腫の1例. 第124回近畿産科婦人科学会, 6月, 2011, 和歌山.
8. 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：腔狭小症例に対する全腹腔鏡下子宮全摘術（TLH）での組織回収の工夫. 第124回近畿産科婦人科学会, 6月, 2011, 和歌山.
9. 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：EZアクセスを用いた単孔式腹腔鏡下子宮全摘術. 第124回近畿産科婦人科学会, 6月, 2011, 和歌山.
10. 佐伯典厚：産婦人科領域の性感染症の動向. 第35回ニッセイ医学セミナーUpdate, 7月, 2011, 大阪.
11. 小玉美智子, 尾上昌世, 吉見佳奈, 久 毅, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 古山将康：MRI検査にてメッシュ挿入部位が描出されたTVM術後感染の1例. 第13回日本女性骨盤底医学会, 7月, 2011, 横浜.

12. 矢田（橋本）奈美子, 尾上昌世, 吉見佳奈, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎：腹腔鏡下子宮筋腫核出後の妊娠症例に関する検討. 第51回日本産科婦人科内視鏡学会, 8月, 2011, 大阪.
13. 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：腹腔鏡下子宮筋腫核出術の適応となる手術症例の変遷. 第51回日本産科婦人科内視鏡学会, 8月, 2011, 大阪.
14. 小玉美智子, 尾上昌世, 吉見佳奈, 久 毅, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：膀胱損傷を来した腹腔鏡下子宮頸部摘出術の1例. 第51回日本産科婦人科内視鏡学会, 8月, 2011, 大阪.
15. 尾上昌世, 久 毅, 吉見佳奈, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：子宮内膜症を伴う副角子宮留血腫に対し腹腔鏡下副角子宮摘出を行った1症例. 第51回日本産科婦人科内視鏡学会, 8月, 2011, 大阪.
16. 久 毅, 尾上昌世, 吉見佳奈, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：良性卵巣腫瘍に対する単孔式腹腔鏡下手術における二術式の比較検討. 第51回日本産科婦人科内視鏡学会, 8月, 2011, 大阪.
17. 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：単孔式腹腔鏡下子宮全摘術を施行した3例の検討 (SILSポートとEZアクセスとの比較). 第51回日本産科婦人科内視鏡学会, 8月, 2011, 大阪.
18. 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：膣狭小症例に対する全腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH) での子宮回収の工夫. 第51回日本産科婦人科内視鏡学会, 8月, 2011, 大阪.
19. 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：全腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH) での後腹膜腔へのアプローチの検討. 第51回日本産科婦人科内視鏡学会, 8月, 2011, 大阪.
20. 佐伯典厚, 尾上昌世, 久 毅, 吉見佳奈, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 船渡孝郎：全腹腔鏡下子宮全摘術後の経膈内臓脱出症防止対策. 第51回日本産科婦人科内視鏡学会, 8月, 2011, 大阪.
21. 久 毅, 尾上昌世, 吉見佳奈, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：子宮内膜症性卵巣のう腫に対する腹腔鏡下手術術前ジェノゲスの使用経験-Gn-Rhaとの比較検討. 第63回日本産科婦人科学会, 8月, 2011, 大阪.
22. 船渡孝郎：「子宮頸がんの現状・検診・予防ワクチン」について. 医師が語るがんセミナー, 9月, 2011, 仙台.
23. 小玉美智子, 甲村弘子, 西尾幸浩：女性ホルモン補充療法開始年齢によるターナー症候群患者の骨密度増加の相違について. 第22回婦人科骨粗鬆症研究会学術集会, 10月, 2011, 東京.
24. Kodama M, Onoue M, Yoshimi K, Hisa T, Otsuka H, Yada-Hashimoto N, Saeki N, Funato T : Ingenious method for hysteroscopic resection of giant submucous myoma descending to the vagina. 40th AAGL Global congress of minimally invasive gynecology, 11月, 2011, アメリカ, ハリウッド.
25. Hisa T, Onoue M, Yoshimi K, Kodama M, Otsuka H, Hashimoto N, Saeki N, Funato T : The Use of Straight vs. Curved or Articulating Instruments in Single-Port Surgery for Benign Adnexal Tumor. 40th AAGL Global congress of minimally invasive gynecology, 11月, 2011, アメリカ, ハリウッド.
26. 尾上昌世, 久 毅, 吉見佳奈, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：当院における Tension free vaginal mesh (TVM) 手術 これまでの経験および合併症. 第31回大阪大学産婦人科オープンクリニカルカンファレンス, 11月, 2011, 大阪.
27. 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：腹腔鏡下子宮筋腫核出術に対する自己血輸血についての検討. 第34回日本産婦人科手術学会, 11月, 2011, 久留米.
28. 大塚博文, 吉見佳奈, 尾上昌世, 久 毅, 小玉美智子, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：大きな子宮に対する全腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH) の検討. 第34回日本産婦人科手術学会, 11月, 2011, 久留米.
29. Yada-Hashimoto N, Onoue M, Yoshimi K, Hisa T, Kodama M, Otsuka H, Saeki N, Funato T : Pregnancy outcome after laparoscopic myomectomy. 6th AAGL International Congress on Minimally Invasive Gynecology in conjunction with 12th APAGE Annual Congress, 12月, 2011, 大阪.
30. 矢田（橋本）奈美子, 尾上昌世, 吉見佳奈, 久 毅,

小玉美智子, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腹腔鏡下子宮筋腫核出後の妊娠に関する検討. 第24回日本内視鏡外科学会, 12月, 2011, 大阪.

31. 佐伯典厚, 安政啓吾, 黄泰平, 大嶋正人, 尾上昌世, 久毅, 吉見佳奈, 小玉美智子, 大塚博文, 橋本奈美子, 船渡孝郎: 婦人科腹腔鏡手術で癒着剥離の際に憩室穿孔が原因で術中腸管損傷を発症した1例. 第24回日本内視鏡外科学会, 12月, 2011, 大阪.

#### 眼科

1. 島袋幹子: 最近の白内障手術. 第34回ニッセイ医学セミナーUpdate, 9月, 2011, 大阪.

#### 耳鼻咽喉科

1. 細野研二, 谷口由希子, 赤羽 誉: 当院での補聴器外来の現状と補聴器の最近の話題. 第16回青磁会(西区耳鼻咽喉科医会), 日生病院 耳鼻咽喉科, 2月, 2011, 大阪.
2. 赤羽 誉, 谷口由希子, 細野研二, 今泉哲宏: 当科における顎下腺全摘術. 畝傍カンファレンス, 4月, 2011, 橿原.
3. 三上慎司, 岡本英之, 太田一郎, 榊井貴史, 細井裕司, 今泉哲宏: 当科におけるWeekly CCRT (concurrent chemoradiotherapy) 症例の検討. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 第317回 例会, 6月, 2011, 大阪.
4. 細野研二, 赤羽 誉, 谷口由希子, 今泉哲宏, 大嶋正人: 耳下腺に発生した筋上皮癌の1例. 第73回耳鼻咽喉科臨床学会, 6月, 2011, 松本.
5. 細野研二, 谷口由希子, 今泉哲宏, 赤羽 誉: 術後まれな経過をたどった舌・咽頭・胸部食道重複癌症例. 第27回奈良県頭頸部腫瘍研究会, 7月, 2011, 橿原.
6. 今泉哲宏, 細野研二, 谷口由希子, 赤羽 誉: 甲状腺・副甲状腺の超音波検査. 第17回青磁会(西区耳鼻咽喉科医会), 7月, 2011, 大阪.
7. 谷口由希子, 今泉哲宏, 細野研二, 赤羽 誉: 当科におけるめまい診療 ~最近の話題をふまえて~. 第36回ニッセイ医学セミナーUpdate, 12月, 2011, 大阪.

#### 放射線科

1. 岩澤 仁, 大上庄一, 安政啓吾, 三谷 尚: Miriplatinを用いた神経内分泌腫瘍肝転移に対するTACEの経験. 第30回 日本画像医学会, 2月,

2011, 東京.

2. Iwazawa J, Ohue S, Kitayama T, Mitani T: C-arm CT for assessment of initial failure of iodized oil accumulation in chemoembolization of hepatocellular carcinoma. ECR 2011, 3月, 2011, オーストリア, ウィーン.
3. 岩澤 仁, 大上庄一, 佐々成太郎, 北山聡明, 三谷 尚: Cone-beam CTによるTACE後のLipiodol集積欠損の評価. 第40回 日本IVR学会総会, 5月, 2011, 青森.
4. 橋本尚子, 大上庄一, 岩澤 仁, 三谷 尚: 副腎静脈サンプリングにおいて副肝静脈と共通肝をなす右副腎静脈の同定にCone-beam CTが有用であった1例. 第298回 日本医学放射線学会関西地方会, 6月, 2011, 大阪.
5. Iwazawa J, Ohue S, Hashimoto N, Mitani T: Intravenous contrast-enhanced C-arm CT for assessing safety margins in radiofrequency ablation of liver tumor: A preliminary result. CIRSE 2011, 9月, 2011, ドイツ, ミュンヘン.

#### 麻酔・緩和医療科

1. 岡田夏枝: 肺癌胸壁・胸椎転移による疼痛に対しクモ膜下フェノールブロックを施行した症例. 大阪西緩和ケアカンファレンス, 1月, 2011, 大阪.
2. 小山佐知子, 川原玲子: クモ膜下フェノールブロック後の看護. 大阪西緩和ケアカンファレンス, 1月, 2011, 大阪.
3. Kawahara R, Kawahara H: Transversus abdominis plane (TAP) block under ultrasonographic visualization for pain relief in pediatric surgery. PAPS 44th Annual meetings, 4月, 2011, メキシコ, カンクン.
4. Kawahara R, Okuno S, Oyama S: Effects of Yokukansan, a traditional Japanese medicine, on delirium in advanced cancer patients. The 12th European association palliative care (EAPC), 5月, 2011, ポルトガル, リスボン.
5. Okuno S, Okada N, Suda M, Tamai Y, Yamasaki K, Hanada R, Kawahara R: The effects of rikkunshito suppository for nausea and vomit in cancer patients. The 12th European association palliative care (EAPC), 5月, 2011, ポルトガル, リスボン.
6. Oyama S, Okada N, Suda M, Tamai Y,

- Yamasaki K, Okuno S, Hanada , Kawahara R : The use of novel T-shaped device in accelerating the onset of analgesia via patient-controlled intravenous analgesia (PCIA). The 12th European association palliative care (EAPC), 5月, 2011, ポルトガル, リスボン.
7. 岡田夏枝, 須田万理, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 単孔式腹腔鏡手術 (SILS: Single Injection Laparoscopic Surgery) の術後鎮痛における超音波ガイド下ブロックの効果. 日本麻酔科学会第58回学術集会, 5月, 2011, 神戸.
  8. 奥野聡子, 山崎恭子, 花田留美, 川原玲子: 超音波ガイド下腕神経叢ブロックを用いて頸椎弓形成術後の慢性疼痛に対するオピオイド投与を離脱しえた1例. 日本ペインクリニック学会第45回大会, 7月, 2011, 松山.
  9. 川原玲子, 小山佐知子, 刀山五郎, 酒井まゆみ, 北貴志, 岡嶋洋子, 林 博文, 宮川昌子: 病病連携を目指した緩和ケアチーム合同研究会. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2011, 札幌.
  10. 森真由子, 川原玲子, 小山佐知子, 畑中勝義: トラマドール投与時の突出痛レスキューについての検討. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2011, 札幌.
  11. 花田留美, 小山佐知子, 村西寛実, 奥野聡子, 川原玲子: 糖尿病患者の急性下肢動脈閉塞症後壊死性疼痛に対して疼痛管理を行った一症例. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2011, 札幌.
  12. 小山佐知子, 森真由子, 奥野聡子, 川原玲子, 寺川直樹: 口腔内疼痛に対し立効散 (TJ-110) が有用であった2例. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2011, 札幌.
  13. 小池 翠, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 持続大腿神経ブロックを用いて術後リハビリテーションを行った膝関節拘縮症の1例. 第57回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 9月, 2011, 大阪.
  14. 清水梨江, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 小児の虫垂切除術における超音波ガイド下腹横筋膜面ブロック (TAP-block). 日本小児麻酔学会第17回大会, 9月, 2011, 吹田.
  15. Kawahara R, Funato T: The analgesic effects of ultrasound-guided rectus sheath block combined with transversus abdominis plane block for pain control after gynecologic transumbilical single incision laparoscopic surgery. The Annual meeting of ASA (American Society of Anesthesiologist) 2011, 10月, 2011, アメリカ, シカゴ.
  16. Kawahara R, Funato T: The analgesic efficacy of ultrasound-guided transversus abdominis plane block after gynecologic laparoscopic surgery: A randomized controlled trial. The Annual meeting of ASA (American Society of Anesthesiologist) 2011, 10月, 2011, アメリカ, シカゴ.
  17. 山本実加, 川原玲子: Patient Controlled Analgesia (PCA) 間歇投与を頻回に行う症例の疼痛管理. 大阪がん緩和ネット研究会, 11月, 2011, 大阪.
  18. 小山佐知子, 森真由子, 奥野聡子, 川原玲子, 寺川直樹: 口腔内疼痛に対し立効散 (TJ-110) が有用であった2例. 大阪がん緩和ネット研究会, 11月, 2011, 大阪.
  19. 川原玲子: 慢性疼痛に対する医療用麻薬の使い方. NTT西日本病院院内講演会, 12月, 2001, 大阪.
  20. 川原玲子: 漢方薬を用いた緩和医療への取り組み. 北河内緩和ケア講演会, 12月, 2011, 枚方.
- #### 生活習慣病センター
1. 片岡宏一郎, 喜多彬光, 廣田将史, 小倉敬子, 麦田盛穂, 外山晶代, 稲岡正裕, 角南ちえ子, 森田真也, 笠山宗正: 糖尿病多発神経障害を有する糖尿病患者の足底に掛かる重心位置に関する検討. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  2. 麦田盛穂, 廣田将史, 喜多彬光, 小倉敬子, 外山晶代, 片岡宏一郎, 角南ちえ子, 三木宏真, 藤島顕弘, 辻本貴志, 稲岡正裕, 森田真也, 笠山宗正: 糖尿病は人工膝関節置換術 (Total knee arthroplasty: TKA) 後早期の運動機能に影響を及ぼすか?. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  3. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 未治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミンと生活習慣介入の有効性に関する検討 (EMINENT Study: 第1報). 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
  4. 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 森田真也, 宇都

佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 住谷 哲: 2型糖尿病患者に対するカーボカウントを用いた食事療法の有効性に関する検討. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.

5. 高山由美子, 井上恵子, 角南ちえ子, 阿部恭子, 川瀬俊子, 山本慶子, 新井幸子, 森田真也, 住谷 哲, 佐藤文三, 笠山宗正: 総合病院受診患者のメタボリックシンドロームの認知度に関する調査. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
6. 片岡宏一郎, 喜多彬光, 廣田将史, 小倉敬子, 麦田盛穂, 外山晶代, 田中孝, 稲岡正裕, 角南ちえ子, 森田真也, 笠山宗正: 理学療法士から見た糖尿病患者の転倒リスクに関する考察. 第4回糖尿病ライフセミナー, 6月, 2011, 大阪.
7. 角南ちえ子, 山原瑞穂, 野村浩英: 生活習慣病センターへようこそ. 日生病院生活習慣病センター公開セミナー, 9月, 2011, 大阪.
8. 角南ちえ子: 糖尿病と歯周病. NISSAY Collaboration Conference~糖尿病と心血管イベント~, 9月, 2011, 大阪.
9. 角南ちえ子: 合併症を持つ患者の看護を語ろう. 日本糖尿病・看護学会交流集会, 9月, 2011, 大阪.

#### リハビリテーション室

1. 片岡宏一郎, 喜多彬光, 廣田将史, 小倉敬子, 麦田盛穂, 外山晶代, 稲岡正裕, 角南ちえ子, 森田真也, 笠山宗正: 糖尿病多発神経障害を有する糖尿病患者の足底に掛かる重心位置に関する検討. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
2. 麦田盛穂, 廣田将史, 喜多彬光, 小倉敬子, 外山晶代, 片岡宏一郎, 角南ちえ子, 三木宏真, 藤島顕弘, 辻本貴志, 稲岡正裕, 森田真也, 笠山宗正: 糖尿病は人工膝関節置換術(Total Knee Arthroplasty: TKA)後早期の運動機能に影響を及ぼすか? 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
3. 廣田将史, 片岡宏一郎, 小倉敬子, 麦田盛穂, 喜多彬光, 外山晶代, 稲岡正裕, 笠山宗正: 糖尿病患者の下肢筋力・重心動揺に対する運動療法の効果-運動実施期間による比較検討-. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
4. 片岡宏一郎, 喜多彬光, 廣田将史, 小倉敬子, 麦田盛穂, 外山晶代, 稲岡正裕, 角南ちえ子, 森田真也, 笠山宗正: 理学療法士から見た糖尿病患者の転倒リスクに関する考察. 第4回糖尿病ライフセ

ナー, 6月, 2011, 大阪.

#### 栄養管理室

1. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正: 未治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミンと生活習慣介入の有効性に関する検討(EMINENT Study: 第1報). 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
2. 山原瑞穂, 池上理絵, 角南ちえ子, 森田真也, 宇都佳彦, 向井康祐, 三木俊治, 米田育子, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 住谷 哲: 2型糖尿病患者に対するカーボカウントを用いた食事療法の有効性に関する検討. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
3. 角南ちえ子, 山原瑞穂, 野村浩英: 生活習慣病センターへようこそ. 日生病院生活習慣病センター公開セミナー, 9月, 2011, 大阪.

#### 看護部

1. 高山由美子: 総合病院受診患者のメタボリックシンドロームの認知度に関する調査, 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2011, 札幌.
2. 小山佐知子, 森由美子, 奥野聡子, 川原玲子, 寺川直樹: 口腔内疼痛に対し立効散(TJ-110)が有効であった2例, 第16回 日本緩和医療学会学術大会, 7月, 2011, 札幌.
3. 久永摩依子, 久井貴美子, 仙田美智子, 植村圭奈子: 外来通院中の妊婦におけるドメスティックバイオレンス(DV)調査, 第42回日本看護学会学術集会母性・小児看護, 8月, 2011, 東京.
4. 大畠千春, 高熊俊恵, 三輪由美, 下田明奈, 中島さゆり, 鈴木八枝子: 患者と家族へせん妄の知識提供を行った後の家族の関わりと患者の変化. 第36回夏期看護研修会・臨地実習指導者会, 8月, 2011, 大阪.
5. 三田ルミ, 戸田陽子, 真継章子, 奥 薫, 高本景子, 酒井亜紀子, 大藤弘美, 八尾みゆき: 化学療法により無菌室管理を強いられた患者の心理. 第42回日本看護学会学術集会成人看護I・II, 9月, 2011, 大阪.
6. 塩谷美智留, 草野真由美, 中村美穂, 明上智美, 下井孝子, 岩本真澄: 高齢者のせん妄症状の現状調査~内科病棟で働く看護師のインタビューを通し

て～. 第42回日本看護学会学術集会成人看護Ⅰ・Ⅱ, 9月, 2011, 大阪.

7. 中川弥紀, 水越 梓, 赤松真衣, 土屋愛子, 小山佐知子, 猪田睦子: 頭頸部癌放射線療法を受ける患者の口腔内乾燥に対してリンゴ酢アイスボールを使用しての効果. 第42回日本看護学会学術集会成人看護Ⅰ・Ⅱ, 9月, 2011, 大阪.
8. 森川朋美, 桑原寿江, 町田恵子: 全身麻酔を受ける患者のプロポフォール注入時痛の軽減. 第42回日本看護学会学術集会成人看護Ⅰ・Ⅱ, 9月, 2011, 大阪.
9. 石井広美, 中村真理, 村上知佳, 小高慶子, 三好由紀子, 田畑文子: うつ病患者の自宅での精神症状出現時の対応～頓服薬使用への思い～. 第42回日本看護学会学術集会精神看護, 9月, 2011, 札幌.

## 第5章 諸活動

### 診療科別教育

部(科)名	教育・研修項目		部(科)名	教育・研修項目	
循環器内科 神経内科	・新入院患者紹介 ・症例検討会 ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (週1回) (月1回) (年1回)	泌尿器科	・症例検討会 ・抄読会	(週1回) (週1～2回)
消化器内科	・症例検討会 ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (月2回) (月1回) (年1回)	産婦人科	・症例検討会 ・抄読会 ・ケアカンファレンス・モーニングカンファレンス ・レイトゲンカンファレンス・周産期カンファレンス ・ニッセイ内視鏡研究会 ・ニッセイ病診連携懇話会	(週1回) (週1回) (週1回) (年1回) (年1回)
総合内科	・症例検討会 ・抄読会 ・内科合同カンファレンス ・糖尿病療養指導チーム勉強会 ・糖尿病ケアカンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週各1回) (月1回) (月1回) (月1回) (年1回)	眼科	・外来勉強会 ・病棟勉強会 ・西区病診連携の会 ・日生・住友病院合同勉強会	(2～3ヶ月に1回) (年1～2回) (年1回) (年2回)
血液・化学療法内科	・症例検討会 ・抄読会 ・血液標本検討会 ・内科合同カンファレンス ・内科・地域合同症例検討会	(週1回) (月2回) (月2回) (月1回) (年1回)	耳鼻咽喉科	・術前カンファレンス ・西区病診連携の会 ・勉強会	(週1回) (年2回) (年数回)
神経科・精神科	・心理検査勉強会 ・症例検討会	(月1回) (随時)	放射線科	・日生病院外科カンファレンス	(週1回)
小児科	・勉強会 ・入院症例検討会 ・小児科外来勉強会 ・周産期カンファレンス ・新生児管理カンファレンス	(週1回程度) (平日) (年数回) (週1回) (月1回)	麻酔・緩和医療科	・ペイン症例検討会 ・麻酔症例検討会 ・緩和ケアカンファレンス	(週1回) (週1回) (月2回)
消化器・一般外科 乳腺外科	・症例検討会 ・手術統計 ・死亡症例検討会 ・学会報告 ・CPC ・NST勉強会 ・抄読会	(週1回) (年1回) (年1回) (随時) (随時)	病理診断科	・スライドカンファレンス ・症例検討会(抄読会) ・CPC ・日本病理学会近畿支部 学術集会	(週1回) (週1回) (月1回) (年4回)
整形外科	・抄読会 ・手術症例検討会 ・リハビリ検討会 ・整形病棟勉強会 ・リサーチカンファ、及び学会報告会	(週1回) (週1回) (月2回) (年2～3回) (年数回)	予防医学センター	・予防医学センター勉強会 ・あわざ産業医セミナー	(月2回) (年1回)
リハビリ	・抄読会 ・リハビリ検討会 ・糖尿病療養指導チーム勉強会 ・NST勉強会 ・医療技能職勉強会	(週1回) (月2回) (月1回) (月1回) (年1回)	薬剤部	・新薬説明会 ・薬剤部研修会 ・ファーマシヤカルケア研修会 ・部内有害事象検討会	(週1回) (月1回) (月2回) (年4回)
皮膚科	・症例検討会 ・抄読会 ・3病院合同症例検討会 (日生・住友・大阪厚生年金病院) 大阪西、中部地区皮膚科症例検討会	(週1回) (月3回) (月1回) (月1回) (年1回)	医療技能部	・医療技能職勉強会	(年2回)
			中央臨床検査部	・医療技能職勉強会 ・中検勉強会	(年2回) (月1～2回)
			医療生活相談室	・医療技能職勉強会 ・医療福祉施設MSW研修会	(年1回) (年5回)
			栄養管理室	・栄養士勉強会 ・厨房スタッフ・ミーティング教育 ・献立勉強会	(月1回) (毎日) (月1回)
			診療情報管理室	・診療情報管理室勉強会	(年数回)
			医事G	・健保改正勉強会	(年1回)

C P C (平成23年)

01月28日：第1例：両側副腎腫瘍

03月04日：第1例：EBウイルス関連びまん性大細胞性B細胞リンパ腫

05月27日：第1例：原発不明癌（腭悪性腫瘍疑い）

07月01日：第1例：クッシング病

11月04日：第1例：骨髄異形成症候群

11月10日：第1例：喉頭癌術後＋糖尿病

11月24日：第1例：肺癌

12月02日：第1例：悪性リンパ腫（EBウイルス感染）

12月08日：第1例：SLE＋肺癌疑い

12月16日：第1例：成人T細胞性白血病疑い

「ニッセイ医学セミナーUpdate」(平成23年)

開催月日	テ ー マ	講 師	
2月4日	・小児の食物アレルギー	小児科部長	山根 秀一
3月4日	・消化器一般外科での低侵襲手術	消化器・一般外科	安政 啓吾
4月8日	・今日の乳癌診察 -原因・予防から検診・診断まで-	乳腺外科	橘高 信義
5月13日	・前立腺肥大症の新しい治療戦略 -アボルブ(デュタステライド)の有効性について-	泌尿器科	福井 辰成
7月1日	・がん治療における皮膚障害 -診断と治療、予防対策について-	皮膚科部長	東山 真里
8月5日	・人工関節置換術による 下肢変形性膝関節症の治療	整形外科	三木 宏真
9月9日	・最近の白内障治療について	眼科部長代行	島袋 幹子
10月7日	・産婦人科外来における性感染症の動向	産婦人科担当部長	佐伯 典厚
12月2日	・当科におけるめまい診療 -最近の話題をふまえて-	耳鼻咽喉科	谷口 由希子

「ニッセイ・ベーシック実践医療セミナー」(平成23年)

開催月日	テ ー マ	講 師	
1月27日	・意識障害	循環器・神経内科	仁科 拓也
2月16日	・糖尿病昏睡	総合内科	森田 真也
3月16日	・貧血	血液・化学療法内科 部長	中川 雅史
10月19日	・細菌検査の基礎 -グラム染色からアンチバイオグラムまで-	中央臨床検査部	藤田 育子
11月16日	・危険な不整脈とその対応	循環器・神経内科	長谷川 浩司

## 1年目研修医 オリエンテーション

月 日	講義内容	講師
4月1日(金)	院長説示	寺川院長
	研修医の就業規則、健康診断、その他	職員サービス部
	プログラムの説明など	臨床研修部長
4月4日(月)	プログラムの説明など	臨床研修部長
	電子カルテ基本操作	情報システム室
	看護部と研修(防犯、防災、非常時、緊急時の対応)	看護部
	カルテ記載、病歴管理、文献検索等	診療録管理委員会、診療情報管理室
	レセプト、医療費など	医事G
	化学療法室における点滴実施	化学療法室 認定看護師 島山
4月5日(火)	ローテーション科での研修	各診療科
	医療安全管理体制と安全管理の技術	看護部 東郷副看護部長
	感染防止など	看護部
4月6日(水)	ローテーション科での研修	各診療科
	嚥下障害と栄養管理	NST、消化器・一般外科 黄医師
4月7日(木)	採血、注射、ポンプ、麻薬・抗菌薬、輸血など	看護部
4月8日(金)		
4月11日(月)～12日(火)	看護部と一泊研修	
4月13日(水)	ローテーション科での研修	各診療科
	薬剤処方	薬剤部
	放射線科オーダー・その他	放射線科
	栄養指導	栄養管理室
4月14日(木)	ローテーション科での研修	各診療科
	病診連携	地域医療連携室
	医療生活相談室の利用について	医療生活相談室
	リハビリ依頼について	リハビリテーション室
4月15日(金)	日勤看護研修	看護部
4月16日(土)～17日(日)	夜勤看護研修	看護部
4月18日(月)	ローテーション科での研修	各診療科
	病理剖検、死亡診断書、病理検査	病理診断科
4月19日(火)	ローテーション科での研修	各診療科
	検血、生化学、輸血など	中央臨床検査室
4月20日(水)	ローテーション科での研修	各診療科
	生理機能検査、心エコーの基礎	中央臨床検査室
4月21日(木)	ローテーション科での研修	各診療科
	腹部超音波検査など	中央臨床検査室
4月22日(金)	ローテーション科での研修	各診療科
	細菌検査など	中央臨床検査室
4月25日(月)	ローテーション科での研修	各診療科
	当直、救急	救急診療科 中川医師

平成23年度 看護部継続教育実施状況（院内）

研修会名	年月	内容	参加者数
新人	4月1日、4日、5日	オリエンテーション	14名
	4月6日(水)	記録研修	14名
	4月7日(木)、8日(金)	基礎看護技術演習	14名
	4月15日～21日	シャドウ研修	14名
	4月21日(木)	防災訓練	14名
	5月11日(水)	業務計画立案 看護必要度 インスリン療法など	14名
	6月8日(水)	救急看護 輸液 ローテーション研修の説明など	14名
	7月7日(木)	輸血の看護 人工呼吸器装着中の看護など	14名
	7月19日～8月23日	ローテート研修	14名
	9月2日(金)	看護と経済学 メンタルヘルス 医療安全など	14名
	12月7日(金)	褥瘡予防と当院の委員会活動について	13名
	2月29日	1年の振り返り発表	13名
	レベルⅠステップ1	4月19日(火)	問題解決思考法 倫理的配慮
6月7日(火)		メンバーシップの役割	17名
7月13日(火)		緩和ケア	17名
9月7日(水)		慢性期疾患の看護	18名
11月2日(水)		急性期看護	18名
1月25日(水)		自己の看護の振り返り発表	17名
レベルⅠステップ2	5月24日(火)	リーダーシップ	11名
	7月26日(火)	看護における研究の役割	11名
	10月12日(水)	がん看護3 がん看護の基本的知識と概念	10名
	3月1日(木)	1年間の振り返り発表	10名
臨地実習指導者	5月12日(木)	看護教育課程 実地指導の原理と役割	15名
	6月12日(水)	若者気質・学生の関わりかた 効果的な指導	15名
	12月21日(水)	指導者観の発表	14名
実地指導者 (プリセプター)	4月14日(木)	プリセプターシップとは	13名
	5月18日(水)	プリセプターの学習を支援する	11名
	6月15日(水)	指導者に必要なスキル	11名
	7月20日(水)	新人教育に関する中間報告(教育担当者合同)	14名
	11月22日(火)	新人教育に関する中間報告(教育担当者合同)	14名
	2月22日(水)	プリセプターシップでの学び発表	12名

研 修 会 名	年 月	内 容	参加者数
看護研究	4月13日(水)	研究について	34名
	4月25日(月)	研究計画書の書き方	33名
	8月3日(水)	研究の分析方法	33名
	12月14日(水)	論文の書き方	36名
糖尿病看護	8月17日(水)	フットケア・口腔ケア 糖尿病治療薬	21名
	9月14日(水)	セルフケア支援	21名
退院支援	5月25日(水)	退院支援に求められる看護師の役割 地域連携	15名
	6月29日(水)	退院支援 退院スクリーニング	16名
	9月28日(水)	退院支援の実践1	14名
	10月26日(水)	退院支援の実践2	15名
看護管理	6月10日(木)	昇格者研修	5名
	7月26日(火)	WLBとキャリアプラン 多様な勤務形態	26名
	9月27日(火)	DPC	28名
	12月7日(水)	怒りを科学するアンガーマネジメント	25名
看護助手	7月26日(月)	感染予防(環境を中心に)	13名

平成23年度 看護部継続教育実施状況（院外）

研修会名	年月	内容	参加者数
成人看護 (大阪府看護協会)	平成23年4月	摂食・嚥下障害のある患者の 基本と実際を学ぶ①	2名
がん看護 (大阪府看護協会)	平成23年5月	がん患者の意思決定への支援	1名
医療安全 (大阪府看護協会)	平成23年5月	看護管理者のためのリスクマネジメント	2名
共通 (大阪府看護協会)	平成23年5月	コーチング・コミュニケーション①	2名
感染 (大阪府看護協会)	平成23年5月	看護における感染予防の実際	2名
こころのケア (大阪府看護協会)	平成23年6月	心の病を持つ人への理解と介入方法	1名
新人 (大阪府看護協会)	平成23年6月	新人看護職員教育担当者研修①	1名
医療安全 (大阪府看護協会)	平成23年6月	医療安全管理者研修	2名
共通 (大阪府看護協会)	平成23年7月	一般病棟におけるクリティカルケア (急性・重症患者看護)	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成23年7月	看護職のストレスマネジメント	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成23年7月	看護記録①	1名
感染看護 (大阪府看護協会)	平成23年7月	組織で取り込む感染管理	1名
看護管理 (大阪府看護協会)	平成23年7月	4. ストレスマネジメント	2名
新人 (大阪府看護協会)	平成23年8月	新人のための急変時フィジカルアセスメント①	2名
こころのケア (大阪府看護協会)	平成23年8月	精神領域における看護の専門性	1名
医療安全 (大阪府看護協会)	平成23年8月	医療安全管理者ブラッシュアップ研修	1名
看護管理 (大阪府看護協会)	平成23年8月	2. 看護管理と質評価	2名
看護管理 (大阪府看護協会)	平成23年8月	3. 看護と交渉術	2名
看護研究 (大阪府看護協会)	平成23年9月	統計の使い方	1名
新人 (大阪府看護協会)	平成23年9月	新人のための急変時フィジカルアセスメント②	3名
看護管理 (大阪府看護協会)	平成23年9月	人材育成とコミュニケーション	1名
看護研究 (大阪府看護協会)	平成23年9月	目標管理	1名
指導者 (大阪府看護協会)	平成23年9月	リーダーシップ	1名
成人看護 (大阪府看護協会)	平成23年9月	ストーマ・瘻孔のスキンケア	1名
老年看護 (大阪府看護協会)	平成23年10月	認知症の看護①	2名
看護管理 (大阪府看護協会)	平成23年10月	1. 看護管理と倫理	2名
公開講座 (大阪府看護協会)	平成23年10月	退院調整のためのフォローアップ	2名

研修会名	年月	内容	参加者数
新人 (大阪府看護協会)	平成23年10月	新入会員に対する研修会(無料)	24名
子どもと家族 (大阪府看護協会)	平成23年11月	小児救急看護	1名
新人 (大阪府看護協会)	平成23年11月	医療安全の基本と新人の 起こしやすい事故防止①	2名
成人看護 (大阪府看護協会)	平成23年11月	患者・家族のメンタルサポート	1名
成人看護 (大阪府看護協会)	平成23年11月	褥瘡ケア②	1名
共通 (大阪府看護協会)	平成23年11月	人工呼吸器装着中の看護①	1名
災害看護 (大阪府看護協会)	平成23年11月	災害看護	2名
トピックス (大阪府看護協会)	平成23年11月	オーストラリアの緩和ケア ーオーストラリアのナースプラテクショナーから学ぶ	1名

看護部 長期及びその他の研修

主催	日程	研修会名	受講者
大阪府	4月25日～1月31日	大阪府看護教員養成講習会	中村 美香
大阪府看護協会	8月2日～9月15日	認定看護管理者制度セカンドレベル	田畑 文子
大阪府	9月13日～11月15日	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	堤 早苗

## 講演会・研修会(平成23年)

### 治験講演会(治験管理室主催)【別館講堂にて】

1月7日 演題「治験の現状と将来」  
国立病院機構 大阪医療センター  
院長 楠岡 英雄

### 第7回クリニカルパス大会(クリニカルパス委員会主催)【別館講堂にて】

2月3日 第I部 演題発表  
第II部 講演会  
演題「日生病院におけるパスのメリットと将来性」  
第一三共(株) 学術推進課 医療環境担当  
主査 外山 昭喜

### ニッセイ看護研究会【別館講堂にて】

2月5日 演題  
I 「日生病院におけるがん医療・緩和ケアへの取り組みと地域医療に向けて」  
緩和ケア認定看護師 山本 実加  
II 「Let's enjoy 糖尿病看護ー最近の傾向と日生病院での取り組みー」  
糖尿病看護認定看護師 角南 ちえ子  
III 「院内感染予防から医療関連感染予防へー困っていませんか感染対策?ー」  
感染症看護専門看護師 大野 典子

### 第10回 日生病院ICLSコース【別館講堂にて】

2月6日

### 第5回TQM大会【別館講堂にて】

3月8日 人材育成研究所 立川 義博

### 医療安全講習会(医療安全管理委員会主催)【別館講堂にて】

3月18日 演題  
I 「医療機器安全管理」  
放射線科 医療技能部長 松本 茂一  
中央臨床検査部 臨床工学技士 井上 勇夫  
II 「医薬品による医療事故防止対策」  
薬剤部 副部長 野村 浩英

### 第8回あわぎ産業医セミナー【リーガロイヤルホテルにて】

4月16日 一般講演  
I 「当センターにおけるメンタルヘルスサポートについて」  
総合健診クリニック ニッセイ予防医学センター 谷 玲子  
II 「うつ病の社会復帰と認知機能」  
精神科・神経科 副部長 高橋 励  
特別講演  
「事例から知る最近の職場のメンタルヘルスの動向ーああ実感!ー」  
大阪樟蔭女子大学  
心理学科 教授 夏目 誠

**第5回 市民公開講座【ホテルモントレグラスミア大阪にて】**

5月21日 講演「ここまで進んだC型慢性肝炎の治療  
—怖がらず、あせらず、しかし侮らズ—」  
消化器内科部長・ニッセイ予防医学センター長  
中村 秀次

**院内感染対策 教育講演会（院内感染対策委員会主催）【別館講堂にて】**

7月21日 演題  
I 「H I V感染症の現況 —院内感染対策を中心に—」  
中央臨床検査部 部長 浅野 彰彦  
II 「2011年改訂カテーテル関連血流感染防止CDCガイドラインの紹介」  
感染症看護専門看護師 大野 典子

**第12回 病診連携学術講演会（あわざフォーラム）【リーガロイヤルホテルにて】**

8月27日 講演  
I 「循環器内科における血管内治療の現状について」  
循環器内科・神経内科 副部長 中川 厚  
II 「骨髄腫治療の進歩について」  
血液・化学療法内科 副部長 川上 学  
特別講演  
「健康長寿を目指した高齢者医療」  
大阪大学大学院医学系研究科  
老年・腎臓内科学 教授 樂木 宏実

**生活習慣病センター公開セミナー【別館講堂にて】**

9月10日 第I部「生活習慣病センターへようこそ」  
第II部「アマチュア落語」  
桂文喬主催落語研究会

**医療安全講演会（医療安全管理委員会主催）【別館講堂にて】**

9月30日 演題「院内暴力について」  
大阪警察病院 医療安全管理センター  
次長 山本 道雄

**緩和ケア講演会【別館講堂にて】**

10月1日・2日 P E A C Eに基づくがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会

**人権研修（リスク管理チーム・教育委員会・職員サービス部主催）【別館講堂にて】**

10月6日 演題「個人情報保護と人権」  
事務局長 金尾 文隆

**医療ガスの安全な取扱いに関する研修会（医療ガス安全管理委員会主催）【別館講堂にて】**

10月27日 エア・ウォーター防災棟

**病診連携ニッセイ クリニカル カンファレンス【ANAクラウンプラザ大阪ホテルにて】**

10月29日 演題

I 「鉄剤投与に抵抗性の小球性貧血にて紹介となった症例」

血液・化学療法内科 越智 紗矢香

II 「両上肢閉塞性動脈硬化症に対するインターベンション治療の1例」

循環器内科・神経内科 村西 寛実

III 「発症直後に麻痺性イレウスを合併した劇症1型糖尿病の1例」

総合内科 出口 令子

IV 「IgG4関連疾患と考えられた2症例」

消化器内科 稲次 洋平

ショートレクチャー

「非弁膜症性心房細動患者における新しい経口抗凝固療法

ー直接トロンビン阻害剤の適正使用についてー」

循環器内科・神経内科部長 副院長 濱田 偉文

**治験講演会(治験管理室主催)【別館講堂にて】**

11月4日 演題「医薬品開発における臨床研究の役割」

国立循環器病研究センター 研究開発基盤センター

先端医療・治験推進部

部長 山本 晴子

**第11回 日生病院ICLSコース【別館講堂にて】**

11月6日

**院内感染対策 教育講演会(院内感染対策委員会主催)【別館講堂にて】**

11月25日 演題「感染症胃腸炎について」

中央臨床検査部 技師長補佐 角田 道久

「日生病院の抗菌薬使用量ー全国の病院との比較ー」

薬剤部主任 池田 久雄

**接遇研修会(看護部・日新会・教育委員会・職員サービス部主催)【別館講堂にて】**

11月28日 演題「クレーム対応研修ークレームは「処理」ではなくて「対応」ー」

(株)日本医療事務センター

チーフアドバイザー 大西 嘉子

**第1回 ニッセイ産婦人科内視鏡懇話会【別館講堂にて】**

12月3日 「縫合・結紮ー入門編ー」

平成23年 地 域 医 療

事業等	出務場所	出務日	講師／出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	1月10日(月祝) 10:00～17:00	池原 千衣子	小児科担当
		3月6日(日) 10:00～17:00	村西 寛実	内科担当
		11月13日(日) 10:00～17:00	山根 秀一	小児科担当
	中央急病診療所	1月15日(土) 15:00～22:00	山根 秀一	小児科担当
3か月児健康診査	西区保健福祉センター	毎月第3水曜日 13:30～	池原 千衣子	23年1月～3月度は第1水曜日開催
3歳児健康診査 (内科)	西区保健福祉センター	第1水曜日 13:40～	池原 千衣子	6・9・12月医師増員のため、臨時出務
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉科)	西区保健福祉センター	4月6日(水) 13:45～	今泉 宏哲	
		9月7日(水) 13:45～		
大阪西地域産業 保健センター出務	西区医師会 会議室	8月17日(水) 14:00～15:30	大嶋 正人	労働者からの健康相談
大阪西地域 産業保健センター 拡充センター 出務	西区民センター 第2会議室	3月9日(水) 17:30～19:30	三木 俊治	労働者からの健康相談
		12月15日(木) 17:30～19:30	藤川 正博	

## ボランティア

### 平成23年の活動

年 / 月	主 な 内 容
1 月	ボランティア協会活動時間集計報告（9月～12月）
2 月	ボランティア協会定例研修会参加（2/17）
3 月	交通費支給（1月～3月分）
4 月	ボランティア保険加入（次年度更新）
5 月	ボランティア協会活動時間集計報告（1月～4月） 茶話会（5/26）
6 月	茶話会（6/12）
7 月	ボランティア協会定例研修会参加（7/28） ボランティア健康診断（任意：予防医学センターにて） 交通費支給（4月～6月分）
8 月	
9 月	病院ボランティアの広がりに向けて：研修会（9/17） ボランティア協会活動時間集計報告（5月～8月）
10 月	日本病院ボランティア総会参加（10/27） 日生病院総会（10/28） 交通費支給（6月～9月分）
11 月	インフルエンザ予防接種（任意）
12 月	

当院がボランティアを導入して今年で10年が経過し、現在9名のボランティアの方が活動しています。活動内容は初診・再診手続きをはじめ、患者輸送（車椅子輸送）、診察・検査等場所の案内、移動図書本の管理をお願いしています。

近年、ボランティアを導入している他病院調査でもボランティアの高齢化が進み、存続が難しい状況になってきています。当院でもボランティアの年齢層が高く活動範囲が限られていること、勉強会や研修会参加者が少ないことなどから病院ボランティアの見直しが必要だと考えられます。

ボランティア活動は、患者様の安心感や職員の活性化にもつながり、患者様に気持ちよく受診して頂けると考えております。これからも、患者様サービスの向上に努めたいと思います。

## 院内行事

### 定 例 行 事

日生医学賞授賞式	10月13日
篤志解剖者慰霊祭	11月30日
消防訓練	5月31日、10月31日

### 各 種 イ ベ ン ト

低侵襲パネルイベント	2月15日～2月16日、10月18日～10月19日
看護フェア	5月13日
ニッセイ夏休みこども医療体験	7月29日、8月5日
いい皮膚の日	11月11日
糖尿病フェア	11月17日～11月18日
日生病院コンサート	12月21日
糖尿病教室	火～金曜日
母乳外来	毎週／木曜日
離乳食教室	毎月／第3月曜日
マタニティービクス アフタービクス ベビービクス マタニティーヨガ	毎週／火曜日・木曜日
両親学級	毎週／土曜日
大阪乾癬患者友の会「梯の会」	学習会・定例総会勉強会 年／2回 患者懇談会 年／3回 会報発行 年／4回 幹事会 月／1回
糖尿病患者友の会「錦会」	総会 年／1回 患者懇談会 随時

公益財団法人 日本生命済生会付属

**日 生 病 院**  
第10巻 平成24年 9 月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院サービス・広報委員会

発 行 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院

住 所 550-0012 大阪市西区立売堀 6 丁目 3 番 8 号

T E L 06 (6543) 3581 (代表)

<http://www.nissay-hp.or.jp>



